令和８年度

日高橋外２橋　橋梁補修工事

設　計　図　面

［ 実 施 ］

角　田　市

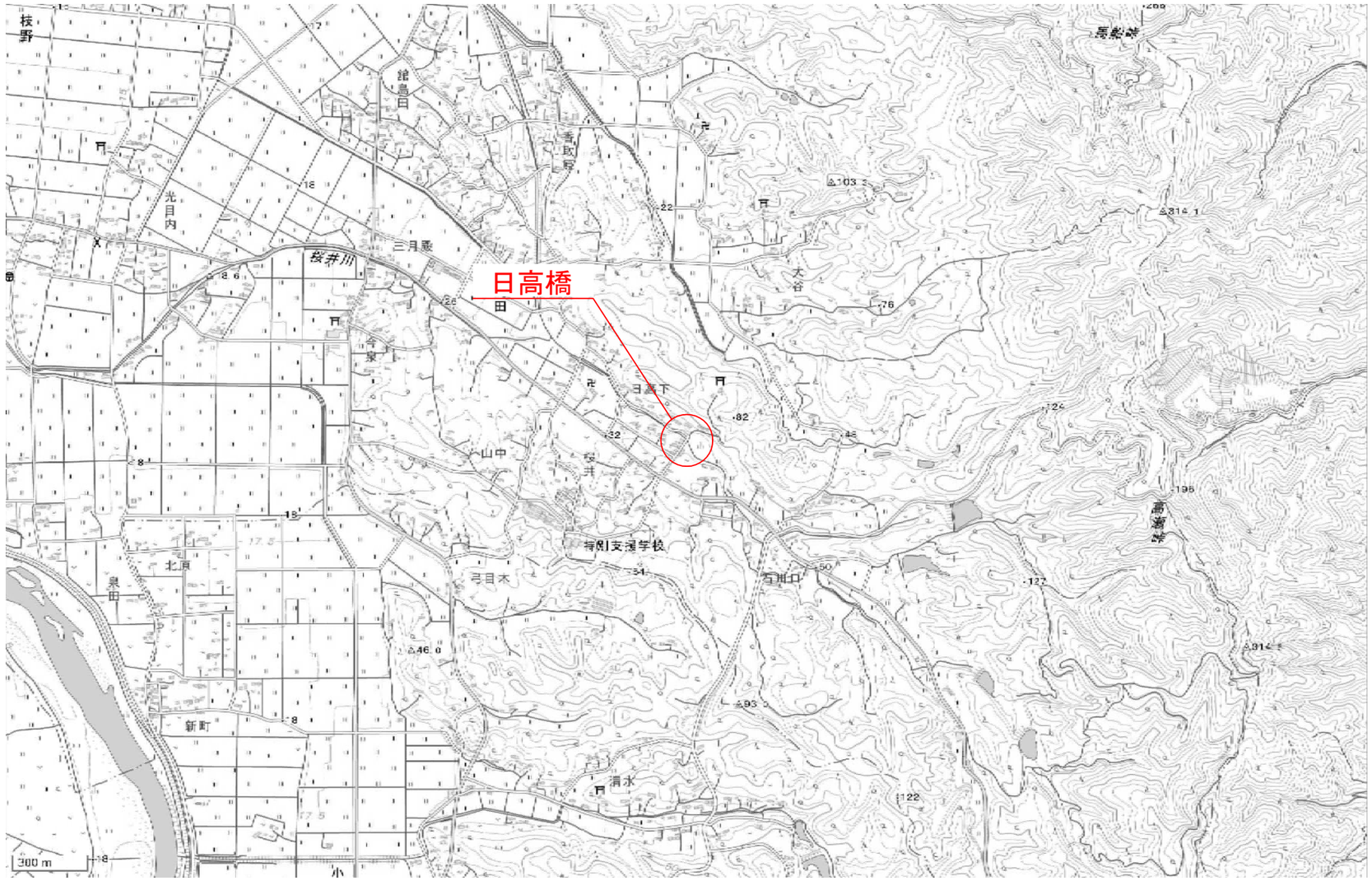
令和８年度　日高橋外２橋　橋梁補修工事　［ 実 施 ］

図　面　目　録

図面番号	図　面　名	縮 尺	葉 数	図面番号	図　面　名	縮 尺	葉 数
【 日高橋 】				【広畑橋】			
1	日高橋　位置図	1：10,000	1	31	広畑橋　位置図	1：10,000	1
2	日高橋　現況一般図	1：50	1	32	広畑橋　現況一般図	1：50	1
3	日高橋　補修一般図	1：50	1	33	広畑橋　補修一般図	1：50	1
4 ～ 5	日高橋　ひび割れ補修工図　（その１）～（その２）	1：50	2	34	広畑橋　上部工ひび割れ補修工図	1：50	1
6 ～ 8	日高橋　断面修復工図　（その１）～（その３）	1：50	3	35	広畑橋　上部工断面修復工図	1：50	1
9 ～ 10	日高橋　塗装塗替え工図　（その１）～（その２）	図　示	2	36	広畑橋　表面保護工図	1：30	1
11	日高橋　伸縮装置補修工図(取替工)【参考図】	図　示	1	37	広畑橋　伸縮装置補修工図(止水対策工)	1：30	1
12	日高橋　簡易舗装工図	1：30	1	38	広畑橋　簡易舗装工図	1：30	1
13	日高橋　河床低下対策工図	1：50	1	39	広畑橋　水切り設置工図	1：20	1
14	日高橋　足場工図【参考図】	1：50	1	40	広畑橋　足場工図【参考図】	1：50	1
15	日高橋　根固め工施工計画図【参考図】	図　示	1				
	【 立町橋 】						
16	立町橋　位置図	1：10,000	1				
17	立町橋　現況一般図	1：50	1				
18	立町橋　補修一般図	1：50	1				
19	立町橋　上部工断面修復工図	1：50	1				
20 ～ 21	立町橋　塗装塗替え工図　（その１）～（その２）	図　示	2				
22	立町橋　伸縮装置補修工図(止水対策工)	図　示	1				
23	立町橋　簡易舗装工図	1：30	1				
24	立町橋　水切り設置工図	図　示	1				
25 ～ 26	立町橋　排水管補修工図　（その１）～（その２）	図　示	2				
27 ～ 28	立町橋　河川護岸撤去・復旧図　（その１）～（その２）	1：50	2				
29	立町橋　河床土砂撤去・復旧図	1：50	1				
30	立町橋　足場工図【参考図】	1：50	1				

日高橋 位置図　S=1:10000

N

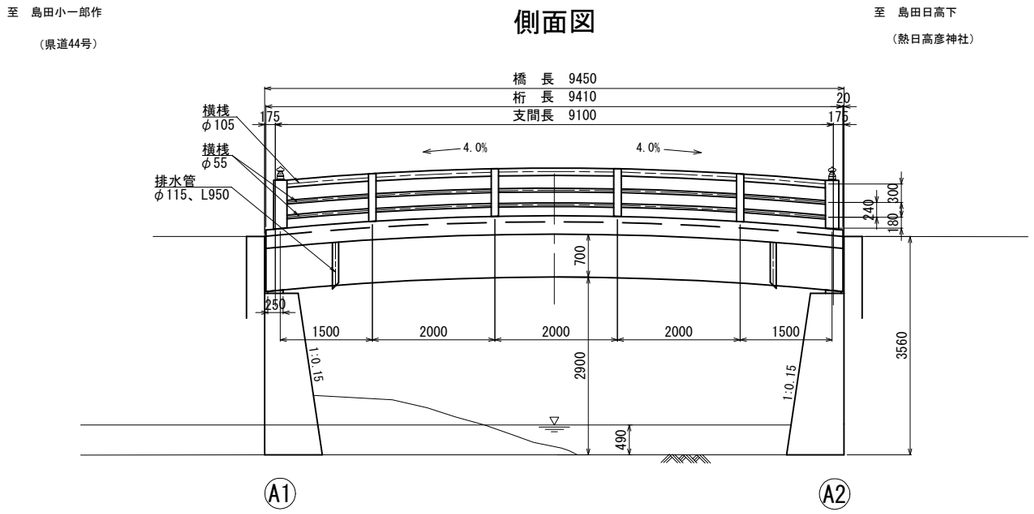


実 施

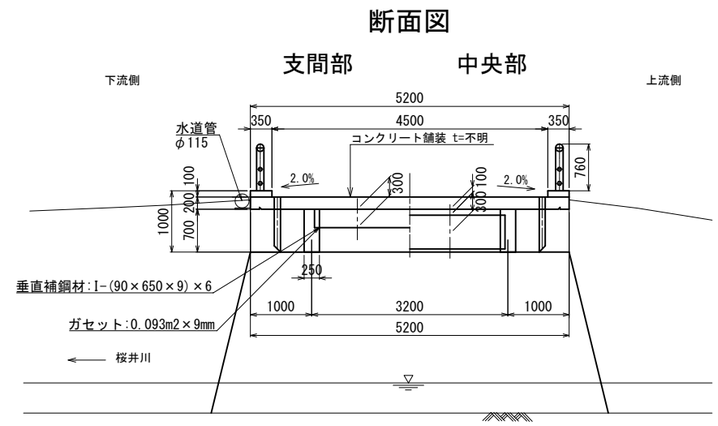
工事番号			
路 線 名	市道　大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内　地内		
工 事 名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図 面 名	日高橋　位置図		
縮　尺	S=1:10000	位置	
設 計 者		設計年度	
宮城県角田市		図番	1 / 40

日高橋 現橋一般図　S=1:50

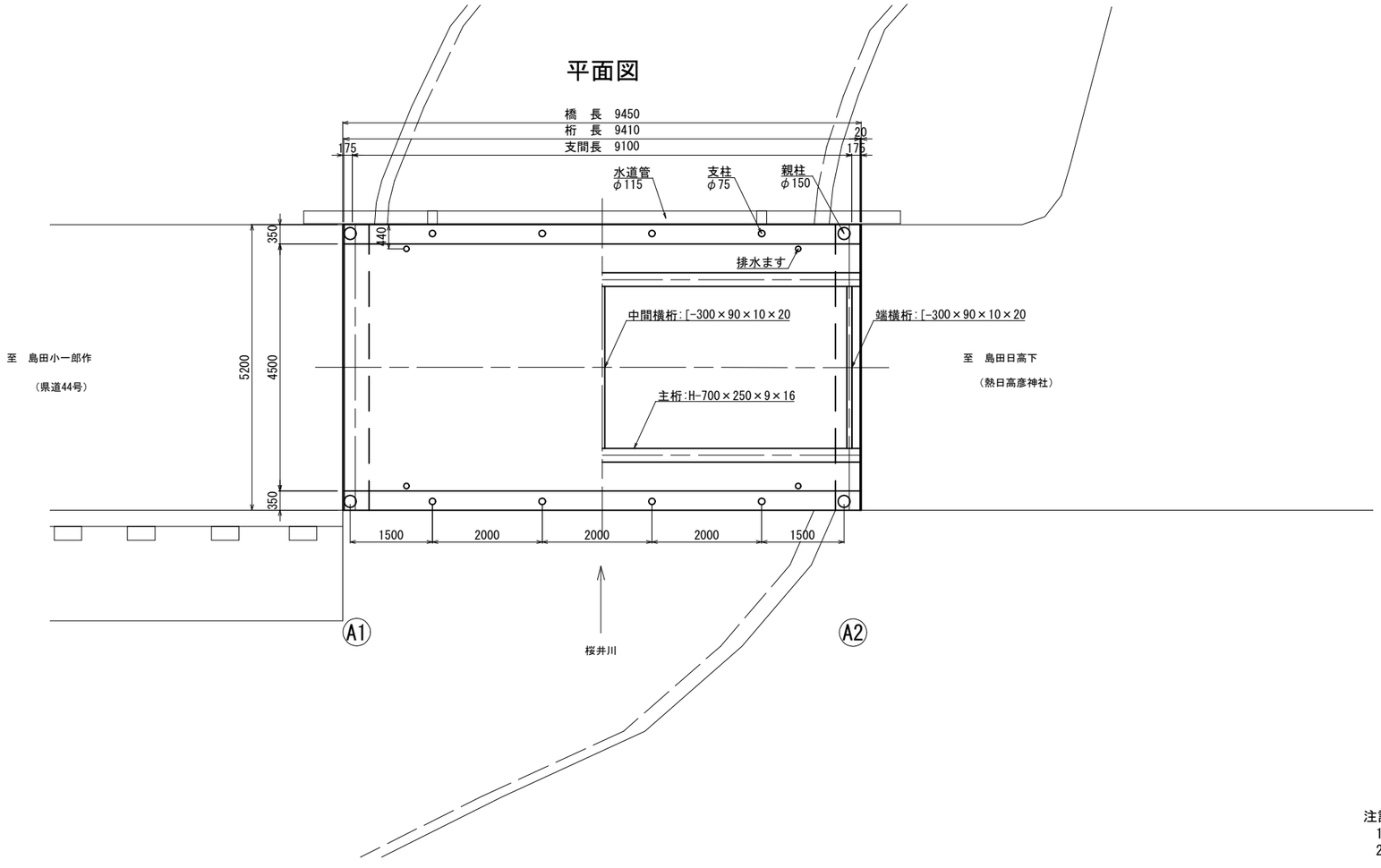
側面図



断面図



平面図



橋　梁　緒　元

橋　　種	河川橋
交 差 条 件	一級河川 桜井川・宮城県管理
路　線　名	大和橋鳥内線
橋　　長	9.45m
支　間　長	9.10m
幅　　員	5.20m(有効幅員 4.50m)
斜　　角	90°
活　荷　重	T-14(二等橋)
添　架　物	水道(φ115)
上部工形式	鋼製H桁橋(鉄筋コンクリート床版)
下部工形式	重力式橋台(推定)
基礎形式	直接基礎(推定)
適用示方書	鋼道路橋設計示書・鋼道路橋製作示方書　S39.6
架　設　年	1969年

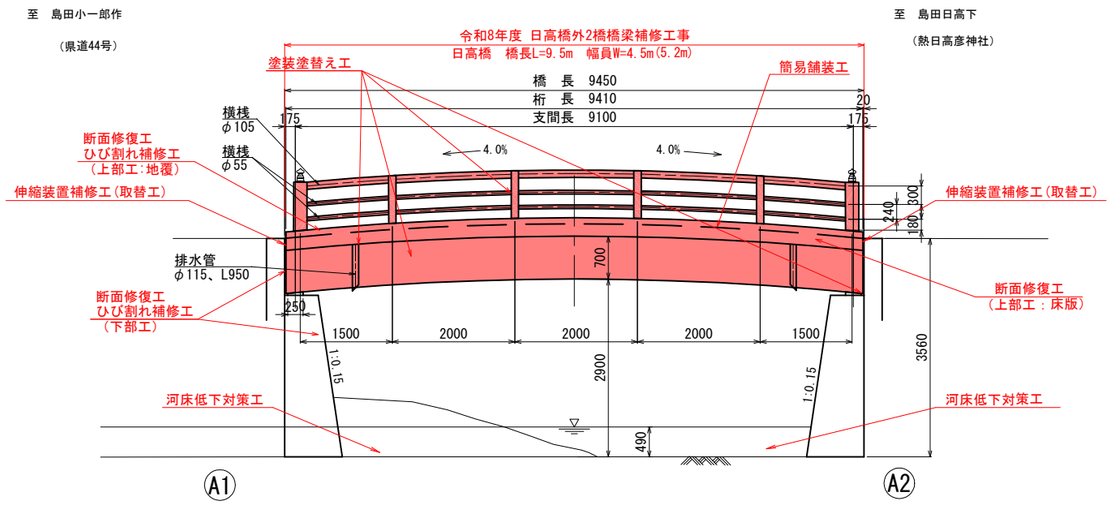
注記）
1. 本図面は、現地計測および既存資料を基に作成したものである。
2. 工事の際は、現地計測を十分に実施した上で、数量の補正等を行うこと。

実 施

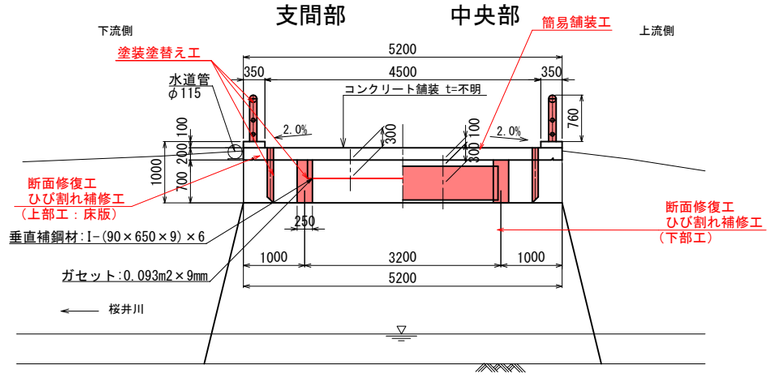
工事番号			
路 線 名	市道　大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内　地内		
工 事 名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図 面 名	日高橋　現橋一般図		
縮　　尺	S=1:50	位置	
設 計 者		設計年度	
宮城県角田市		図番	2 / 40

日高橋 補修一般図　S=1:50

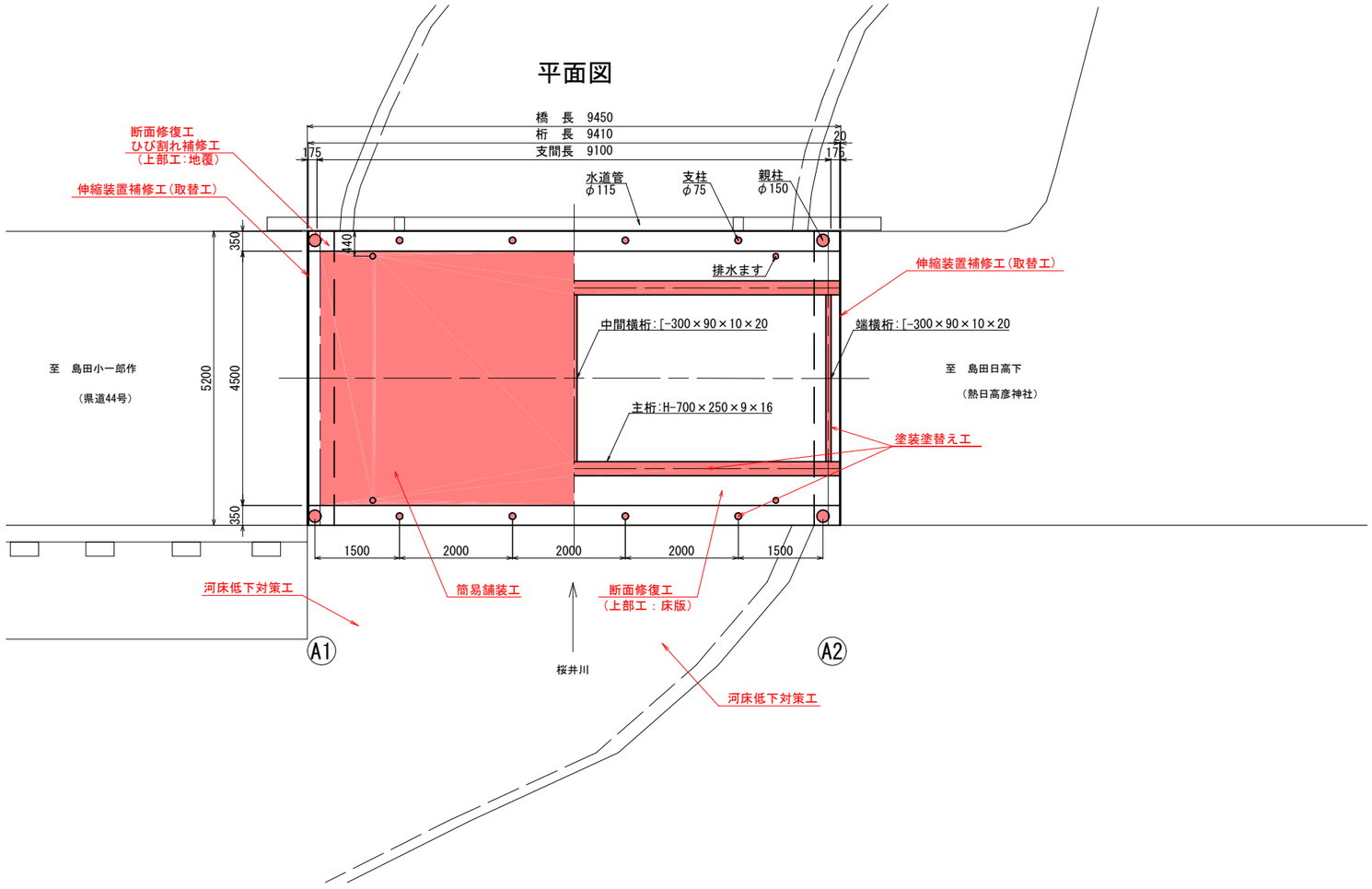
側面図



断面図



平面図



橋梁補修工　項目一覧表

項目			部位
断面修復工	上部工	床版	A1～A2
		地覆	A1～A2
	下部工	胸壁	A1
		竪壁	A1
ひび割れ補修工	上部工	地覆	A1
	下部工	胸壁	A1
		竪壁	A1、A2
塗装塗替え工		主桁	A1～A2
		横桁	A1～A2
		防護柵	A1～A2
		支承部	A1、A2
		排水管	A1～A2
伸縮装置補修工(取替工)		伸縮装置	A1、A2
簡易舗装工		舗装	A1～A2
河床低下対策工		河床	A1～A2

注記）
1. 本図面は、現地計測および既存資料を基に作成したものである。
2. 工事の際は、現地計測を十分に実施した上で、数量の補正等を行うこと。

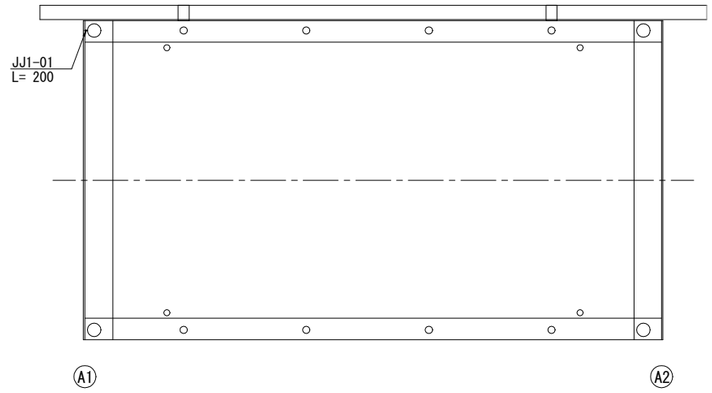
実　施

工事番号			
路線名	市道　大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	日高橋　補修一般図		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	3 / 40

日高橋　ひび割れ補修工図(その1)　S=1:50

上部工

橋面

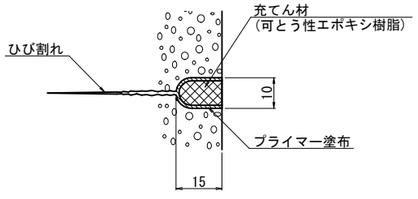


ひび割れ充填工　数量表　(1橋当り)

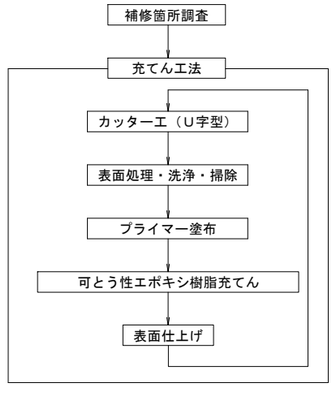
番号	補修箇所	長さ(m)	箇所数	延長(m)	充填材(m3)	充填材(kg)
JJ1-01	地覆	0.200	1	0.20	0.000030	0.0039
			第1径間（A1～A2）小計	0.20	0.000030	0.0039
			合計	0.20	0.000030	0.0039

（ひび割れ幅 1.0mm以上および漏水・遊離石灰発生箇所）
（充填材は可とう性エポキシ樹脂とし、比重は1.3で計上）

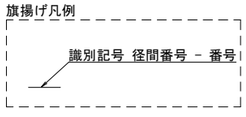
充てん工法 詳細図



施工手順



旗揚げ凡例



識別記号一覧表

	施工箇所	補修項目
JJ0-00	上部工	充てん工法

注記）1. 施工時は、現地寸法を確認すること。
2. ひび割れ補修の範囲は、過年度橋梁点検及び現地調査に基づき決めているが、工事に際しては、劣化範囲の進展の可能性があるため劣化状況を確認すること。
3. 劣化範囲の拡大や新たな劣化部がみられた場合には、施工範囲について監督職員と協議すること。

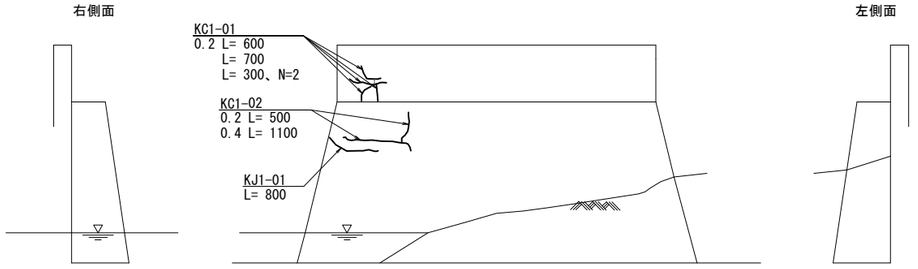
実　施

工事番号			
路線名	市道　大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	日高橋　ひび割れ補修工図(その1)		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	4 / 40

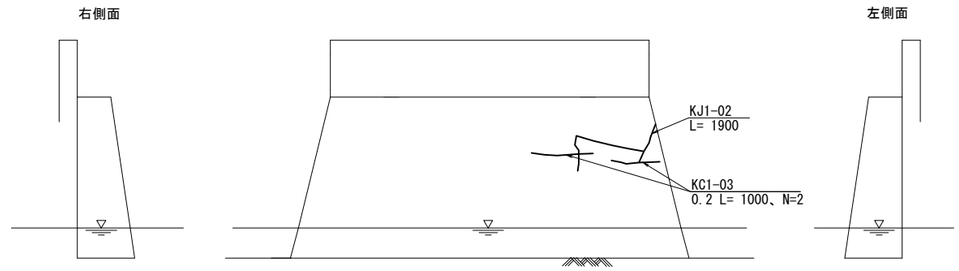
日高橋　ひび割れ補修工図(その2)　S=1:50

下部工

A1橋台



A2橋台



ひび割れ注入工　数量表

(1橋当り)

No.	補修箇所	幅(mm)	長さ(m)	深さ(m)	箇所数	延長(m)	注入材(kg)	ｼｰﾙ材(kg)	注入器具(個)
KC1-01	胸壁	0.20	0.600	0.100	1	0.60	0.014	0.153	2
		0.20	0.700	0.100	1	0.70	0.017	0.179	3
		0.20	0.300	0.100	2	0.60	0.014	0.153	2
KC1-02	竪壁	0.20	0.500	0.100	1	0.50	0.012	0.128	2
		0.40	1.100	0.100	1	1.10	0.053	0.281	4
KC1-03		0.20	1.000	0.100	2	2.00	0.048	0.510	7
第1径間（A1～A2）小計						5.50	0.158	1.404	20
合計						5.50	0.158	1.404	20

（ひび割れ幅 0.2mm以上1.0mm未満）

ひび割れ充填工　数量表

(1橋当り)

番号	補修箇所	長さ(m)	箇所数	延長(m)	充填材(m3)	充填材(kg)
KJ1-01	竪壁	0.800	1	0.80	0.000120	0.156
KJ1-02	竪壁	1.900	1	1.90	0.000285	0.371
第1径間（A1～A2）小計				2.70	0.000405	0.527
合計				2.70	0.000405	0.527

（ひび割れ幅 1.0mm以上および漏水・遊離石灰発生箇所）
（充填材は可とう性エポキシ樹脂とし、比重は1.3で計上）

旗揚げ凡例

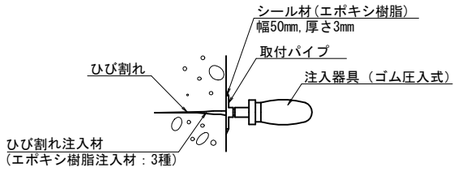
識別記号 － 番号

識別記号一覧表

	施工箇所	補修項目
KC0-00	下部工	低圧注入工法
KJ0-00	下部工	充てん工法

注記）1. 施工時は、現地寸法を確認すること。
2. ひび割れ補修の範囲は、過年度橋梁点検及び現地調査に基づき決めているが、工事に際しては、劣化範囲の進展の可能性があるため劣化状況を確認すること。
3. 劣化範囲の拡大や新たな劣化部がみられた場合には、施工範囲について監督職員と協議すること。

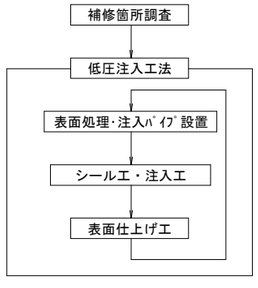
低圧注入工法　詳細図



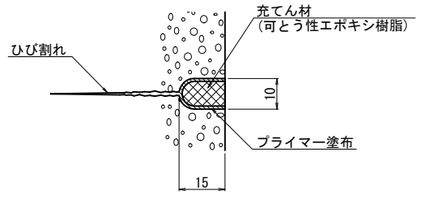
注入器具取付け間隔

ひび割れ幅	間隔
0.2mm～1.0mm	300mm

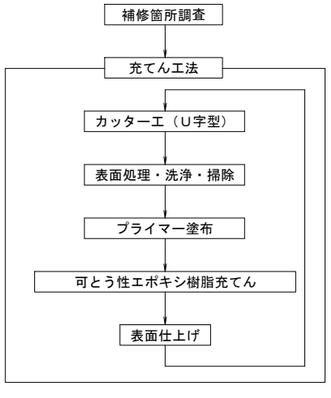
施工手順



充てん工法　詳細図



施工手順



実　施

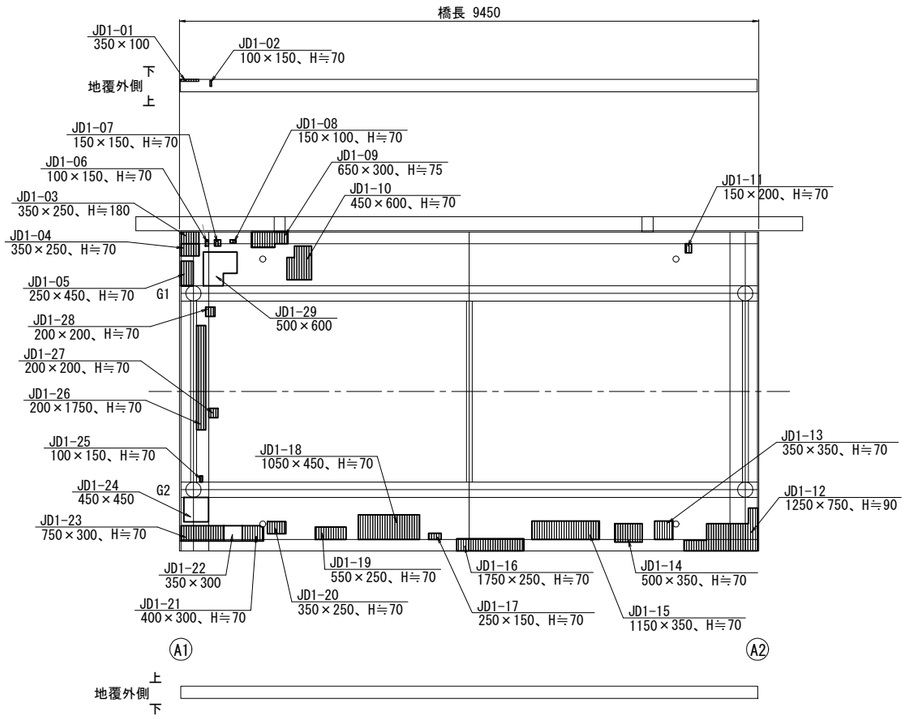
工事番号			
路線名	市道　大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	日高橋　ひび割れ補修工図(その2)		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	5 / 40

日高橋　断面修復工図(その1)

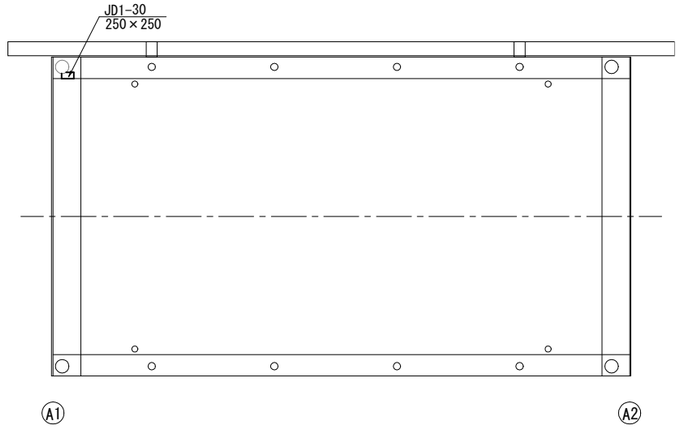
S=1:50

上部工

桁下面



橋面



補修の凡例

補修の種類	表　示
鉄筋ケレン・防錆処理 有り	
鉄筋ケレン・防錆処理 無し	

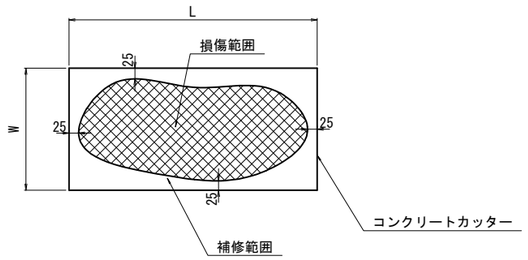
旗揚げ凡例

識別記号 径間番号 － 番号

識別記号一覧表

	施工箇所	補修項目
JD0-00	上部工	断面修復工法

断面修復範囲図

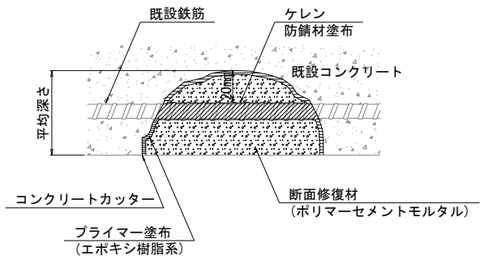


※ 損傷部より25㎜程度の余裕を確保し、
5㎝ラウンドの長方形の範囲に対して断面修復を行う。

注記）1. 施工時は、現地寸法を確認すること。
2. 断面修復の範囲は、過年度橋梁点検及び現地調査に基づき決めているが、工事に際しては、劣化範囲の進展の可能性があるため劣化状況を確認すること。
3. 劣化範囲の拡大や新たな劣化部がみられた場合には、施工範囲について監督職員と協議すること。

断面修復工詳細図(参考)
(鉄筋ケレン・防錆処理を含む場合)

鉄筋露出

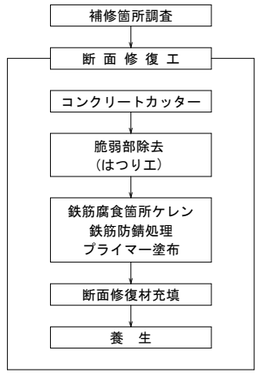


※ コンクリートのはつりは、損傷部を囲む長方形の範囲に対して
深さ10㎜程度コンクリートカッターにより切込みを入れる。

※ 脆弱部および鋼材の裏側までコンクリートをはつり取る。

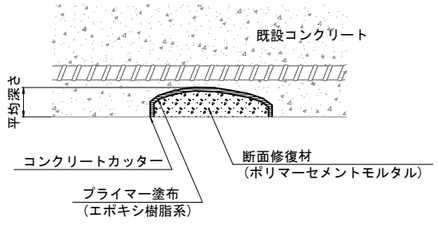
※ 腐食した鋼材の錆を完全に除去する。

施工手順



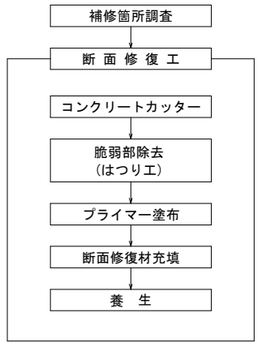
断面修復工詳細図(参考)
(鉄筋ケレン・防錆処理を含まない場合)

コンクリート剥離、うき



※ コンクリートのはつりは、損傷部を囲む長方形の範囲に対して
深さ10㎜程度コンクリートカッターにより切込みを入れる。

施工手順



実施

工事番号			
路線名	市道　大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	日高橋　断面修復工図(その1)		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	6 / 40

日高橋　断面修復工図(その2)

上部工

断面修復工 数量表（鉄筋ケレン・防錆処理含む）

（1橋当り）

No.	補修箇所	幅(m)	長さ(m)	深さ(m)	箇所数	面積(m2)	体積(m3)
JD1-01	地覆	0.350	0.100	0.070	1	0.035	0.0025
JD1-02		0.100	0.150	0.070	1	0.015	0.0011
JD1-03		0.350	0.250	0.180	1	0.088	0.0158
JD1-04	床版	0.350	0.250	0.070	1	0.088	0.0062
JD1-05		0.250	0.450	0.070	1	0.113	0.0079
JD1-06	地覆	0.100	0.150	0.070	1	0.015	0.0011
JD1-07		0.150	0.150	0.070	1	0.023	0.0016
JD1-08		0.150	0.100	0.070	1	0.015	0.0011
JD1-09		0.650	0.300	0.070	1	0.195	0.0137
JD1-10	床版	0.450	0.600	0.070	1	0.270	0.0189
JD1-11		0.150	0.200	0.070	1	0.030	0.0021
JD1-12		1.250	0.750	0.090	1	0.938	0.0844
JD1-13		0.350	0.350	0.070	1	0.123	0.0086
JD1-14		0.500	0.350	0.070	1	0.175	0.0123
JD1-15		1.150	0.350	0.070	1	0.403	0.0282
JD1-16	地覆	1.750	0.250	0.070	1	0.438	0.0307
JD1-17	床版	0.250	0.150	0.070	1	0.038	0.0027
JD1-18		1.050	0.450	0.070	1	0.473	0.0331
JD1-19		0.550	0.250	0.070	1	0.138	0.0097
JD1-20		0.350	0.250	0.070	1	0.088	0.0062
JD1-21		0.400	0.300	0.070	1	0.120	0.0084
JD1-23		0.750	0.300	0.070	1	0.225	0.0158
JD1-25		0.100	0.150	0.070	1	0.015	0.0011
JD1-26		0.200	1.750	0.070	1	0.350	0.0245
JD1-27		0.200	0.200	0.070	1	0.040	0.0028
JD1-28		0.200	0.200	0.070	1	0.040	0.0028
第1径間（A1～A2）小計						4.491	0.3433
合計						4.491	0.3433

断面修復工 数量表（鉄筋ケレン・防錆処理含まない）

（1橋当り）

No.	補修箇所	幅(m)	長さ(m)	深さ(m)	箇所数	面積(m2)	体積(m3)
JD1-22	床版	0.350	0.300	0.030	1	0.105	0.0032
JD1-24		0.450	0.450	0.030	1	0.203	0.0061
JD1-29	床版	0.500	0.600	0.030	1	0.300	0.0090
JD1-30	地覆	0.250	0.250	0.030	1	0.063	0.0019
第1径間（A1～A2）小計						0.671	0.0202
合計						0.671	0.0202

注記）1. 施工時は、現地寸法を確認すること。
2. 断面修復の範囲は、過年度橋梁点検及び現地調査に基づき決めているが、工事に際しては、劣化範囲の進展の可能性があるため劣化状況を確認すること。
3. 劣化範囲の拡大や新たな劣化部がみられた場合には、施工範囲について監督職員と協議すること。

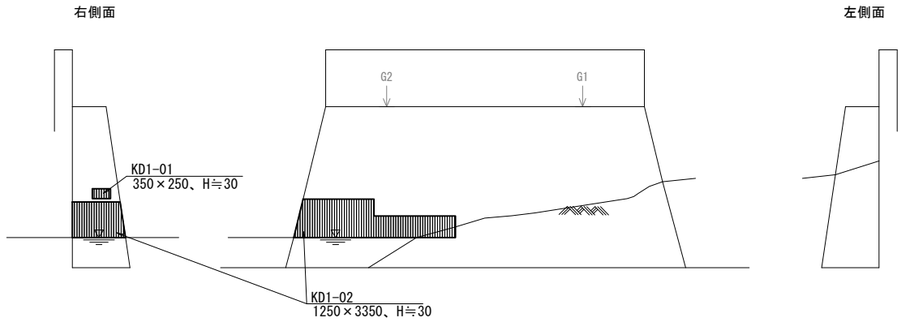
実 施

工事番号			
路線名	市道　大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	日高橋　断面修復工図(その2)		
縮尺		位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	7 / 40

日高橋　断面修復工図(その3)　S=1:50

下部工

A1橋台

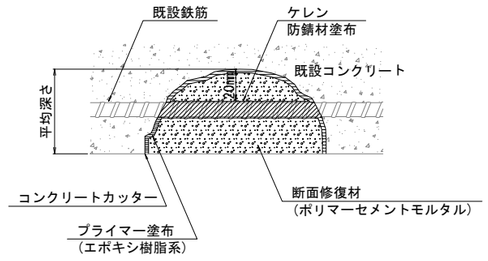


断面修復工 数量表（鉄筋ケレン・防錆処理含む）　（1橋当り）

No.	補修箇所	幅(m)	長さ(m)	深さ(m)	箇所数	面積(m2)	体積(m3)
KD1-01	竪壁	0.350	0.250	0.030	1	0.088	0.0026
KD1-02		1.250	3.350	0.030	1	4.188	0.1256
第1径間（A1～A2）小計						4.276	0.1282
合計						4.276	0.1282

断面修復工詳細図(参考)
（鉄筋ケレン・防錆処理を含む場合）

鉄筋露出

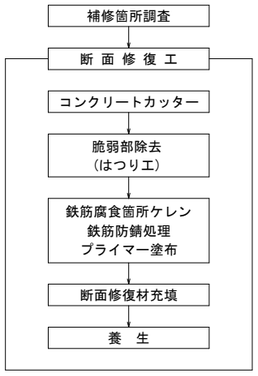


※ コンクリートのはつりは、損傷部を囲む長方形の範囲に対して深さ10㎜程度コンクリートカッターにより切込みを入れる。

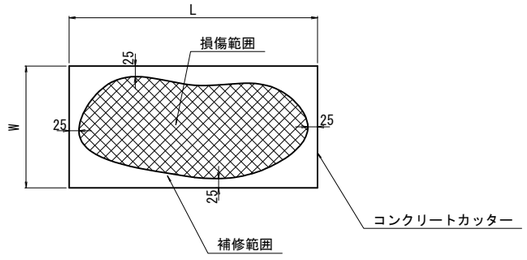
※ 脆弱部および鋼材の裏側までコンクリートをはつり取る。

※ 腐食した鋼材の錆を完全に除去する。

施工手順



断面修復範囲図

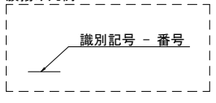


※ 損傷部より25㎜程度の余裕を確保し、5cmラウンドの長方形の範囲に対して断面修復を行う。

補 修 の 凡 例

補修の種類	表　示
鉄筋ケレン・防錆処理 有り	
鉄筋ケレン・防錆処理 無し	

旗揚げ凡例



識別記号一覧表

	施工箇所	補修項目
KD0-00	下部工	断面修復工法

注記）1. 施工時は、現地寸法を確認すること。
2. 断面修復の範囲は、過年度橋梁点検及び現地調査に基づき決めているが、工事に際しては、劣化範囲の進展の可能性があるため劣化状況を確認すること。
3. 劣化範囲の拡大や新たな劣化部がみられた場合には、施工範囲について監督職員と協議すること。

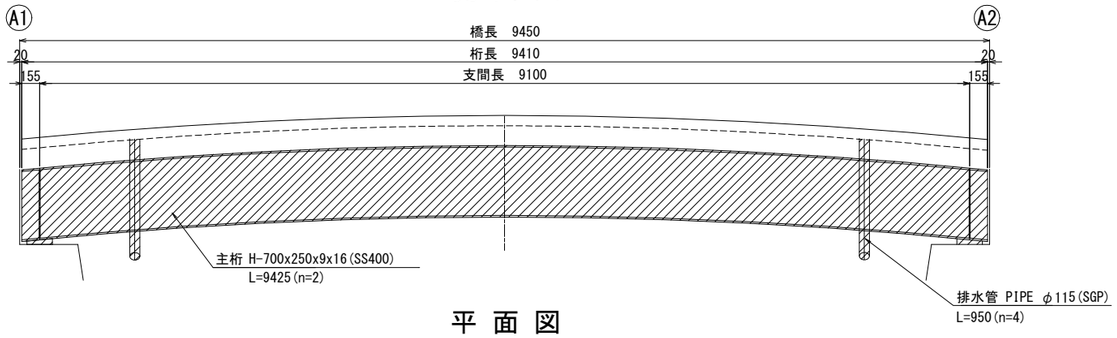
実施

工事番号			
路線名	市道　大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	日高橋　断面修復工図(その3)		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	8 / 40

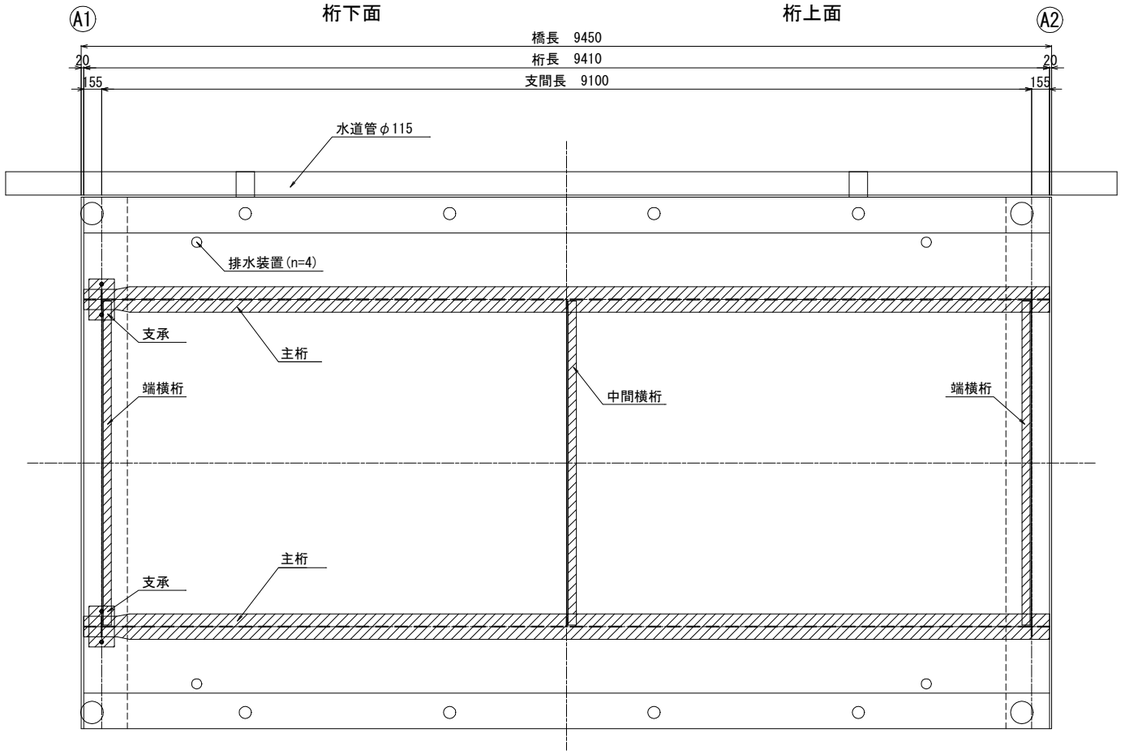
日高橋 塗装塗替え工図(その1) S=1:30

主構造・排水管 塗装塗替え工・角部面取り工

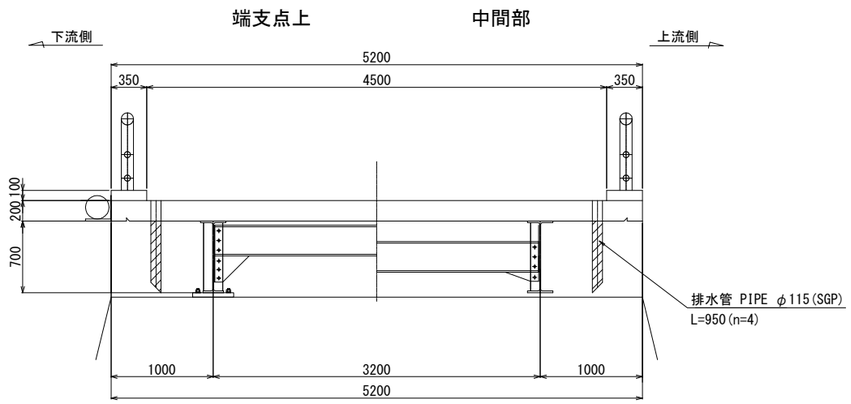
側 面 図



平 面 図

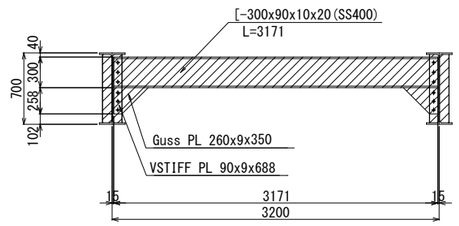


断面図



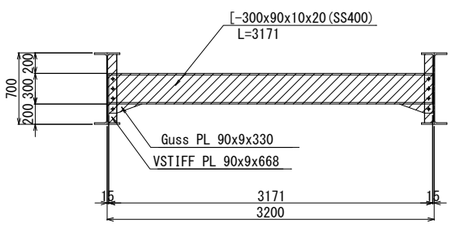
端横桁(A1, A2)

(1径間:2箇所)



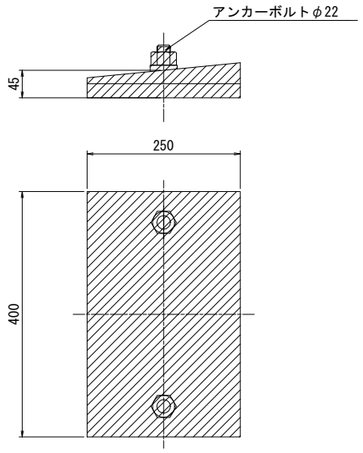
中間横桁

(1径間:1箇所)

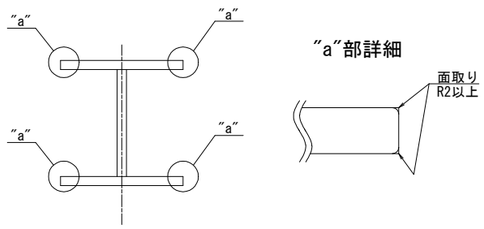


支承 S=1:5

(1径間:4箇所)



角部面取り概要図



塗装部材の角部はすべて面取り加工を施すこと
(上フランジの上面を除く)

長期耐候性錆転換型防食塗装(はけ,ローラー) DECK相当

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m^2)		塗装間隔
素地調整	2種ケレン 塗膜剥離剤(1回塗布)+動力工具			4時間以内
脱脂洗浄	DeCK脱脂洗浄剤同等品		50	
塗装下地	DeCKプライマー同等品	一般部	150	1日
		プラスト面、耐候性鋼材や支承部等凹凸が大きい箇所	250	
下 塗	DeCK下塗り同等品		200	1日
上 塗	DeCK上塗り同等品		180	1日

塗装塗替え工(主構造・排水管) 数量表

(1橋当り)

種 別	細 別	単 位	数量
素地調整工	塗装剥離剤+2種ケレン	m2	47.2
塗装塗替え工	長期耐候性錆転換型防食塗装(はけ,ローラー) DECK相当	m2	47.2
剥離剤	比重:0.75kg/m2相当	m2(kg)	47.2(35.4)

角部面取り工 数量表

(1橋当り)

種 別	細 別	単 位	数量
角部面取り加工	面取りR2	m	157.5

注記)
1. 施工前には現地詳細調査を実施し、施工寸法および数量を確定すること。
2. 既設塗膜は、特定有害物(鉛)を含有しているため、必要な防護措置を行うこと。

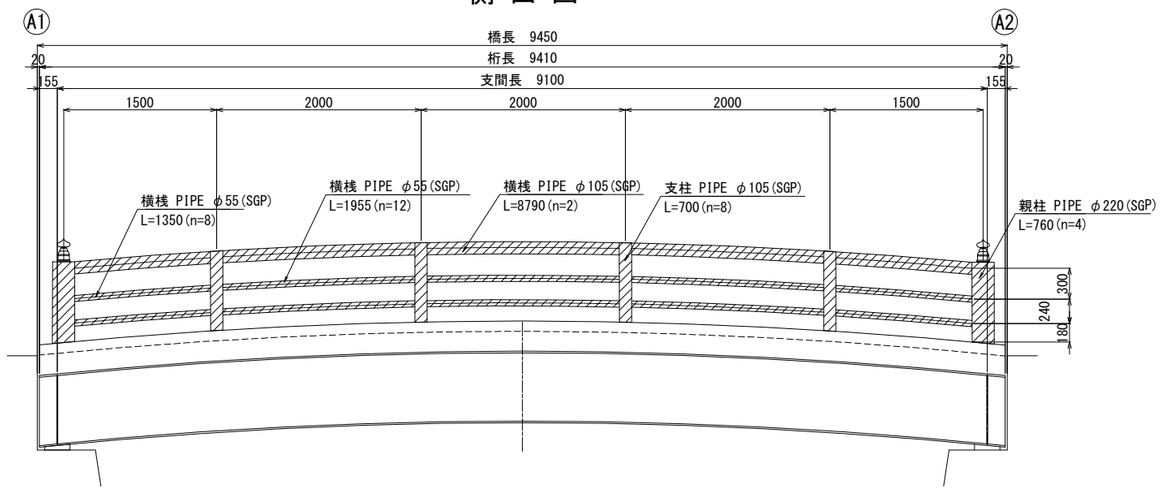
実 施

工事番号			
路線名	市道 大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内 地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	日高橋 塗装塗替え工図(その1)		
縮 尺	図示	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	9 / 40

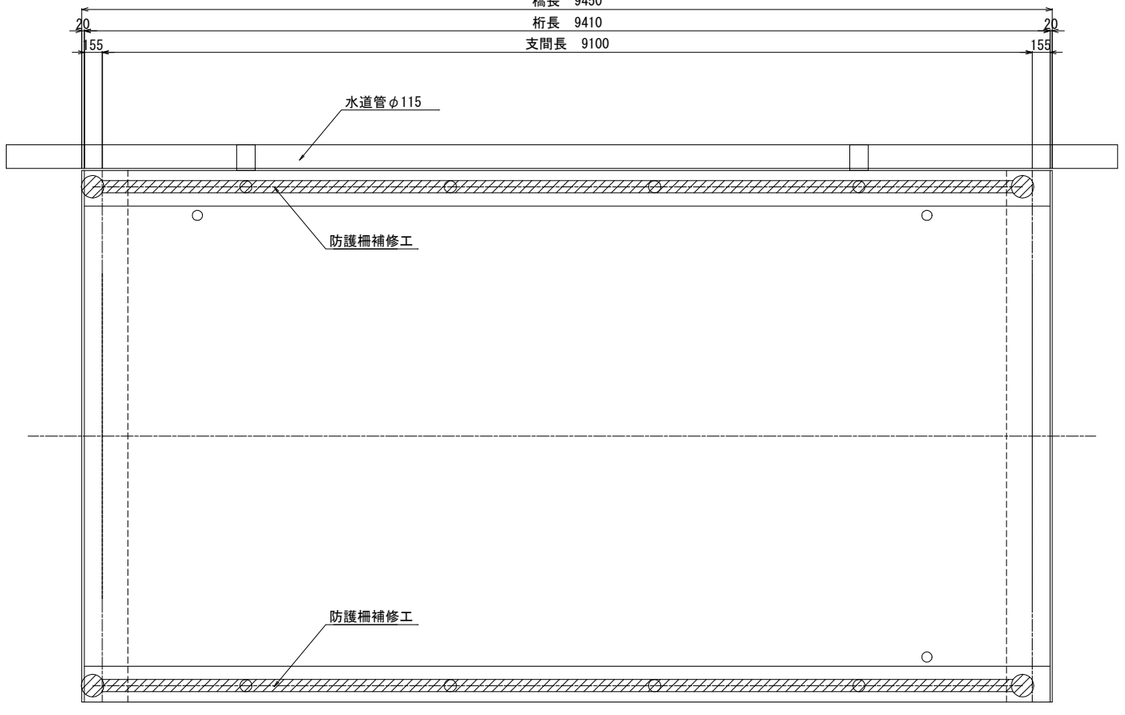
日高橋 塗装塗替え工図(その2) S=1:30

防護柵 塗装塗替え工

側 面 図

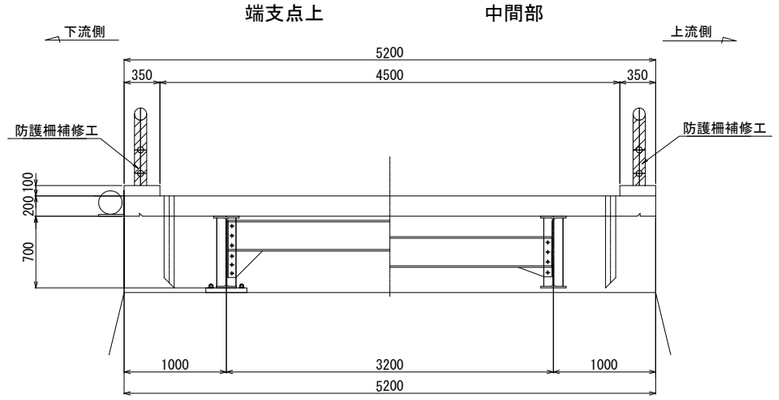


平 面 図



断面図

端支点上　　中間部



長期耐候性錆転換型防食塗装(はけ,ローラー) DECK相当

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m²)		塗装間隔
素地調整	2種ケレン 塗膜剥離剤(1回塗布)+動力工具			4時間以内
脱脂洗浄	DeCK脱脂洗浄剤同等品		50	
塗装下地	DeCKプライマー同等品	一般部	150	1日
		プラスト面、耐候性鋼材や支承部等凹凸が大きい箇所	250	
下 塗	DeCK下塗り同等品		200	1日
上 塗	DeCK上塗り同等品		180	1日

塗装塗替え工(防護柵) 数量表

(1橋当り)

種 別	細 別	単 位	数量
素地調整工	塗装剥離剤+2種ケレン	m2	15.7
塗装塗替え工	長期耐候性錆転換型防食塗装(はけ,ローラー) DECK相当	m2	15.7
剥離剤	比重：0.75kg/m2相当	m2(kg)	15.7(11.8)

注記)
1. 施工前には現地詳細調査を実施し、施工寸法および数量を確定すること。
2. 既設塗膜は、特定有害物(鉛)を含有しているため、必要な防護措置を行うこと。

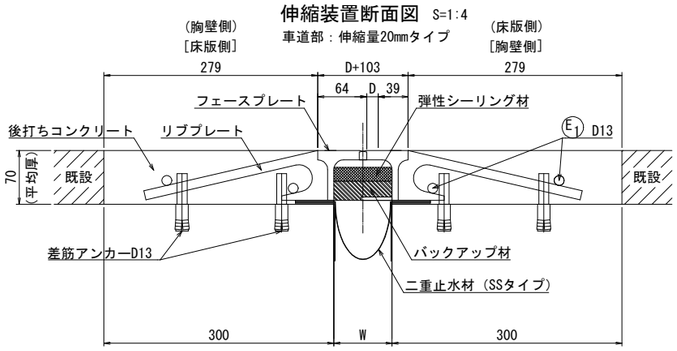
実 施

工事番号			
路線名	市道 大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内 地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	日高橋 塗装塗替え工図(その2)		
縮尺	図示	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	10 / 40

日高橋　伸縮装置補修工図(取替工)【参考図】

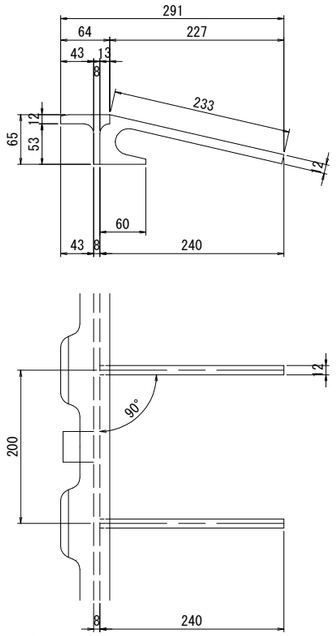
A1橋台、A2橋台

伸縮装置断面図 S=1:4

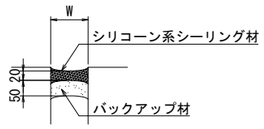


※はつり幅は現地裏込めコンクリート幅により変更のこと
※裏込めコンクリート幅が大きい場合は、差筋アンカー、補強鉄筋を追加すること

リブプレート詳細図 S=1:4



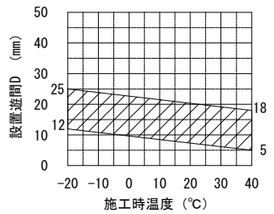
目地処理詳細図 S=1:10



設置遊間表

A1橋台、A2橋台

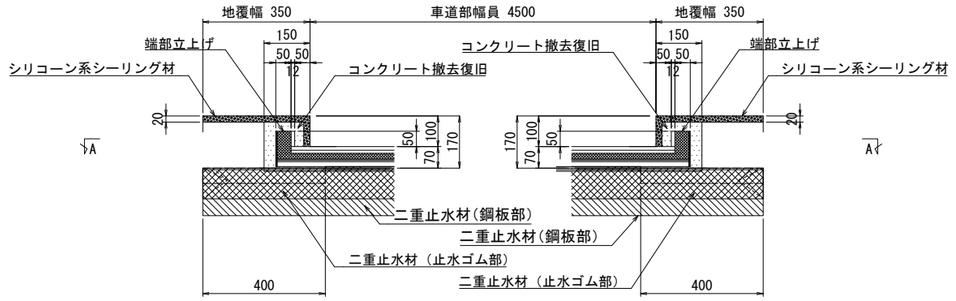
(Move)



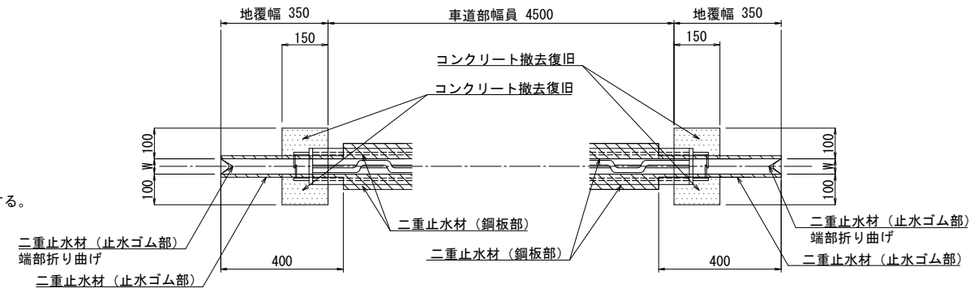
伸縮量：ΔL
ΔL = 0.72 x L x sinθ + 余裕量
= 0.72 x 9.41 x sin90° + 10
= 17mm

※設置表の上下限は余裕量を除いた温度伸縮量とする。

端部処理詳細図 S=1:10

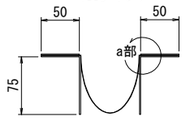


A － A

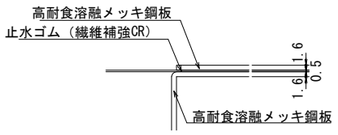


二重止水材詳細図 S=1:4

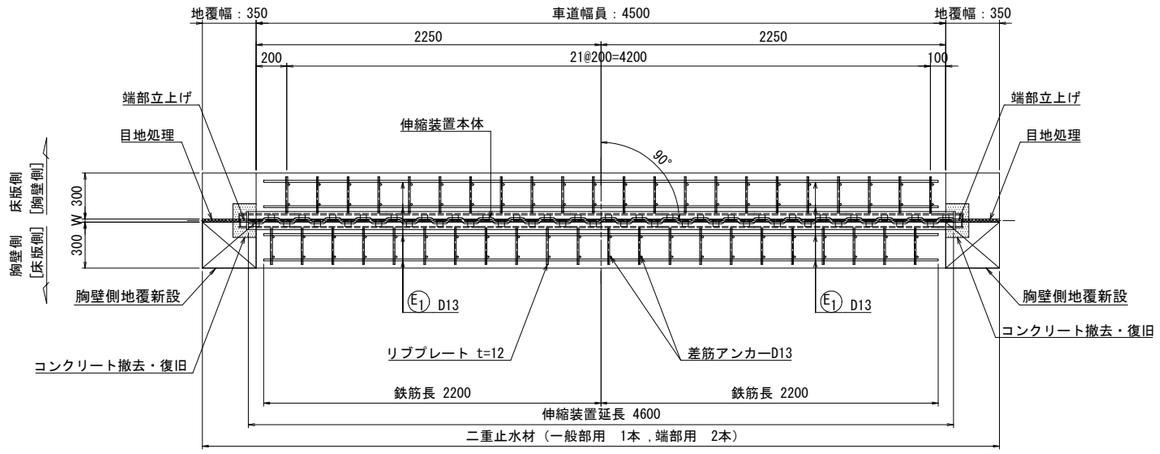
(SSタイプ)



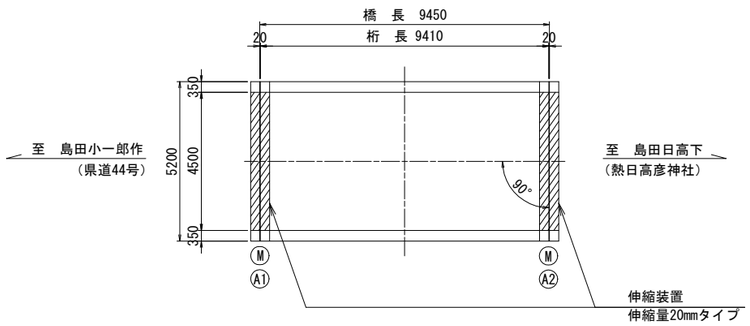
a部詳細図 S=1:1



平面配筋図 S=1:20

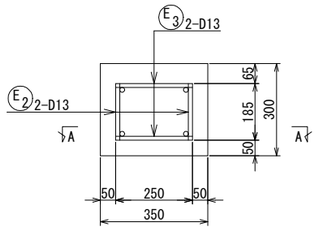


施工位置図 S=1:100

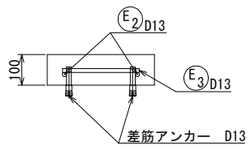


地覆部配筋図 S=1:10

平面図



側面図 A-A



鉄筋加工図 S=1:20



E1 8 - D13 x 2200　　E2 4 - D13 x 190　　E3 4 - D13 x 250

伸縮装置補修工　数量表

(1橋当り)

項　　目	規　　格	単 位	A1側	A2側	合計	摘　　要
伸縮装置本体(車道用)	伸縮量20mm	m	4.60	4.60	9.20	鋼製荷重支持型
地覆端部立上げ	伸縮量20mm, 車道用	個	2	2	4	
コンクリート	超速硬コンクリート	m3	0.22	0.22	0.44	σck=24N/mm2
鉄筋	D13, SD345	kg	20	20	40	
型枠	一般	m2	0.26	0.26	0.52	
異形差筋アンカー	D13, SD345	本	96	96	192	
目地処理		箇所	2	2	4	
はつり工		m3	0.20	0.20	0.40	参考重量：0.94kg
シーリング材	シリコーン系シーリング材	ﾘｯﾄﾙ	0.36	0.36	0.72	
プライマー材	コンクリート用	kg	0.007	0.007	0.014	
バックアップ材		ﾘｯﾄﾙ	5.4	5.4	10.8	
二重止水材	一般用 L=1.800m	本	1	1	2	
	端部用(400) L=2.200m	本	2	2	4	
既設伸縮装置撤去		箇所(m)	2(4.5)	2(4.5)	4(9.0)	鋼製スライドジョイント

鉄筋質量表

(1箇所あたり)

番号	径	長　さ	本　数	単位重量	1本あたりの質量	質　量	形　状	材　質	摘　要
E 1	D13	2200	8	0.995	2.19	18	———	SD345	
2	D13	190	4	0.995	0.19	1	———	SD345	
3	D13	300	4	0.995	0.30	1	———	SD345	
D13 合計						20	kg		
D13 差筋アンカー						96	本		

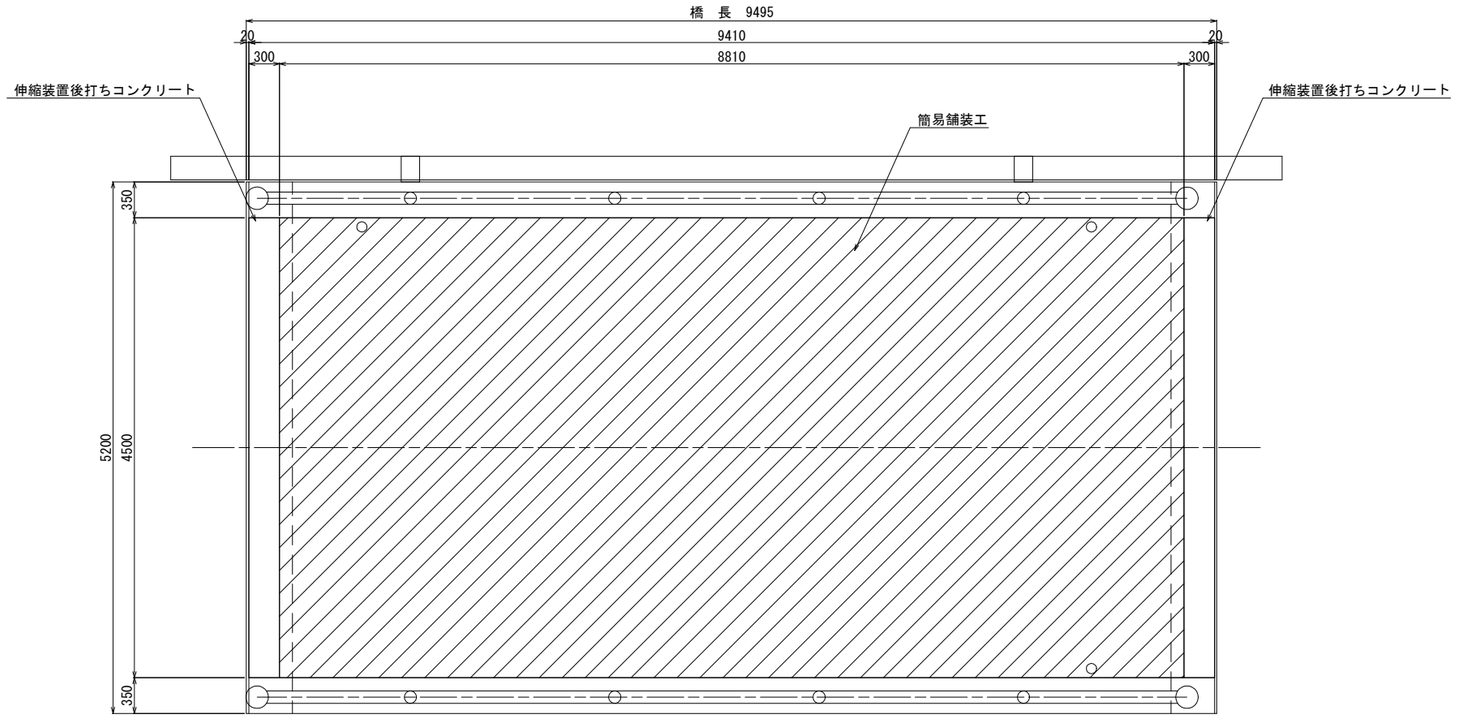
注記
1. 施工延長等は現場実測の上決定すること。
2. 遊間量は現地確認のこと。
3.[ ]内寸法値はA2橋台を示す。

実 施

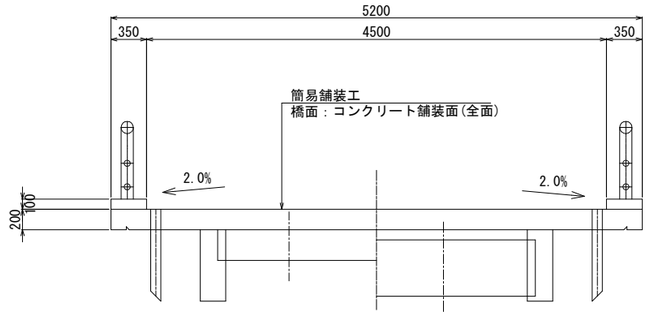
工事番号			
路線名	市道　大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	日高橋　伸縮装置補修工図(取替工)【参考図】		
縮尺	図示	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	11 / 40

日高橋 簡易舗装工図　S=1:30

平 面 図

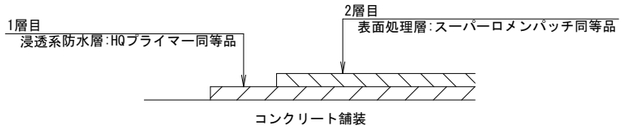


上部工断面図



簡易舗装工仕様

スロメDN工法(相当)



簡易舗装工　数量表

(1橋当り)

工　種	項　目	規格・寸法	単位	数　量
簡易舗装工	防水層塗布	スロメDN工法(相当) t=5mm	m2	39.6

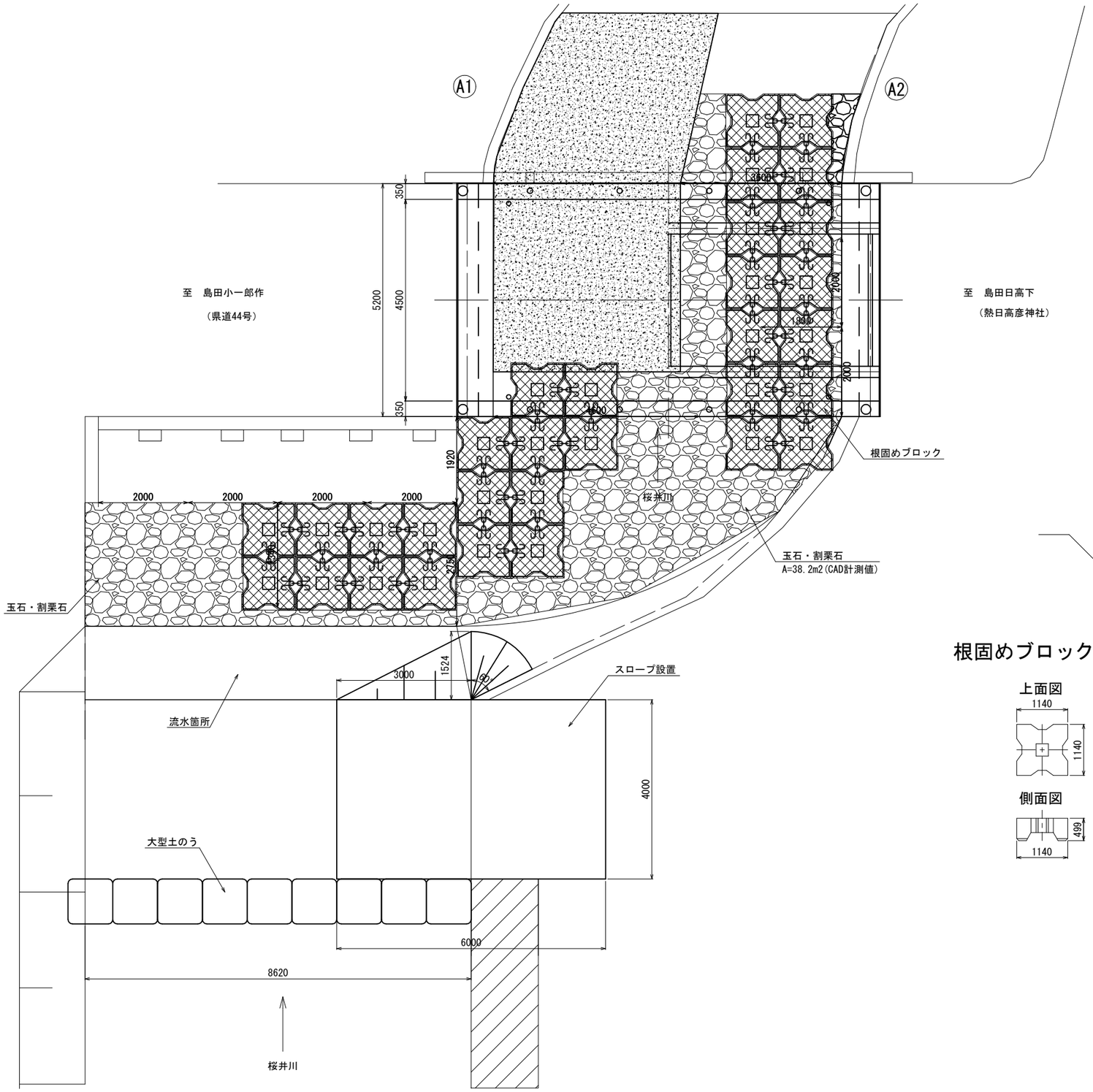
注記） 1.施工前、各工種とも現地詳細調査を実し、
施工寸法および数量を確定すること。

実 施

工事番号			
路線名	市道　大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	日高橋 簡易舗装工図		
縮尺	S=1:30	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	12 / 40

日高橋 河床低下対策工図

平面図　S=1:50

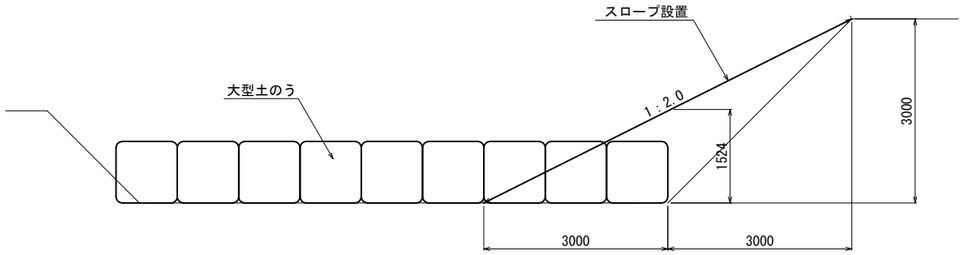


河床低下対策工　　数量表

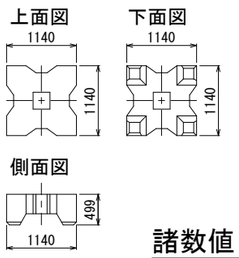
（1橋当り）

工　種	規格・寸法	単位	数　量
根固めブロック	設置面積（1tタイプ）	m2(個)	40.3(31)
フック		個	80
シャックル		個	40
玉石・割栗石	t=300（想定）	m3	11.5
土工(スロープ)	設置・撤去	m3	37.7
大型土のう	設置・撤去	袋	9

仮設工断面図（参考図）　S=1:50



根固めブロック詳細（参考図）



凡例

- 堆積土砂
- 玉石・割栗石
- 根固めブロック

諸数値

項　目	数　値
体　積	0.416 （m³）
型枠有効面積	3.90 （m²）
参考質量	0.902 （t）

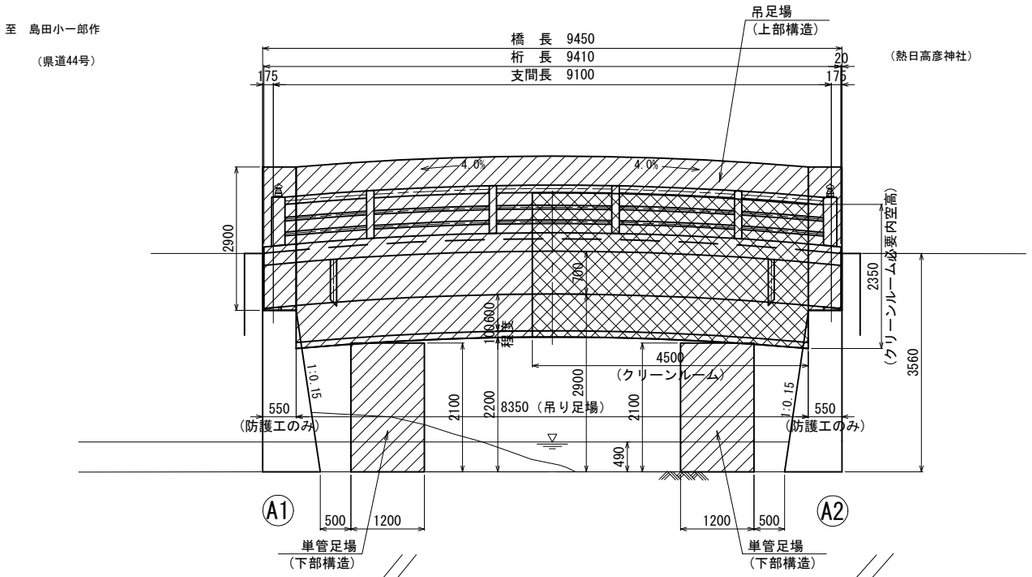
注記）
1. 施工前、各工種とも現地詳細調査を実し、施工寸法および数量を確定すること。
2. 上流側の河床勾配および出水時流速を算出したうえで、根固めブロックの滑動等に関する安定照査を行い、適切な規格を確認すること。
3. 搬入路については、使用する重機に応じて配置計画を適宜見直すこと。
4. クレーンやバックホウを使用する場合は、転倒等の事故が発生しないよう、地盤の支持力等を事前に確認すること。
5. 周辺地盤は軟弱であるため、必要に応じて地盤養生を実施すること。
6. 根固めブロック同士は連結するタイプとする

実　施

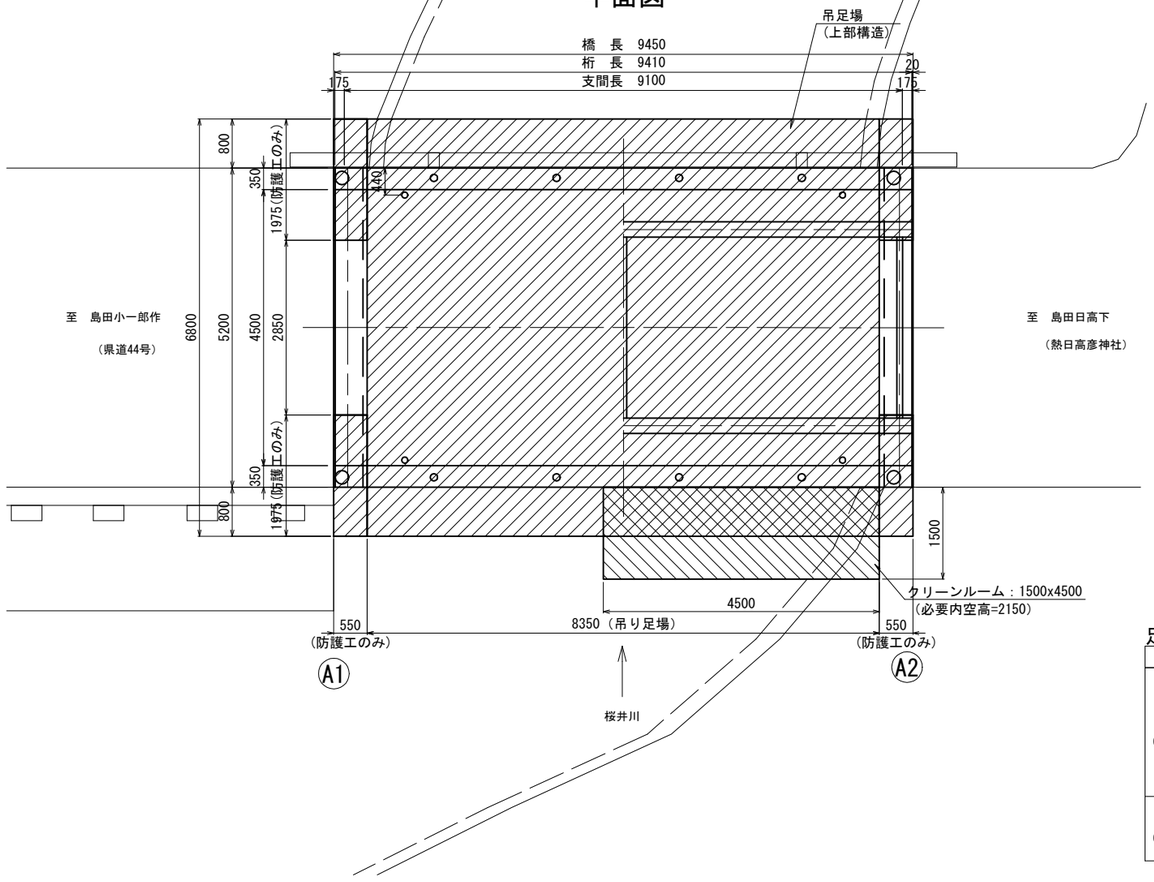
工事番号			
路線名	市道　大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	日高橋　河床低下対策工図		
縮　尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	13 / 40

日高橋 足場工図【参考図】 S=1:50

側面図

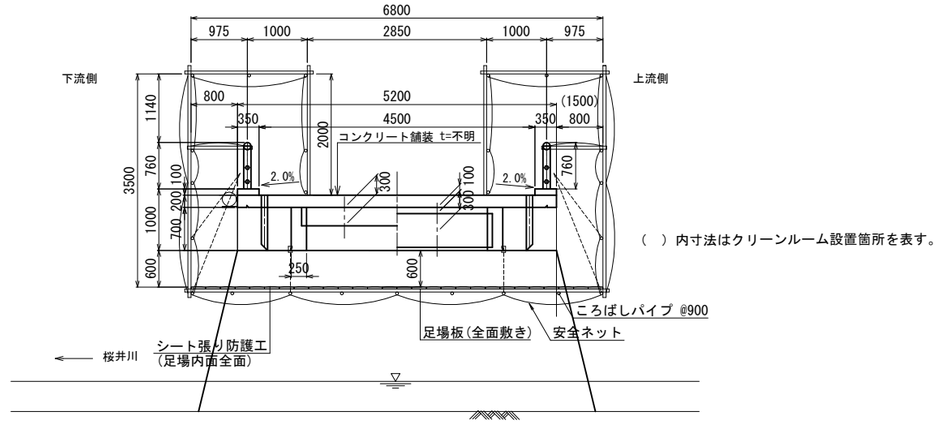


平面図



断面図

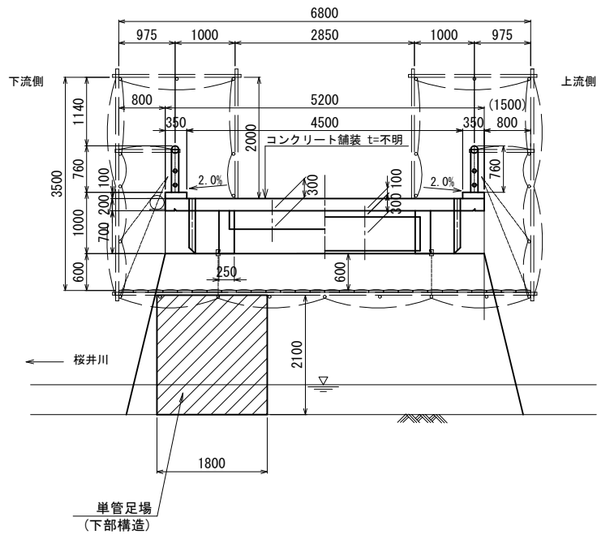
支間部　　中央部



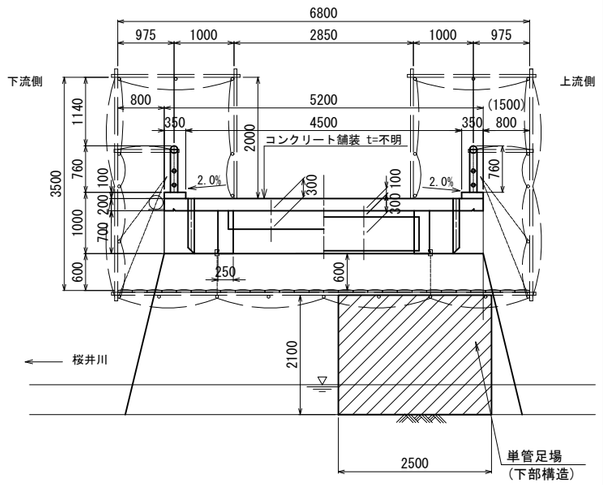
（ ）内寸法はクリーンルーム設置箇所を表す。

※ 塗装塗替工における塗膜剥離施工時は、
専用の養生シートを使用するとともに、
上面も塞ぐ完全防護とすること。

A1正面図



A2正面図



足場工 数量表

（1橋当り）

工 種	項 目	規格・寸法	単位	数 量
足場工（上部構造）	吊足場	中段足場なし	m2	43.4
	防護工	シート・板張り	m2	43.4
	片側朝顔防護足場	シート・板張り	m2	33.0
	塗膜剥離工 養生シート		m2	189.5
	空間体積	ー	m3	173.3
足場工（下部構造）	足場数量	単管足場	掛m2	9.0

注記）

1. 足場工の設置は「橋梁架設工事の積算（令和7年度版）」に準拠している。
2. 施工に際しては、必要に応じて強度計算を行い、適切な部材配置を行うこと。
3. 剥離作業は「労働安全衛生法」「鉛中毒予防規則」「特定化学物質障害予防規則」に基づいて行うこと。
4. 剥離作業や塗装塗替時においては、近隣住民と河川への影響に留意すること。
（シート張り防護工・集塵機設置による対策等）
5. 既設塗膜は、特定有害物（鉛・クロム・PCB等）を含有しているため、必要な防護措置を行うこと。
6. 作業者の人体への影響に留意すること。
（呼吸用保護具・保護衣等の使用）

実 施

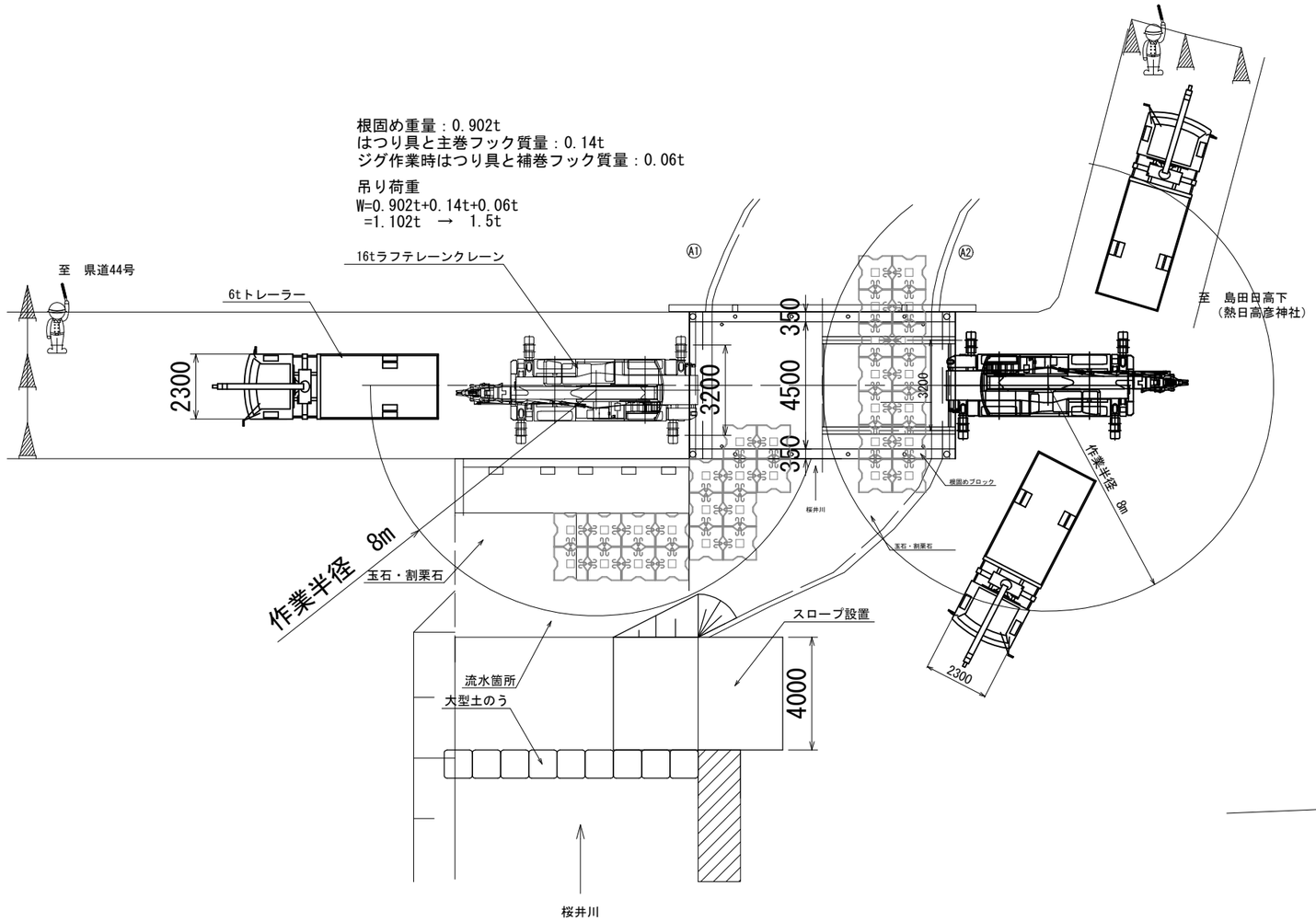
工事番号			
路線名	市道 大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内 地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	日高橋 足場工図【参考図】		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	14 / 40

日高橋 根固め工施工計画図【参考図】

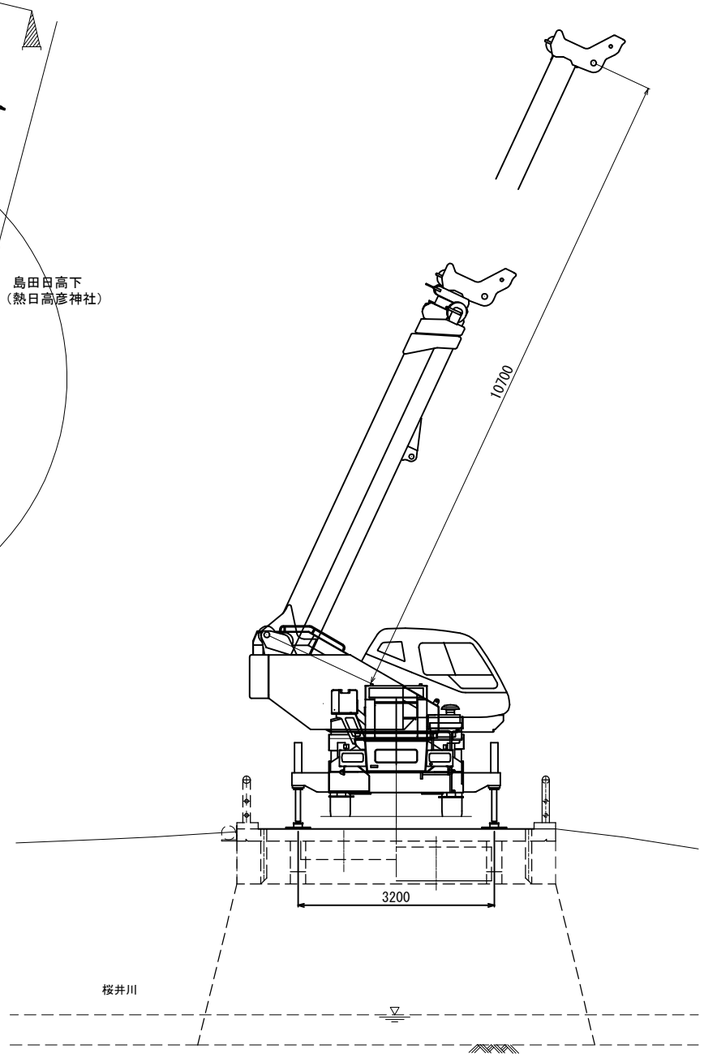
平面図　S=1:100

根固め重量：0.902t
はつり具と主巻フック質量：0.14t
ジグ作業時はつり具と補巻フック質量：0.06t

吊り荷重
W=0.902t+0.14t+0.06t
=1.102t　→　1.5t



断面図



根固め工重量

項　　目	数　　値
体　　積	0.416 （㎥）
型枠有効面積	3.90 （㎡）
参考質量	0.902 （ｔ）

16ｔラフテレーンクレーン　　単位:ton

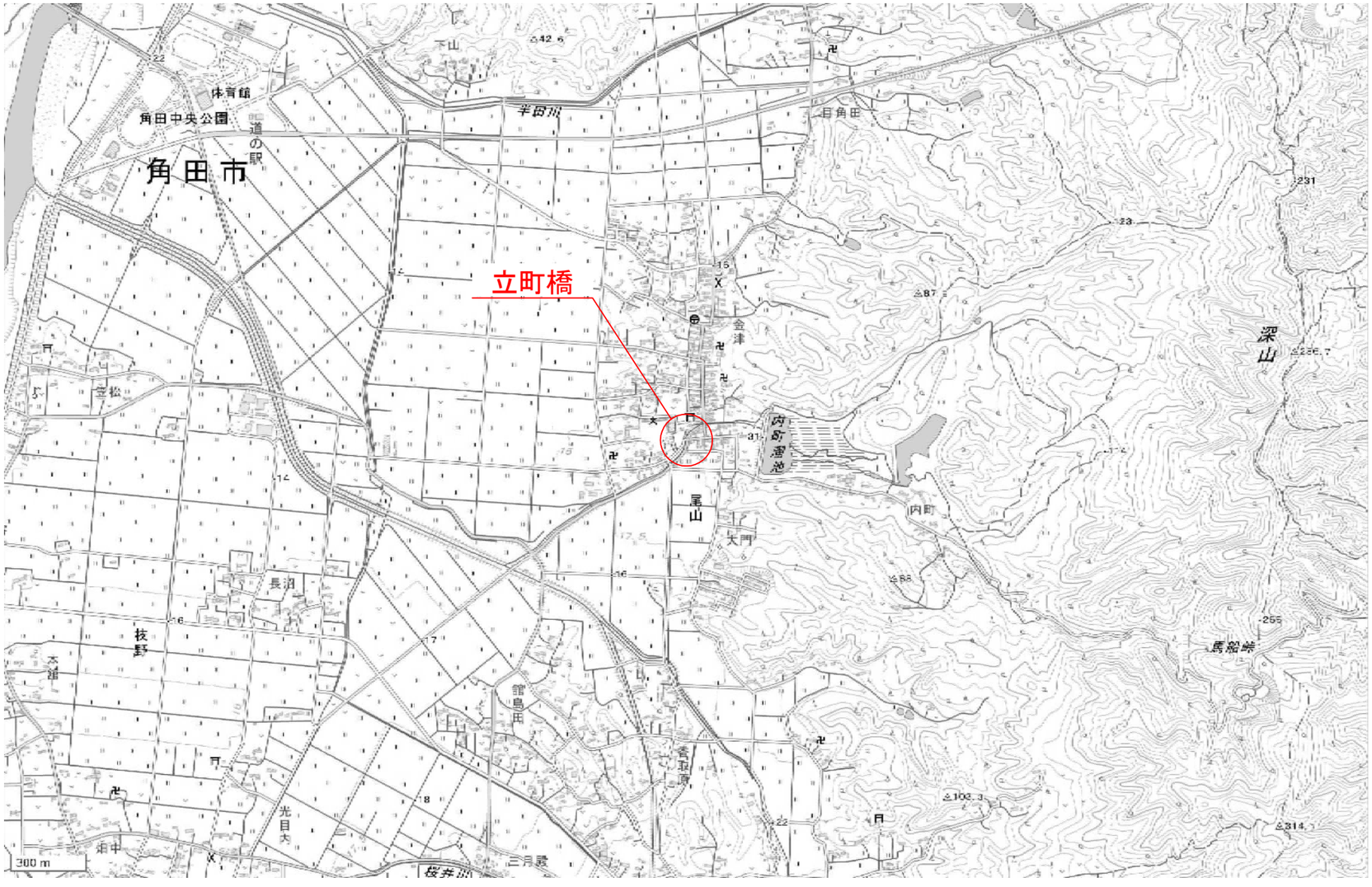
作業半径 (m)	ブームの長さ 6.5m	10.7m	14.9	19.1m	23.3m	27.5m
2.5	16.0	12.0	9.0	7.0		
3.0	14.5	12.0	9.0	7.0		
3.5	10.5	10.4	9.0	7.0	5.0	3.5
4.0	8.0	8.25	7.9	7.0	5.0	3.5
4.5	6.8	6.6	6.5	7.0	5.0	3.5
5.0	(4.4m)	5.45	5.4	5.8	5.0	3.5
5.5		4.6	4.5	4.9	5.0	3.5
6.0		3.9	3.9	4.2	4.4	3.5
7.0		2.9	2.85	3.15	3.3	3.4
8.0		2.15	2.1	2.4	2.6	2.75
9.0		1.8	1.55	1.85	2.05	2.2
10.0		(8.6)	1.1	1.45	1.65	1.8

実　施

工事番号			
路線名	市道　大和橋鳥内線		
施工地名	角田市島田字鳥内　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	**日高橋 根固め工施工計画図【参考図】**		
縮尺	図示	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	15 / 40

立町橋 位置図　S=1:10000

N

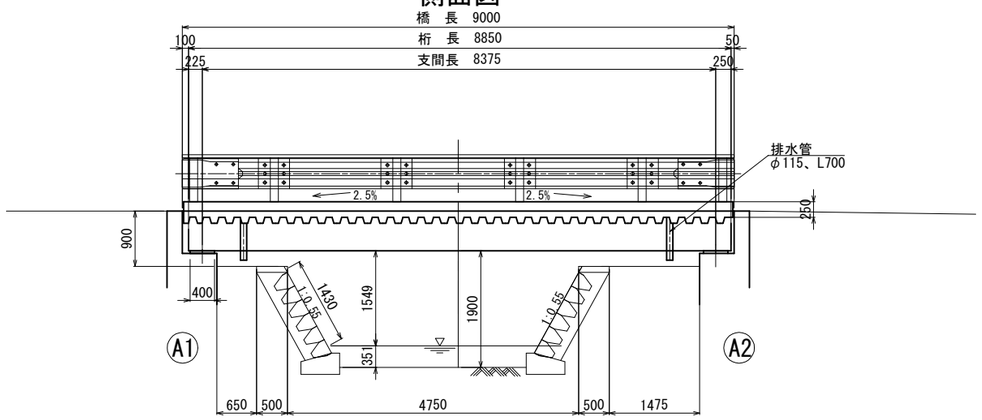


実 施

工事番号			
路線名	市道　上大門五反田線		
施工地名	角田市尾山字上大門　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	立町橋　位置図		
縮尺	S=1:10000	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	16 / 40

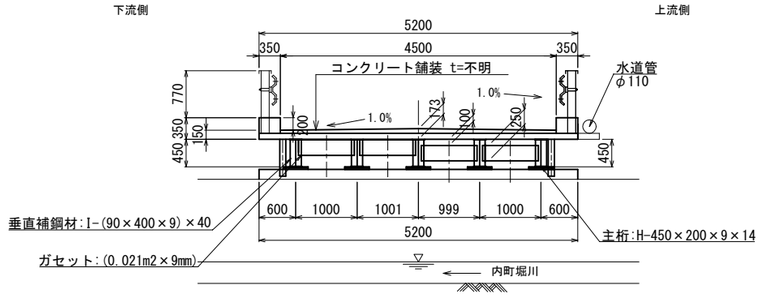
立町橋 現橋一般図　S=1:50

側面図

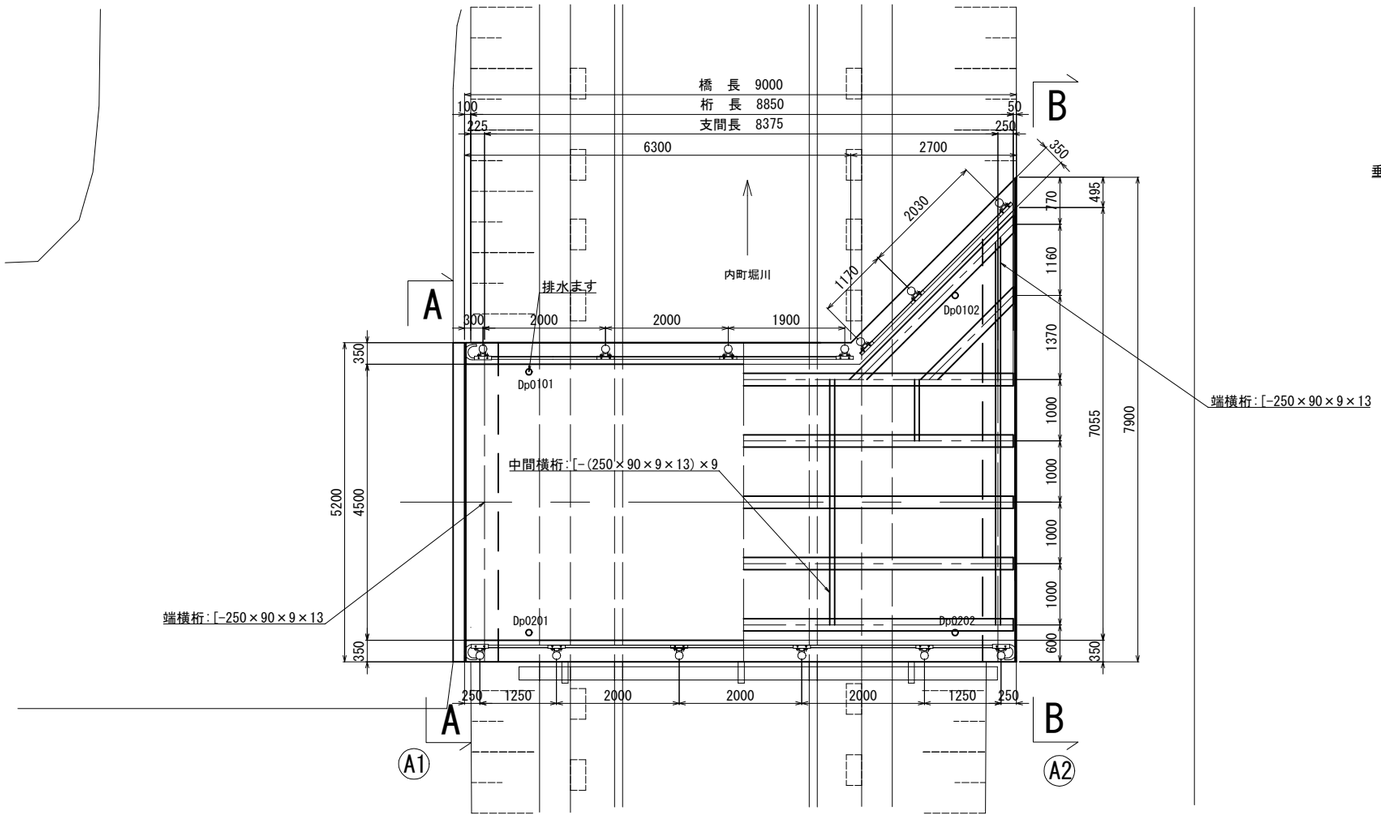


断面図
(A-A)

支間部　　中央部

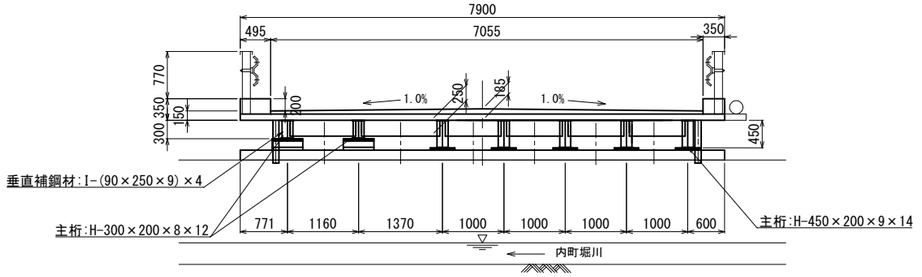


平面図



断面図
(B-B)

支間部　　中央部



橋　梁　諸　元

橋　　種	河川橋
交 差 条 件	一級河川 内町堀川・宮城県管理
路　線　名	上大門五反田線
橋　　長	9.00m
支　間　長	8.375m
幅　　員	5.20～7.90m(有効幅員 4.50～7.055m)
斜　　角	90°
活　荷　重	T-14(二等橋)
添　架　物	水道管(φ110)
上部工形式	鋼製H桁橋(デッキプレート床版)
下部工形式	重力式橋台(推定)
基礎形式	直接基礎(推定)
適用示方書	鋼道路橋設計示書・鋼道路橋製作示方書　S39.6
架　設　年	1972年

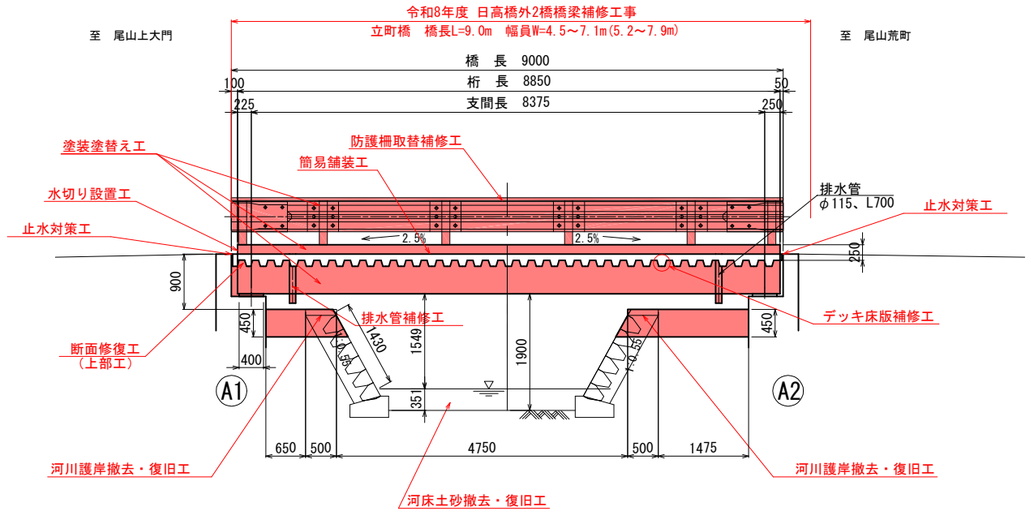
注記）
1. 本図面は、現地計測および既存資料を基に作成したものである。
2. 工事の際は、現地計測を十分に実施した上で、数量の補正等を行うこと。

実　施

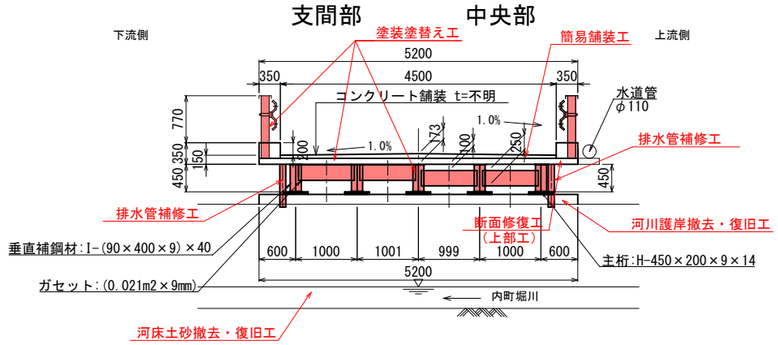
工事番号			
路線名	市道　上大門五反田線		
施工地名	角田市尾山字上大門　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	立町橋　現橋一般図		
縮　尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	17 / 40

立町橋 補修一般図　S=1:50

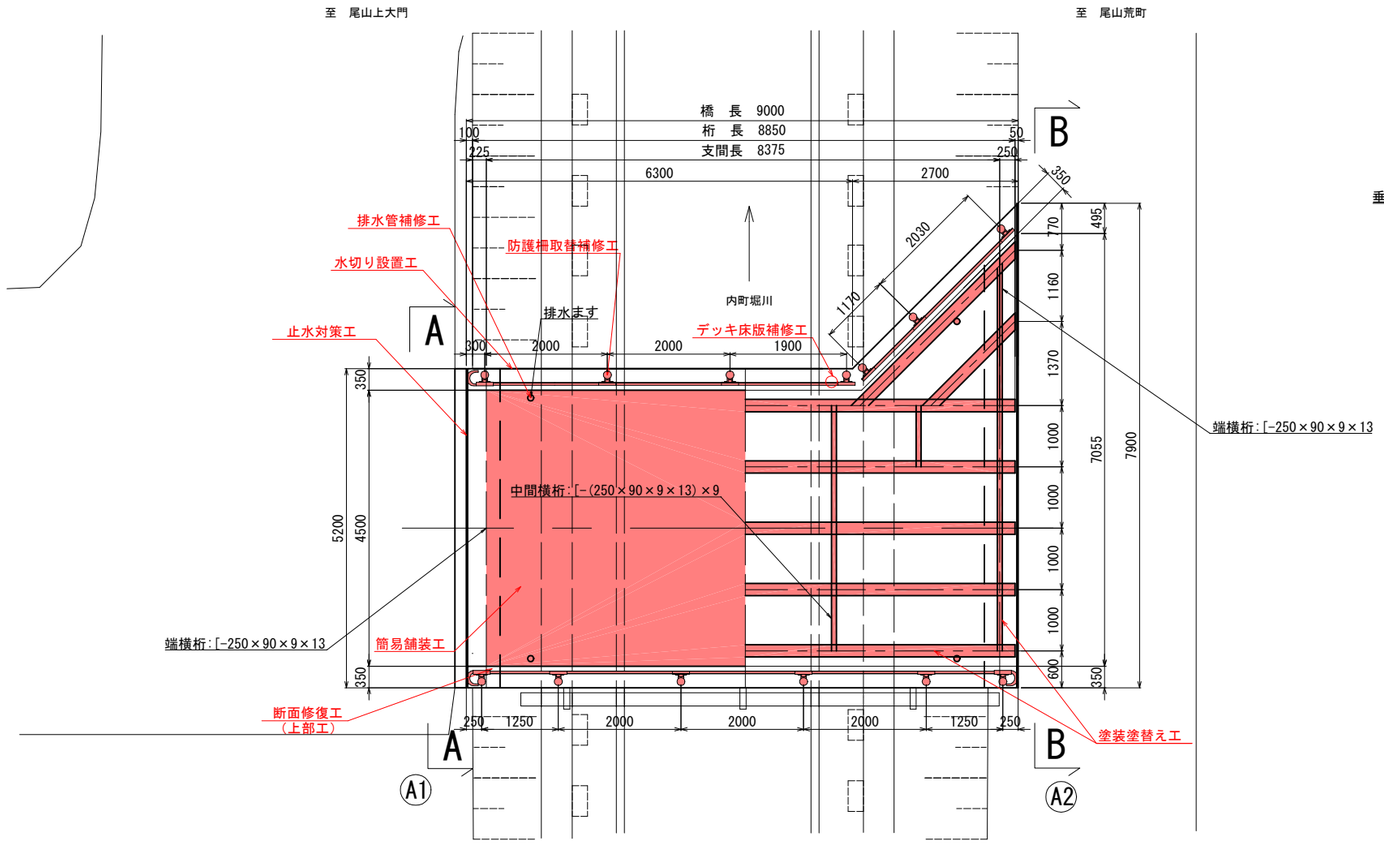
側面図



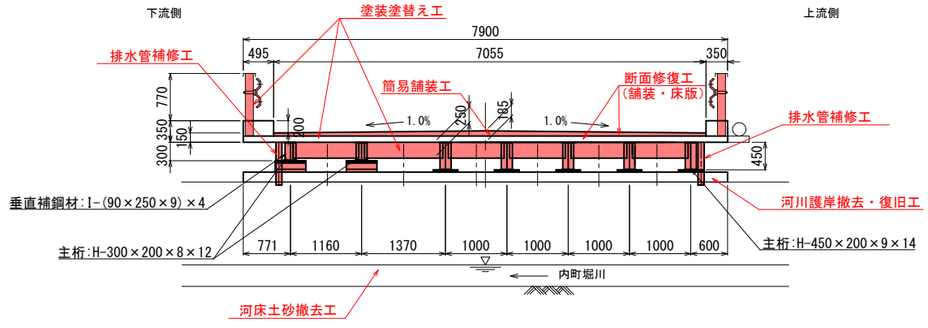
断面図
(A-A)



平面図



断面図
(B-B)



橋梁補修工　項目一覧表

項目			部位
断面修復工	上部工	床版・舗装	A1～A2
塗装塗替え工		主桁	A1～A2
		横桁	A1～A2
		床版	A1～A2
		支承部	A1、A2
		防護柵	A1～A2
		地覆	A1～A2
デッキ床版補修工		床版	A1～A2
止水対策工		伸縮装置	A1、A2
簡易舗装工		舗装	A1～A2
防護柵取替補修工		防護柵	A1～A2
排水管補修工		排水管	A1～A2
河川護岸撤去・復旧工		護岸	A1、A2
河床土砂撤去・復旧工		河床	A1～A2
水切り設置工		地覆	A1～A2

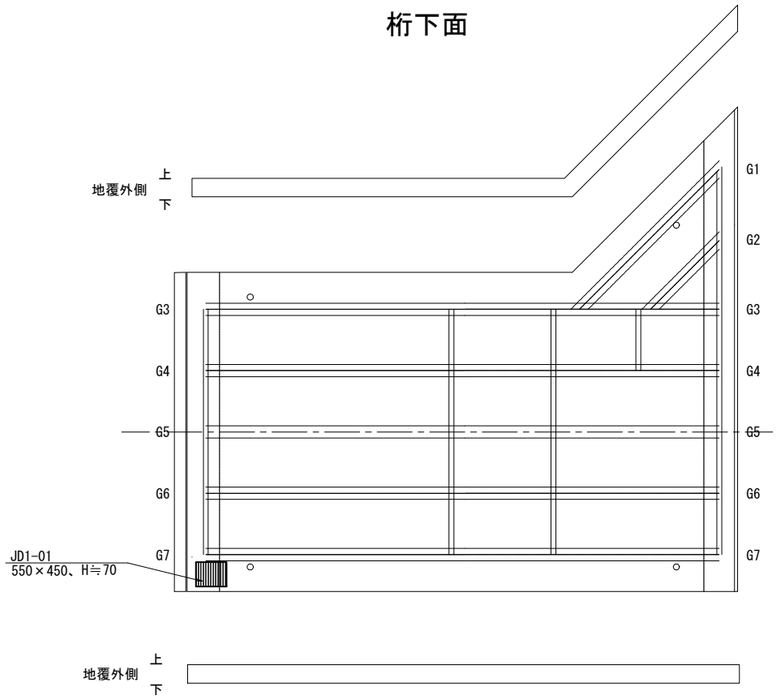
注記）
1. 本図面は、現地計測および既存資料を基に作成したものである。
2. 工事の際は、現地計測を十分に実施した上で、数量の補正等を行うこと。

実　施

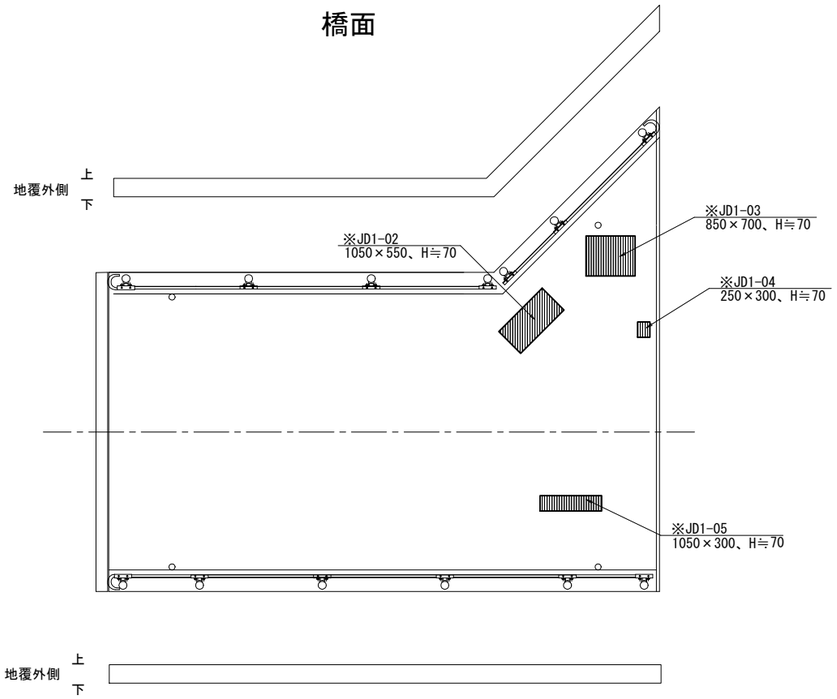
工事番号			
路線名	市道　上大門五反田線		
施工地名	角田市尾山字上大門　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	立町橋　補修一般図		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	18 / 40

立町橋　上部工断面修復工図　S=1:50

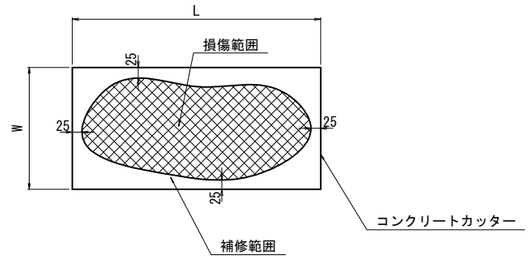
桁下面



橋面



断面修復範囲図



※ 損傷部より25㎜程度の余裕を確保し、
5㎝ラウンドの長方形の範囲に対して断面修復を行う。

断面修復工 数量表（鉄筋ケレン・防錆処理含む）

ポリマーセメントモルタル　　(1橋当り)

No.	補修箇所	幅(m)	長さ(m)	深さ(m)	箇所数	面積(m2)	体積(m3)
JD1-01	床版	0.550	0.450	0.070	1	0.248	0.0174
				第1径間（A1～A2）小計		0.248	0.0174
				合計		0.248	0.0174

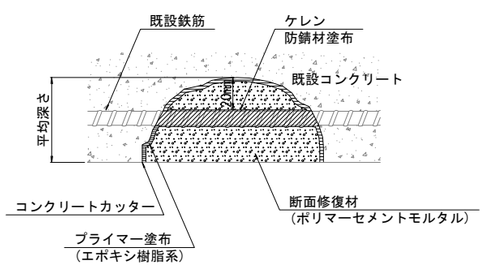
CPJ-L相当品　　(1橋当り)

No.	補修箇所	幅(m)	長さ(m)	深さ(m)	箇所数	面積(m2)	体積(m3)
※JD1-02	舗装・床版	1.050	0.550	0.070	1	0.578	0.0405
※JD1-03	舗装・床版	0.850	0.700	0.070	1	0.595	0.0417
※JD1-04	舗装・床版	0.250	0.300	0.070	1	0.075	0.0053
※JD1-05	舗装・床版	1.050	0.300	0.070	1	0.315	0.0221
				第1径間（A1～A2）小計		1.563	0.1096
				合計		1.563	0.1096

断面修復工詳細図(参考)
（鉄筋ケレン・防錆処理を含む場合）

ポリマーセメントモルタル

鉄筋露出

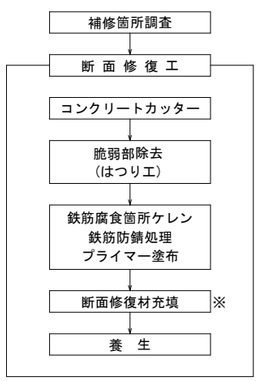


※ コンクリートのはつりは、損傷部を囲む長方形の範囲に対して深さ10㎜程度コンクリートカッターにより切込みを入れる。

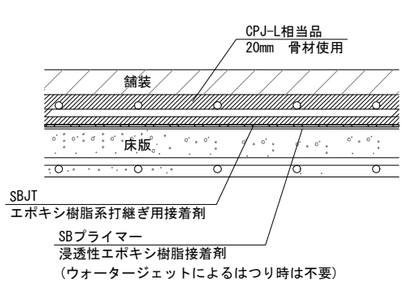
※ 脆弱部および鋼材の裏側までコンクリートをはつり取る。

※ 腐食した鋼材の錆を完全に除去する。

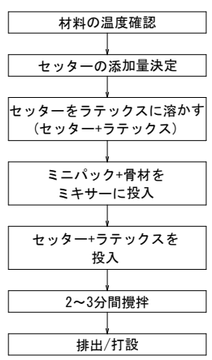
施工手順



CPJ-L相当品



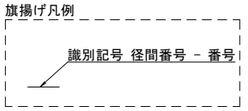
※部施工手順



補 修 の 凡 例

補修の種類	表　示
鉄筋ケレン・防錆処理 有り	
鉄筋ケレン・防錆処理 無し	

旗揚げ凡例



識別記号一覧表

	施工箇所	補修項目
JD0-00	上部工	断面修復工法

注記）1. 施工時は、現地寸法を確認すること。
2. ひびわれ補修の範囲は、過年度橋梁点検及び現地調査に基づき決めているが、工事に際しては、劣化範囲の進展の可能性があるため劣化状況を確認すること。
3. 劣化範囲の拡大や新たな劣化部がみられた場合には、施工範囲について監督職員と協議すること。

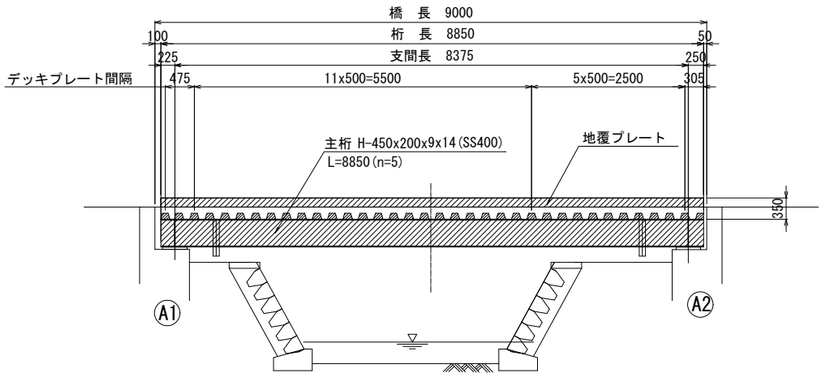
実施

工事番号			
路線名	市道　上大門五反田線		
施工地名	角田市尾山字上大門　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	立町橋　上部工断面修復工図		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	19 / 40

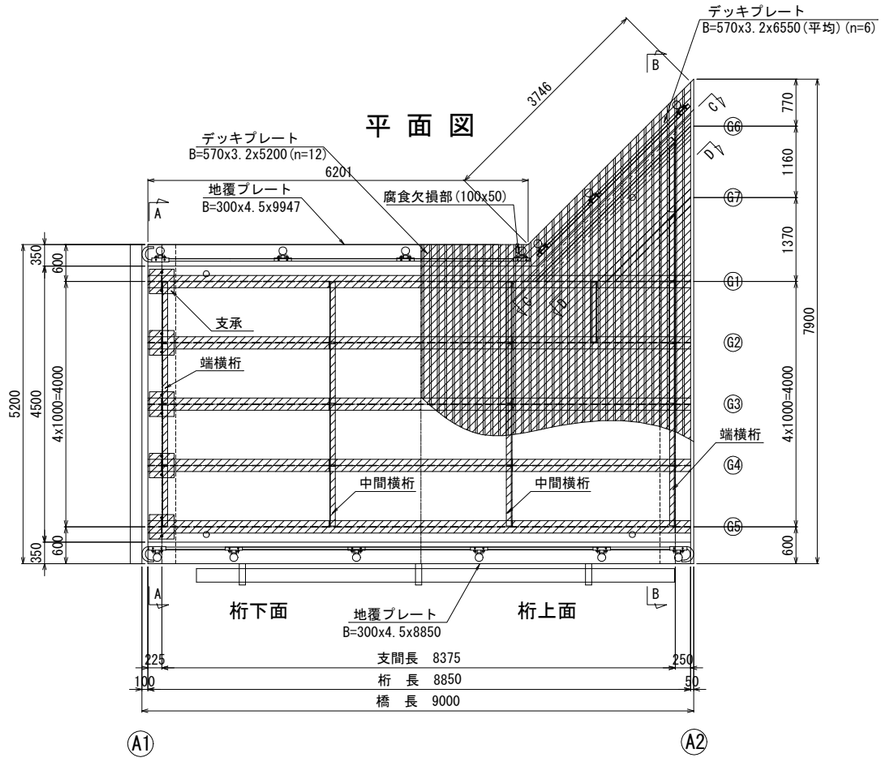
立町橋 塗装塗替え工図(その1) S=1:50

主構造・塗装塗替え工・デッキ床版補修工

側 面 図

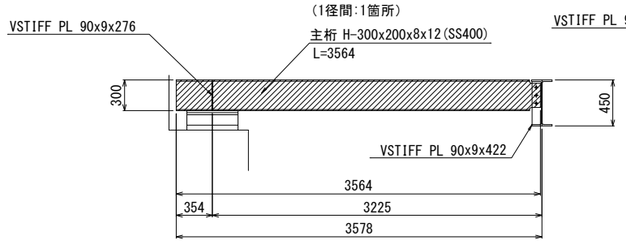


平 面 図



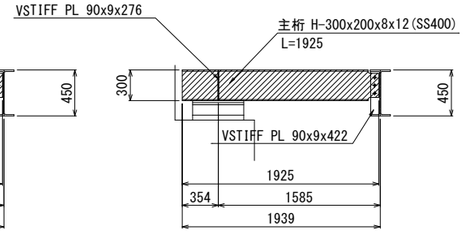
主桁A2-G1(C-C) S=1:30

(1径間:1箇所)

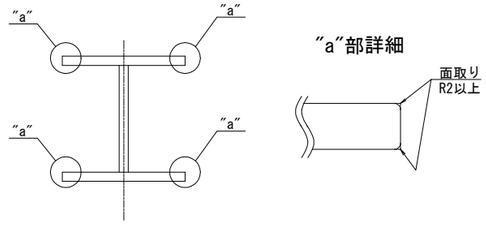


主桁A2-G2(D-D) S=1:30

(1径間:1箇所)



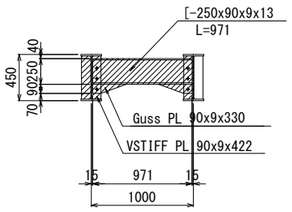
角部面取り概要図



塗装部材の角部はすべて面取り加工を施すこと
(上フランジの上面を除く)

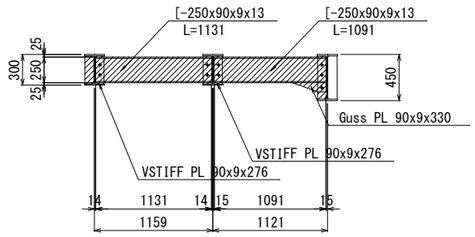
端横桁(A1, A2) S=1:30

(1径間:8箇所)



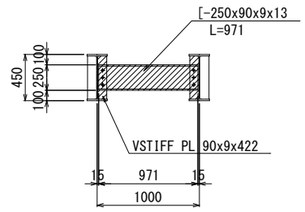
端横桁(A2) S=1:30

(1径間:1箇所)



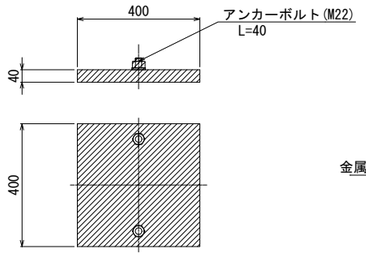
中間横桁 S=1:30

(1径間:9箇所)

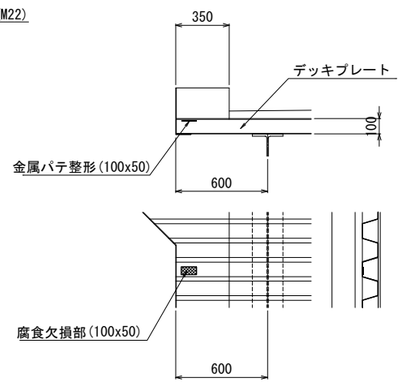


支承 S=1:10

(1径間:12箇所)



デッキ床版補修工 S=1:20



鋳転換型防食塗装(はけ,ローラー) DECK相当

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m^2)		塗装間隔
素地調整	2種ケレン 塗膜剥離剤(1回塗布)+動力工具			4時間以内
脱脂洗浄	DeCK脱脂洗浄剤		50	
塗装下地	DeCKプライマー	一般部	150	1日
		プラスト面、耐候性鋼材や支承部等凹凸が大きい箇所	250	
下 塗	DeCK下塗り		200	1日
上 塗	DeCK上塗り		180	1日

塗装塗替え工(主構造) 数量表

(1橋当り)

種 別	細 別	単 位	数量
素地調整工	塗装剥離剤+2種ケレン	m2	181.5
塗装塗替え工	**鋳転換型防食塗装(はけ,ローラー) DECK相当**	m2	181.5
剥離剤	比重 : 0.75kg/m2相当	m2(kg)	181.5(136.1)

角部面取り工 数量表

(1橋当り)

種 別	細 別	単 位	数量
面取り加工	面取りR2	m	390.9

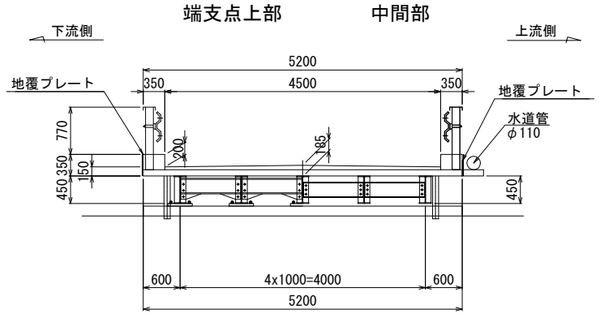
デッキ床版補修工 数量表

(1橋当り)

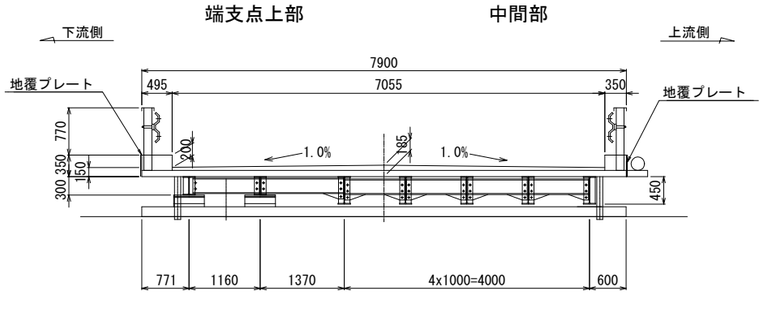
工 種	項 目	規格・寸法	単位	数 量
床版補修工	不陸修正		m2	0.005
金属パテ材質量	エポキシ樹脂材	比重 2300 kg/m3	kg	0.03
塗装面積	現場塗装	**鋳転換型防食塗装(はけ,ローラー) DECK相当**	m2	※
剥離剤		比重 : 0.75kg/m2相当	m2(kg)	※

(※ : 塗装塗替え工に含む)

断面図(A-A)



断面図(B-B)



注記)

1. 施工前には現地詳細調査を実施し、施工寸法および数量を確定すること。
2. 既設塗膜は、特定有害物(鉛)を含有しているため必要な防護措置を行うこと。

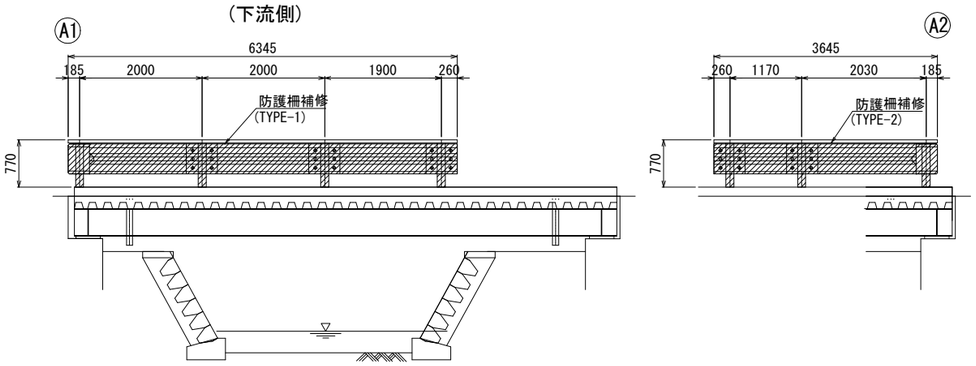
実 施

工事番号	
路線名	市道 上大門五反田線
施工地名	角田市尾山字上大門 地内
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事
図面名	立町橋 塗装塗替え工図(その1)
縮尺	図示
位置	
設計者	
設計年度	
宮城県角田市	図番 20 / 40

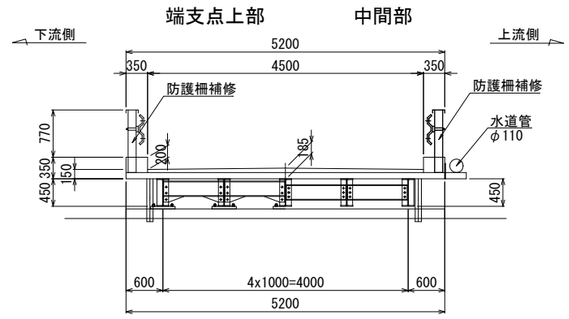
立町橋 塗装塗替え工図(その2) S=1:50

防護柵塗装塗替え工・防護柵取替補修工

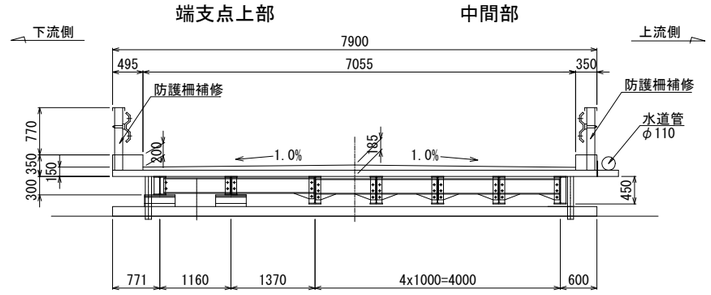
側 面 図
(下流側)



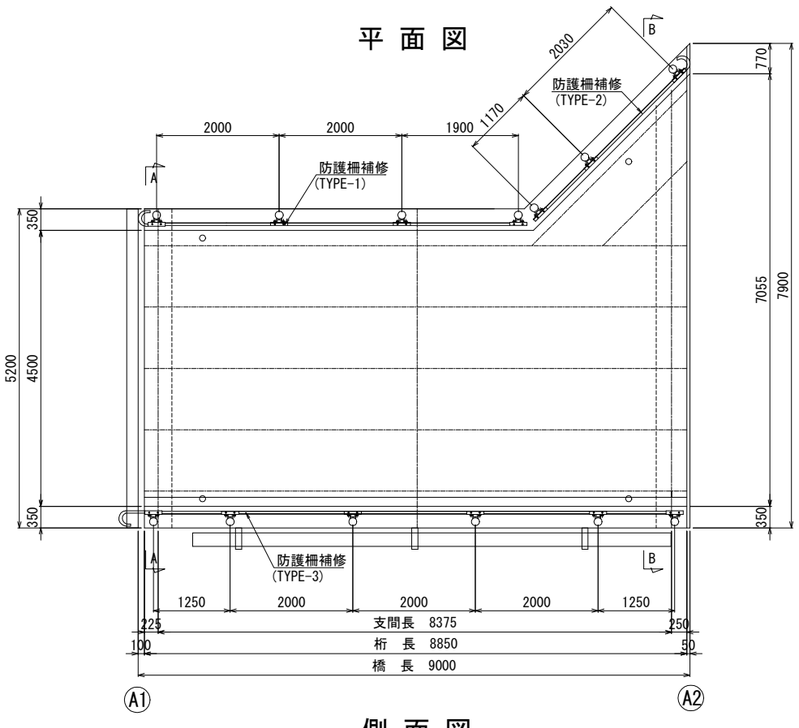
断面図(A-A)



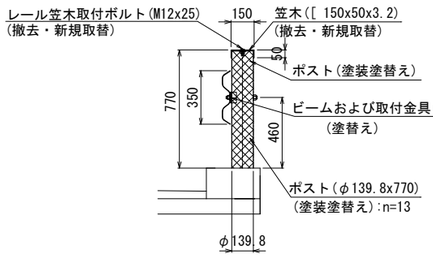
断面図(B-B)



平 面 図



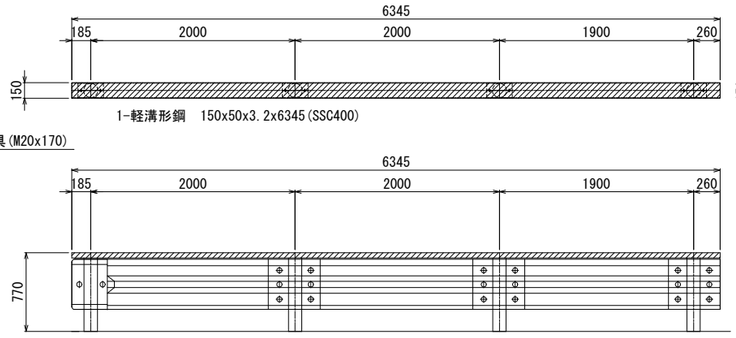
ガードレール S=1:20
(1径間:2箇所)



注) 防護柵形状は、Gr-A-2B-5Hにより引用した。

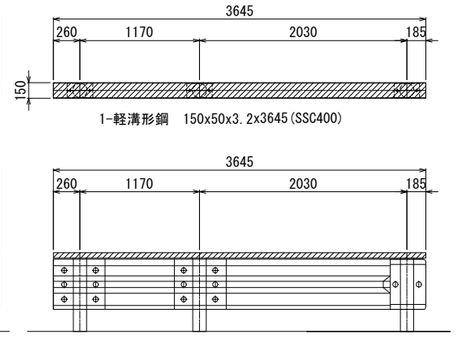
防護柵取替補修工
(ガードレール笠木取替え)

TYPE-1
(製作数:1組)



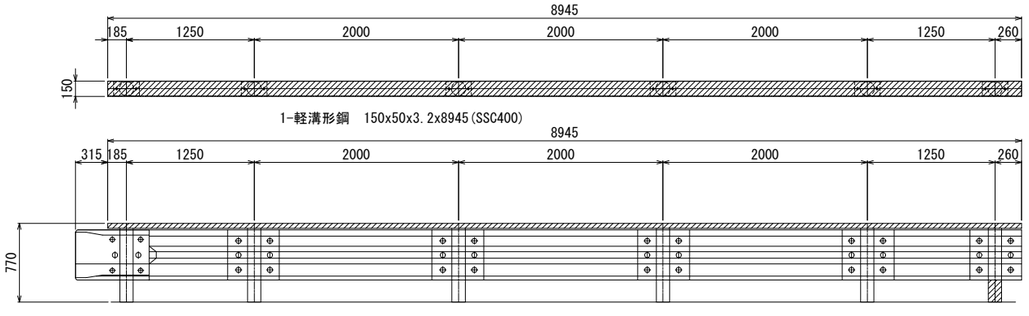
1-軽溝形鋼 150x50x3.2x6345(SSC400)

TYPE-2
(製作数:1組)



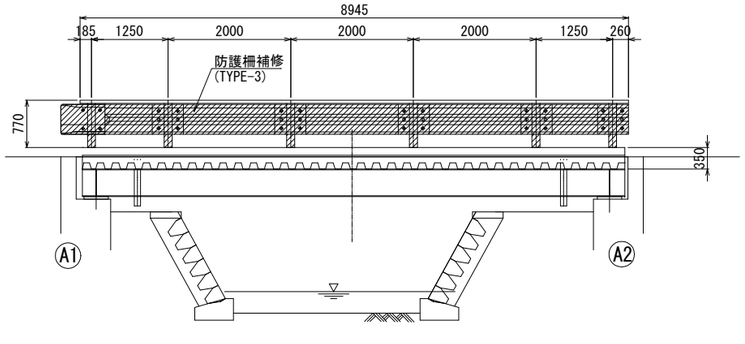
1-軽溝形鋼 150x50x3.2x3645(SSC400)

TYPE-3
(製作数:1組)



1-軽溝形鋼 150x50x3.2x8945(SSC400)

側 面 図
(上流側)



Rc-Ⅲ塗装系(はけ,ローラー)

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m²)	塗装間隔
素地調整	3種ケレン 動力工具		4時間以内
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (鋼板露出部のみ)	200	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120	

防護柵取替補修工 数量表
(1橋当り)

工 種	項 目	規格・寸法		単位	数 量
(ガードレール塗装塗替工 笠木取替え)	新設数量	笠木レール一式	軽溝形鋼:150x50x3.2(SSC400)	m	19.6
	撤去数量	笠木レール一式	軽溝形鋼:150x50x3.2(SSC400)	m	19.6

塗装塗替え工(防護柵) 数量表
(1橋当り)

種 別	細 別	単 位	数量
素地調整工	3種ケレン	m2	21.7
塗装塗替え工	Rc-Ⅲ塗装系	m2	21.7

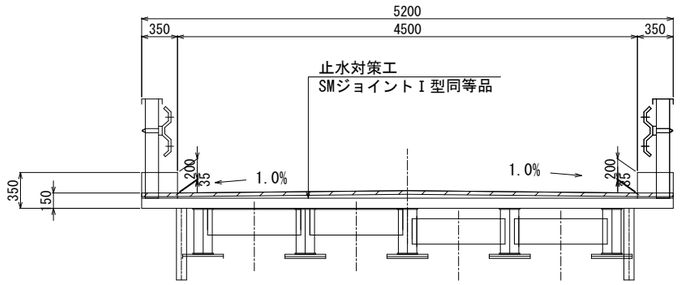
注記)
1. 特記なき材質は、SS400を示す。
2. 施工前には現地詳細調査を実施し、施工寸法および数量を確定すること。
3. 新設鋼材の塗装仕様は、C-5塗装系とする。
4. 塗装範囲の角部は、塗料の付着に配慮し半径2mm以上の面取りを行うこと。

実 施

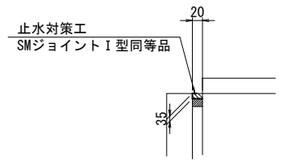
工事番号			
路線名	市道 上大門五反田線		
施工地名	角田市尾山字上大門 地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	立町橋 塗装塗替え工図(その2)		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	21 / 40

立町橋 伸縮装置補修工（止水対策工）S=1:30

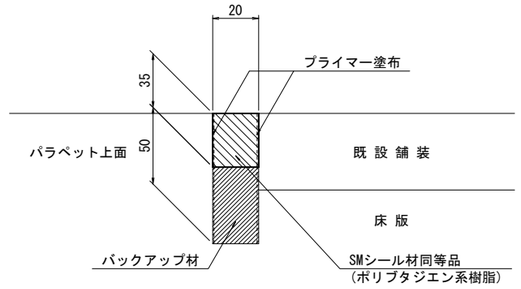
断面図



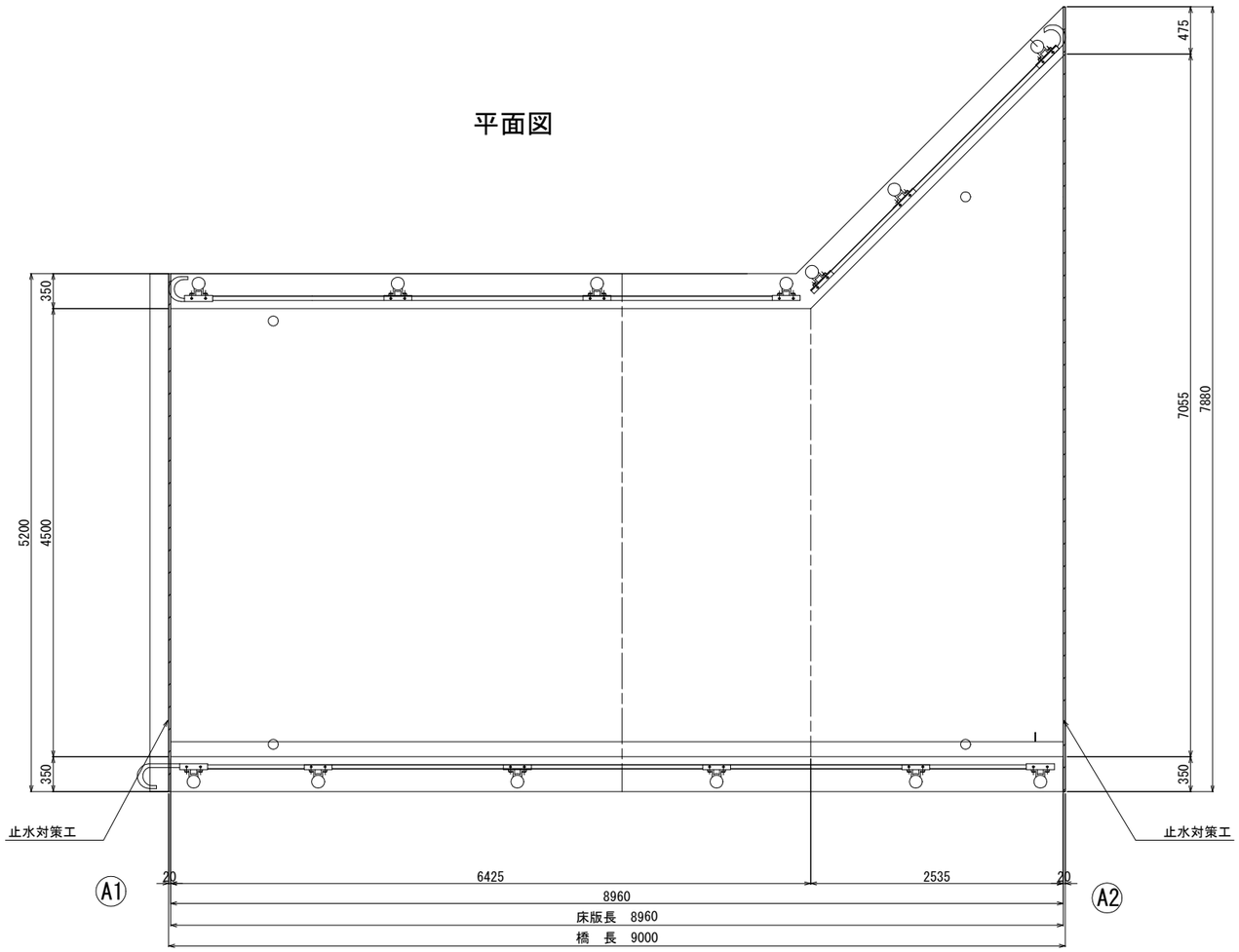
地覆部詳細図 S=1:20



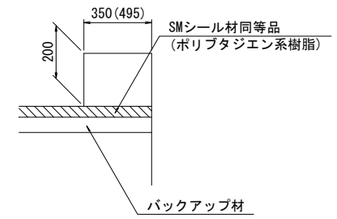
橋梁用遊間目地止水工 S=1:2



平面図

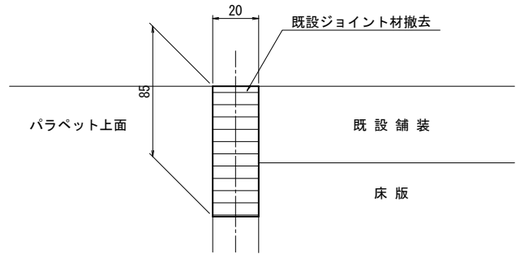


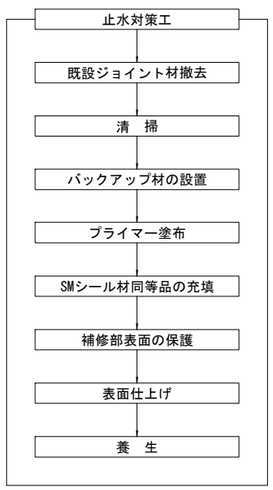
地覆部詳細図 S=1:10



※（）内寸法は隅切部を示す。

既設撤去工 S=1:2





止水対策工 数量表

（1橋当り）

名 称	品 名	単位	数 量	備 考
補修延長	SMジョイントＩ型同等品	m	13.1	
SMシール材同等品	ポリブタジエン系樹脂	ﾘｯﾄﾙ	9.2	
プライマー	専用プライマー	ﾘｯﾄﾙ	0.5	
バックアップ材		m	13.1	
既設撤去	目地材	m	11.6	

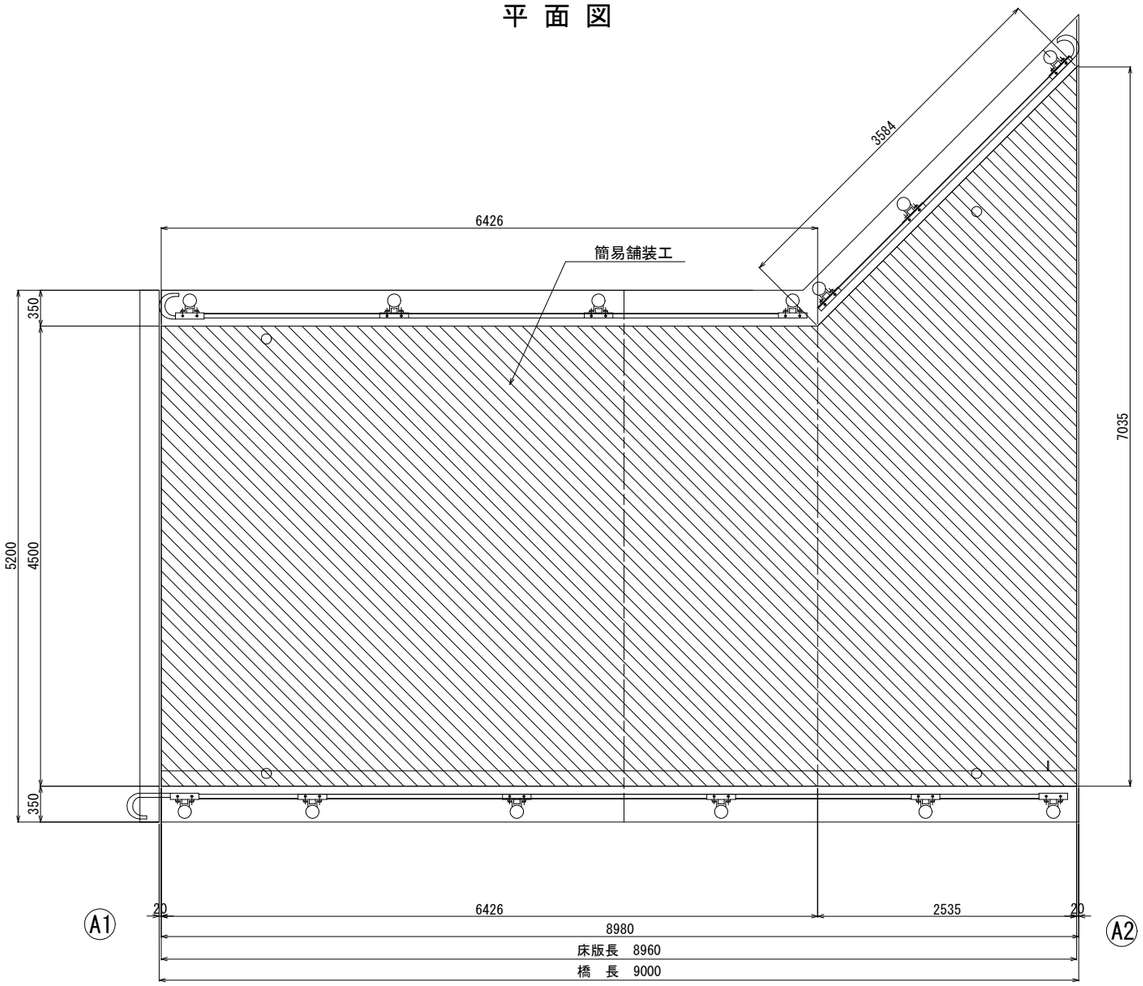
注記）
1. 本図面は、現地計測および既存資料を基に作成したものである。
2. 工事の際は、現地計測を十分に実施した上で、数量の補正等を行うこと。

実 施

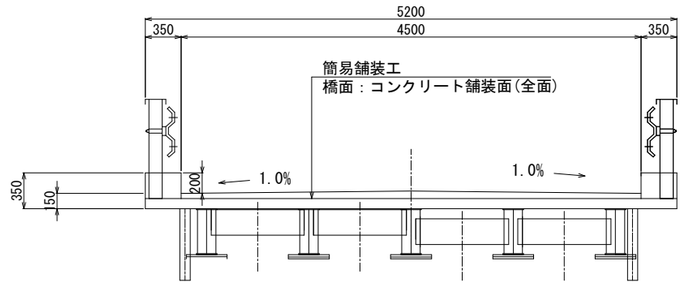
工事番号			
路線名	市道 上大門五反田線		
施工地名	角田市尾山字上大門 地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	立町橋 伸縮装置補修工（止水対策工）		
縮尺	図示	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	22 / 40

立町橋 簡易舗装工図　S=1:30

平 面 図

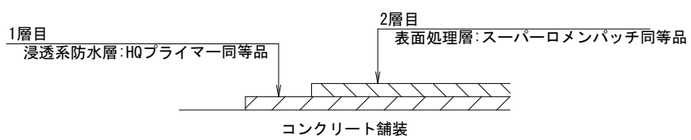


上部工断面図



簡易舗装工仕様

スロメDN工法(相当)



簡易舗装工　数量表

(1橋当り)

工　種	項　目	規格・寸法	単位	数　量
簡易舗装工	防水層塗布	スロメDN工法(相当) t=5mm	m2	43.5

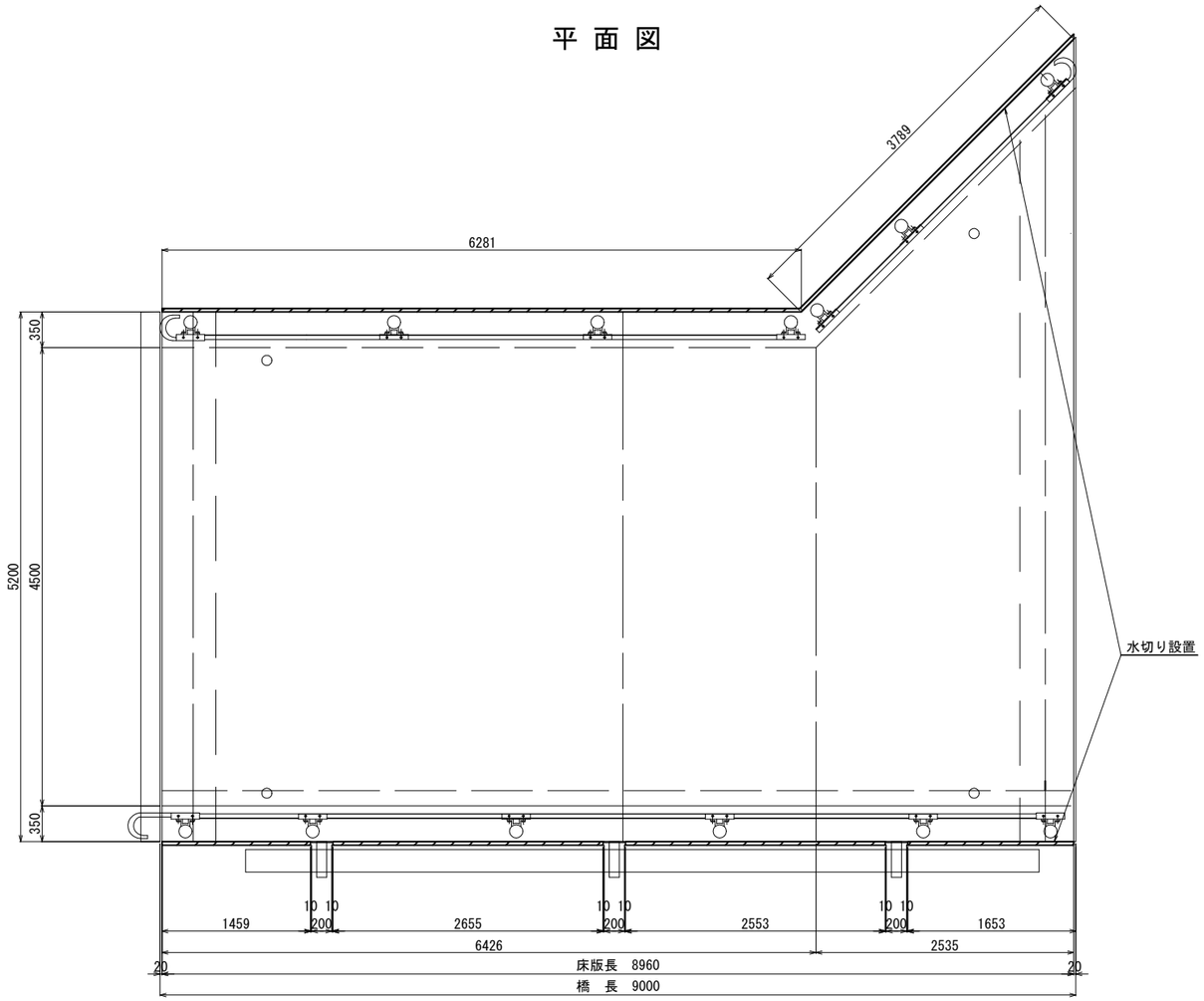
注記）1.施工前、各工種とも現地詳細調査を実し、
施工寸法および数量を確定すること。

実 施

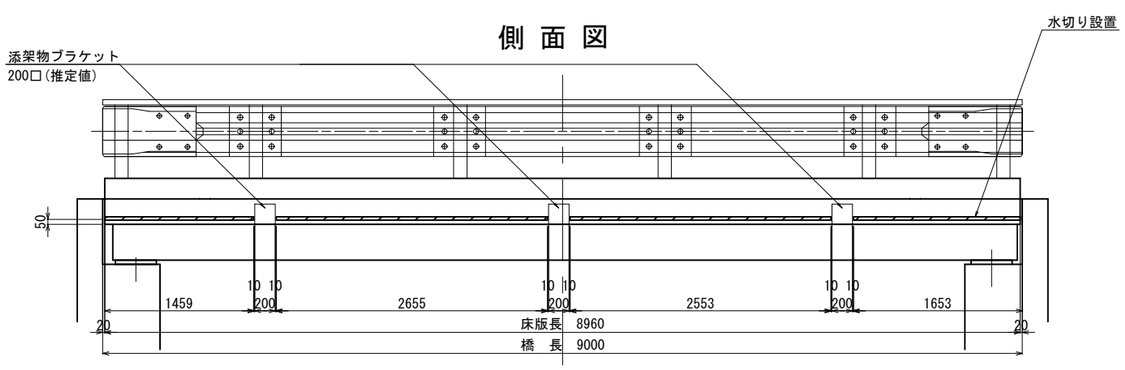
工事番号			
路線名	市道　上大門五反田線		
施工地名	角田市尾山字上大門　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	立町橋 簡易舗装工図		
縮尺	S=1:30	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	23 / 40

立町橋 水切り設置工図　S=1:30

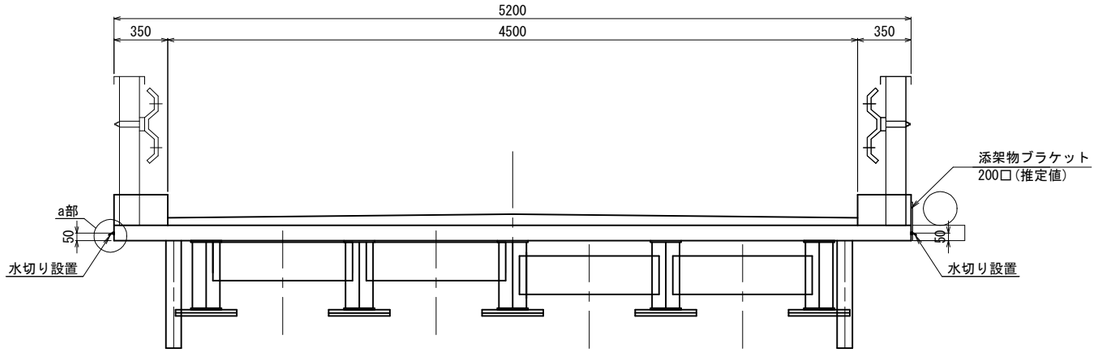
平 面 図



側 面 図

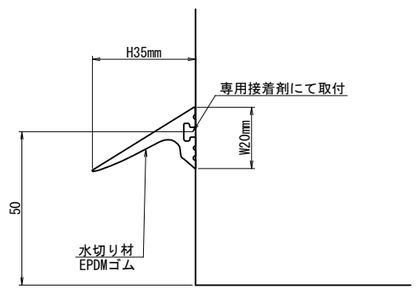


上部工断面図　S=1:20



水切り詳細図　S=1:1

(a部)



水切り設置工 数量表

(1橋当り)

工 種	項 目	規格・寸法	単位	数 量
水切り設置工	設置延長	EPDMゴム、専用接着剤にて取付	m	18.4

注記)
1. 本図面は、現地計測および既存資料を基に作成したものである。
2. 工事の際は、現地計測を十分に実施した上で、数量の補正等を行うこと。

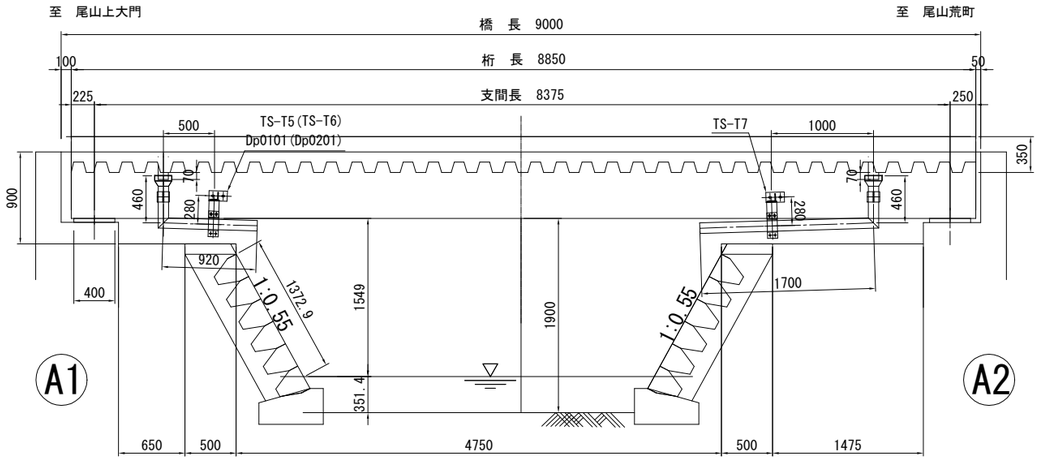
実 施

工事番号			
路線名	市道　上大門五反田線		
施工地名	角田市尾山字上大門　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	立町橋 水切り設置工図		
縮尺	図示	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	24 / 40

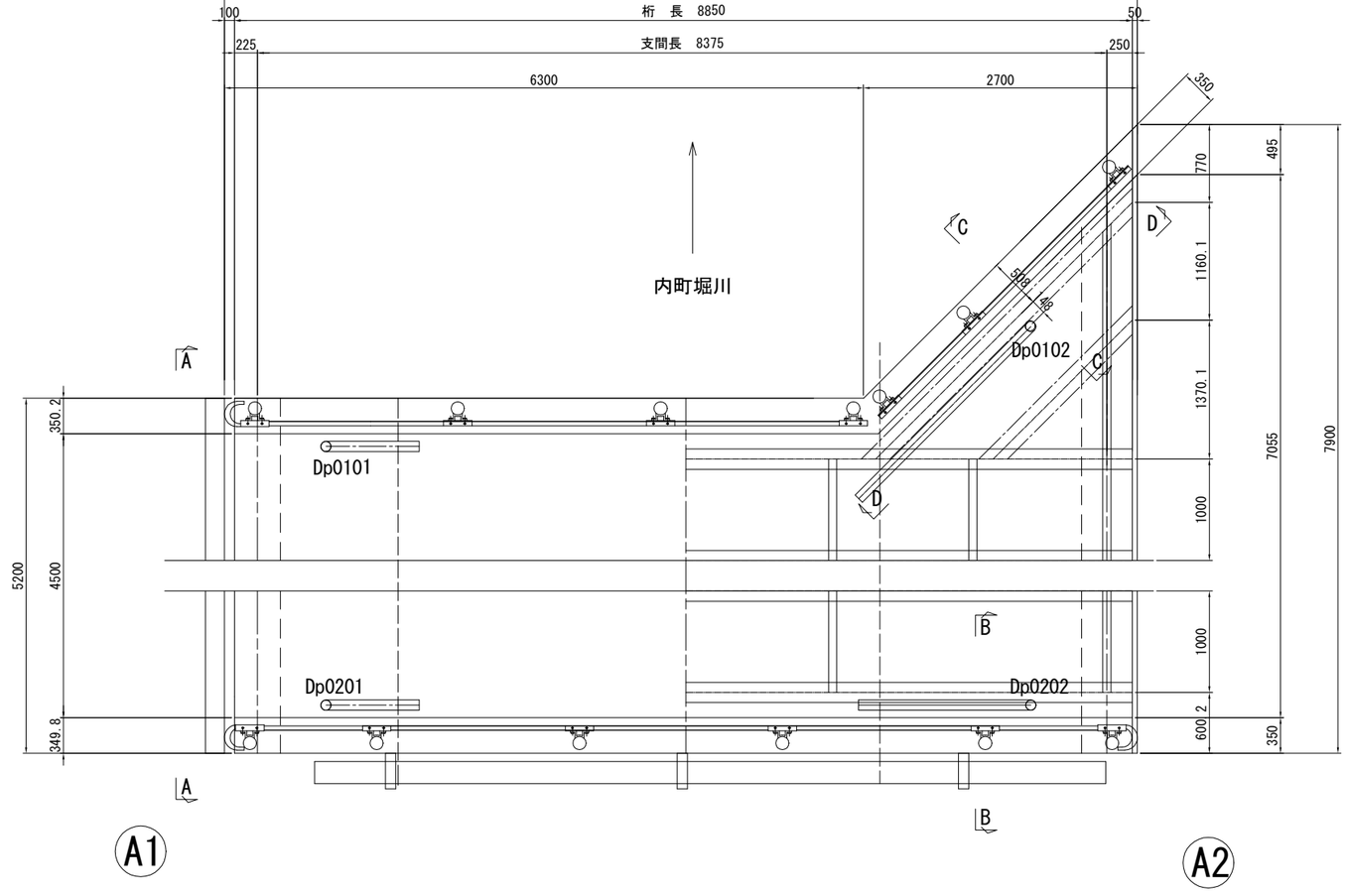
立町橋 排水管補修工図(その1)　S=1:30

TSステンレス排水装置同等品

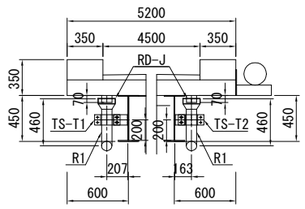
側 面 図



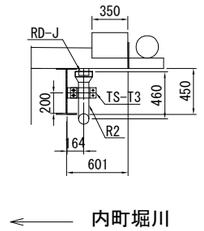
平 面 図



A-A断面図



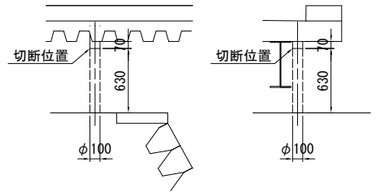
B-B断面図



既設排水管撤去図（参考図）

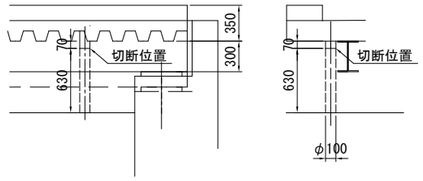
A-A, B-B, C-C断面

側面図　　断面図

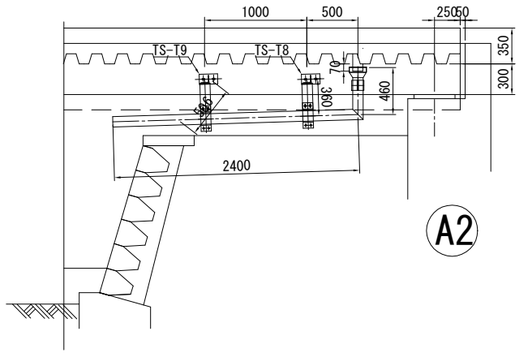


D-D断面

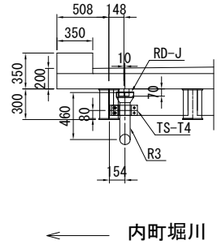
側面図　　断面図



D-D断面図



C-C断面図



注）1. 特記なき材質はすべてSUS304とする。
2. 排水装置はTSステンレス排水装置に準ずる。
3. SS400は全て溶融亜鉛メッキ
（特記なき場合は JIS H 8641 HDZT77）
仕上げを行う。但し、ボルト類はHDZT49とする。
4. t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し耐食性向上の措置を講じる。
5. 現地調査にて寸法確定後製作する。
6. 既設排水管切断位置は、現地計測を行い決定すること。

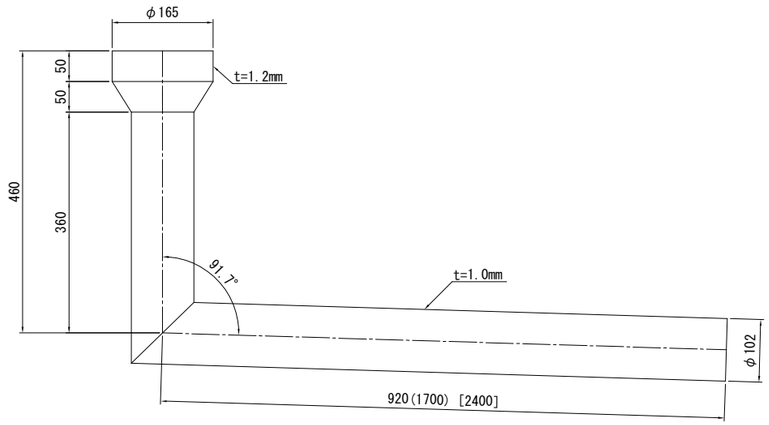
実 施

工事番号			
路線名	市道　上大門五反田線		
施工地名	角田市尾山字上大門　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	立町橋　排水管補修工図(その1)		
縮尺	S=1:30	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	25 / 40

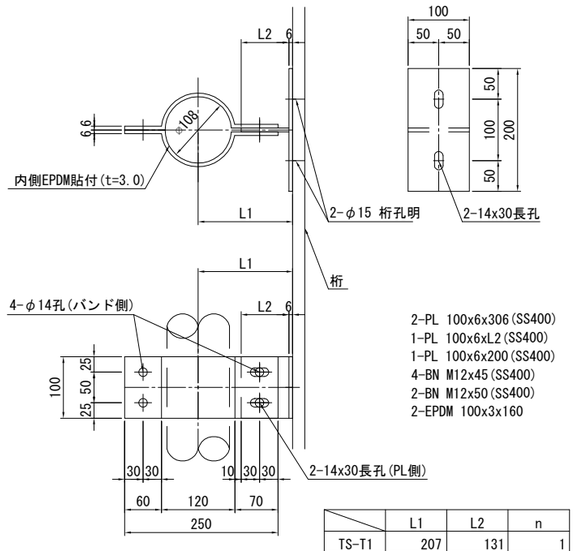
立町橋 排水管補修工図(その2)　S=1:5

TSステンレス排水装置同等品

加工管詳細図
R1(R2)[R3]
製作数=2(1)[1]

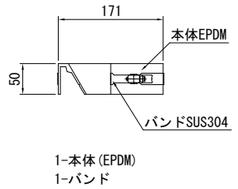


取付金具詳細図
TS-T1～TS-T4
製作数=n



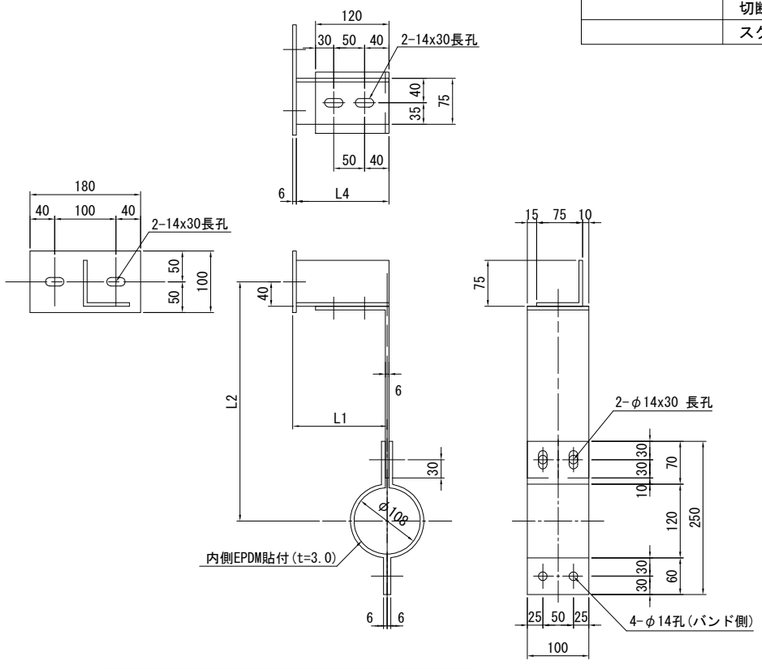
	L1	L2	n
TS-T1	207	131	1
TS-T2	163	87	1
TS-T3	164	88	1
TS-T4	154	78	1

桝接続継手詳細図
製作数=4



1-本体(EPDM)
1-バンド

取付金具詳細図
TS-T5～TS-T9
製作数=n



	L1	L2	L3	L4	n
TS-T5	207	280	284	204	1
TS-T6	163	280	284	160	1
TS-T7	164	280	284	161	1
TS-T8	154	360	364	151	1
TS-T9	154	390	394	151	1

2-PL 100x6x306(SS400)
1-PL 100x6x L3(SS400)
1-PL 100x6x180(SS400)
1-L相当品 75x75x6xL4(SS400)
6-BN M12x45(2-W付)(SS400)
2-アンカーボルト M12x100(SS400)
2-EPDM 100x3x230

排水管補修工　数量表

(1橋当り)

工　種	項　目	規格・寸法等	単位	数　量
新設排水管	流心延長	R1	m	2.8
		R2	m	2.2
		R3	m	2.9
		合計	m	7.8
	R1	加工管 (SUS304) t=1.0,1.2mm　φ165-102	本	2
	R2	加工管 (SUS304) t=1.0,1.2mm　φ165-102	本	1
	R3	加工管 (SUS304) t=1.0,1.2mm　φ165-102	本	1
取付金具	TS-T1	取付金具 (SS400) BN,EPDM　溶融亜鉛メッキ仕様　鋼重5.5kg	組	1
	TS-T2	取付金具 (SS400) BN,EPDM　溶融亜鉛メッキ仕様　鋼重4.9kg	組	1
	TS-T3	取付金具 (SS400) BN,EPDM　溶融亜鉛メッキ仕様　鋼重4.9kg	組	1
	TS-T4	取付金具 (SS400) BN,EPDM　溶融亜鉛メッキ仕様　鋼重4.9kg	組	1
	TS-T5	取付金具 (SS400) BN,EPDM　溶融亜鉛メッキ仕様　鋼重6.1kg	組	1
	TS-T6	取付金具 (SS400) BN,EPDM　溶融亜鉛メッキ仕様　鋼重6.1kg	組	1
	TS-T7	取付金具 (SS400) BN,EPDM　溶融亜鉛メッキ仕様　鋼重6.1kg	組	1
	TS-T8	取付金具 (SS400) BN,EPDM　溶融亜鉛メッキ仕様　鋼重7.1kg	組	1
	TS-T9	取付金具 (SS400) BN,EPDM　溶融亜鉛メッキ仕様　鋼重7.1kg	組	1
既設排水管撤去	SGP管	φ100, L=630mm	本	4
	切断延長	φ100, 4箇所	m	1.3
	スクラップ		kg	49

注) 1. 特記なき材質はすべてSUS304とする。
2. 排水装置はTSステンレス排水装置に準ずる。
3. SS400は全て溶融亜鉛メッキ
(特記なき場合は JIS H 8641 HDZT77)
仕上げを行う。但し、ボルト類はHDZT49とする。
4. t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し耐食性向上の措置を講じる。
5. 現地調査にて寸法確定後製作する。

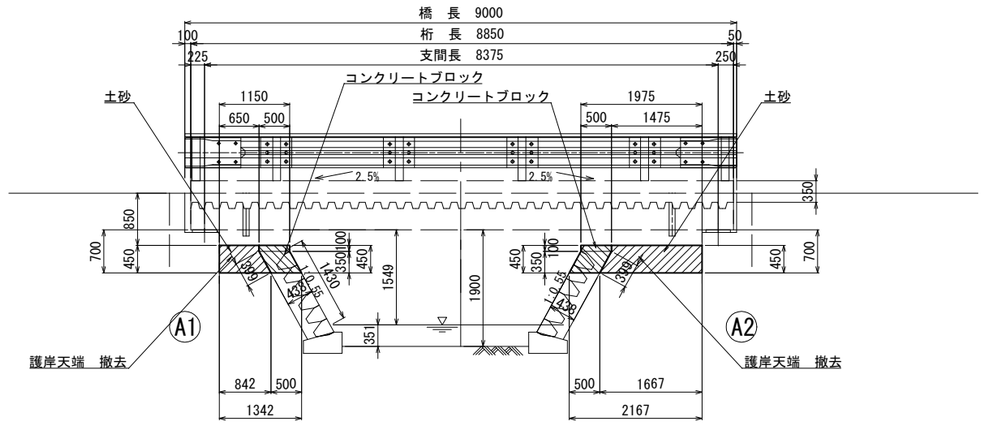
実 施

工事番号			
路線名	市道　上大門五反田線		
施工地名	角田市尾山字上大門　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	立町橋　排水管補修工図(その2)		
縮尺	図示	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	26 / 40

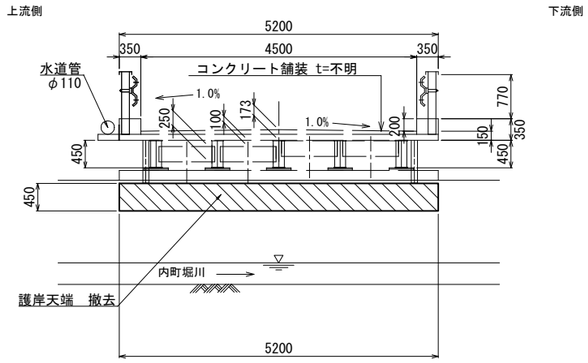
立町橋 河川護岸撤去・復旧図(その1)　S=1:50

撤去

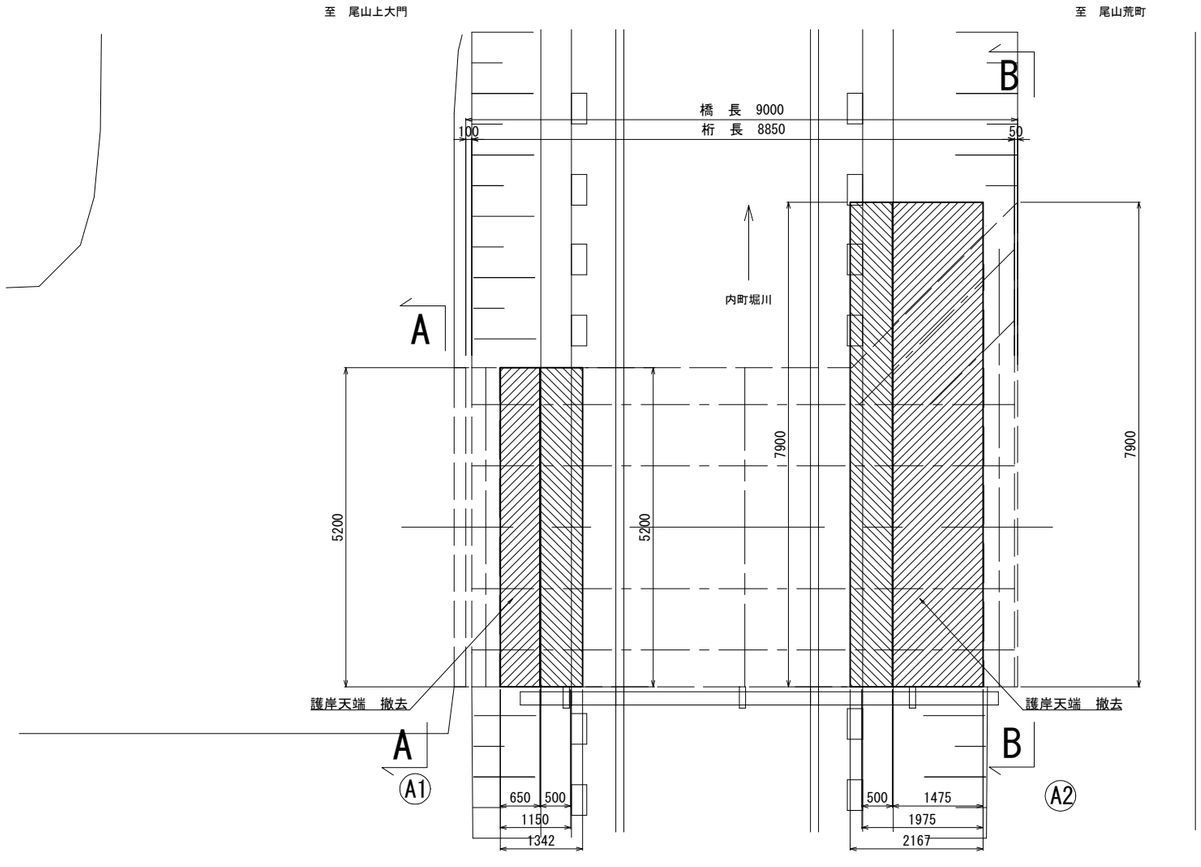
側面図



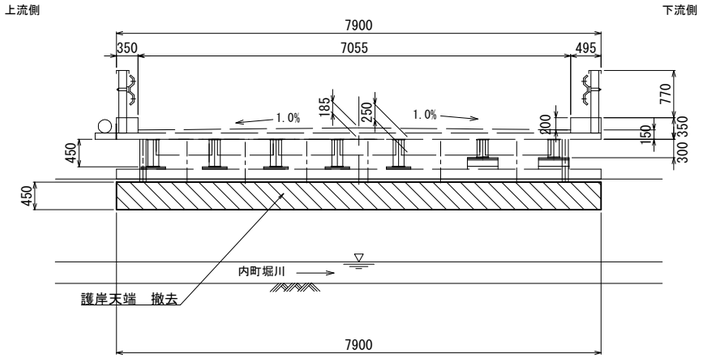
断面図
(A-A)



平面図



断面図
(B-B)



注記)
1. 本図面は、現地計測および既存資料を基に作成したものである。
2. 工事の際は、現地計測を十分に実施した上で、数量の補正等を行うこと。

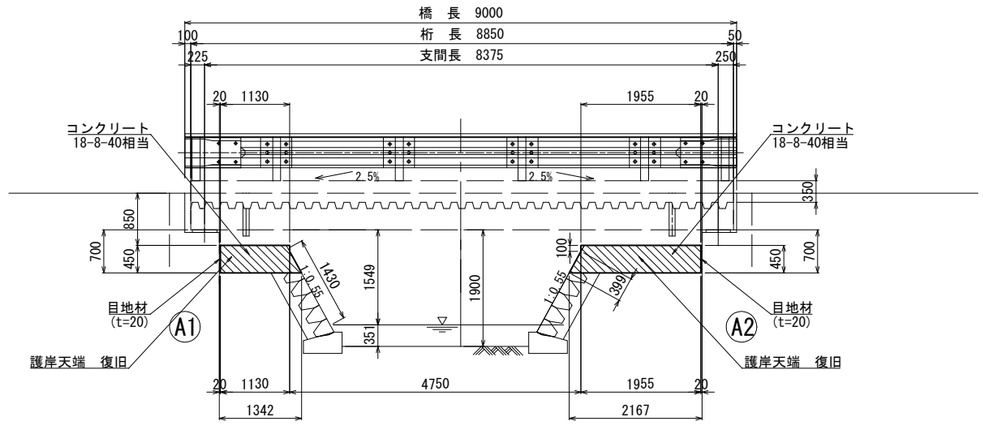
実　施

工事番号			
路線名	市道　上大門五反田線		
施工地名	角田市尾山字上大門　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	**立町橋　河川護岸撤去・復旧図(その1)**		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	27 / 40

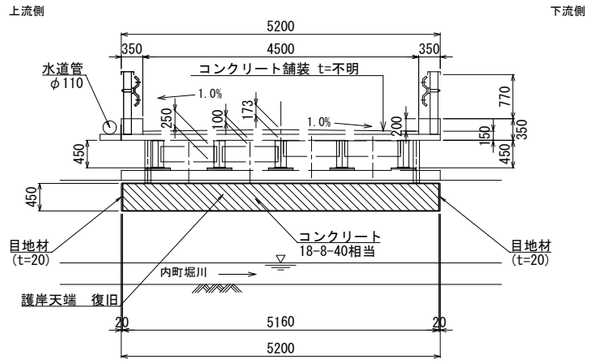
立町橋 河川護岸撤去・復旧図(その2)　S=1:50

復旧

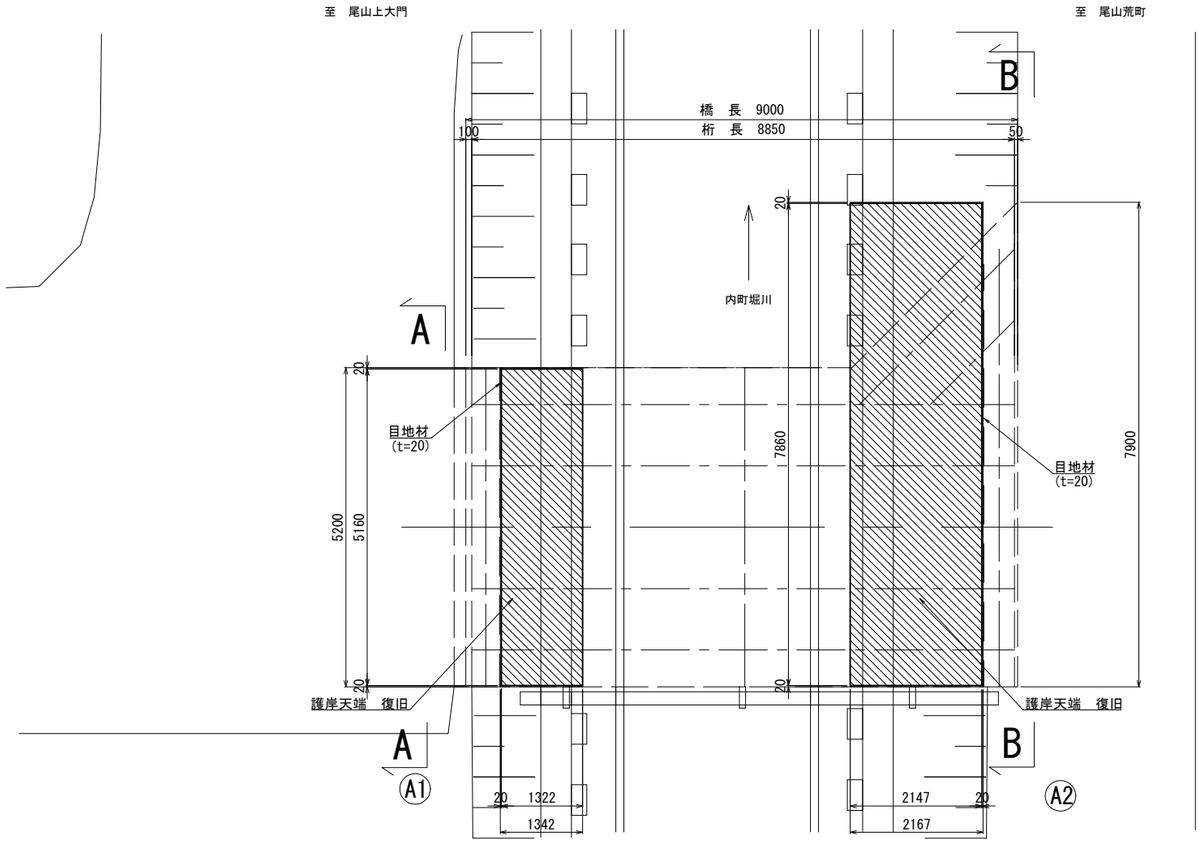
側面図



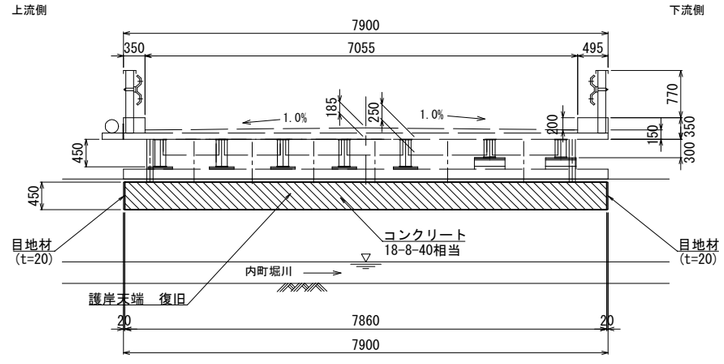
断面図
(A-A)



平面図



断面図
(B-B)



河川護岸撤去・復旧工　数量表

(1橋当り)

名　称	品　名	単位	数　量	備　考
撤去	コンクリートブロック	m3	3.0	参考重量：7.1t
	土砂	m3	7.2	参考重量：13.0t
復旧	コンクリート(18-8-40)相当	m3	10.2	
表面処理		m2	23.7	※
型枠		m2	6.5	
目地材	エラスタイト同等品(t=20)	m2	8.8	

※取り壊し面に対して、粗面仕上げ(チッピング)を行うこと。(なるべく水平に実地する)

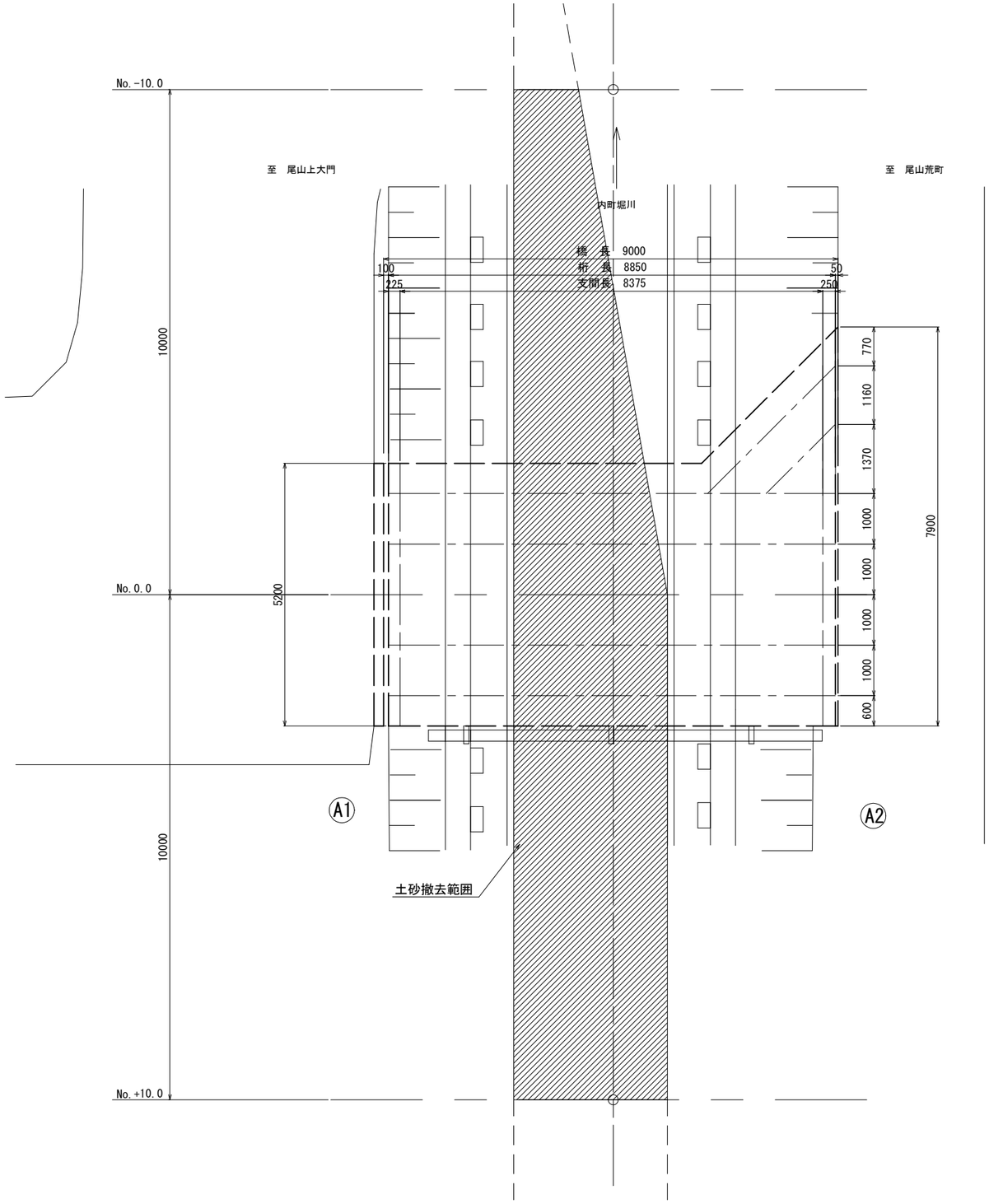
注記)
1. 本図面は、現地計測および既存資料を基に作成したものである。
2. 工事の際は、現地計測を十分に実施した上で、数量の補正等を行うこと。

実　施

工事番号			
路線名	市道　上大門五反田線		
施工地名	角田市尾山字上大門　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	立町橋　河川護岸撤去・復旧図(その2)		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	28 / 40

立町橋 河床土砂撤去・復旧工図　S=1:50

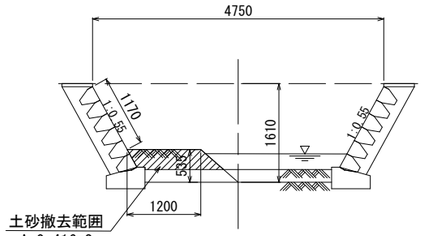
平面図



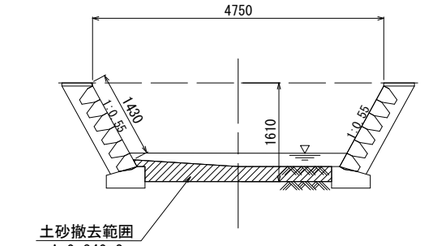
断面図

撤去図

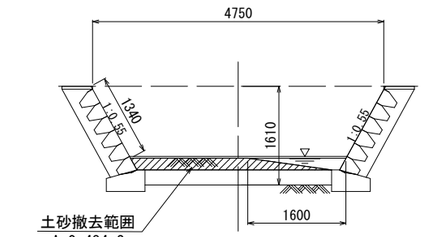
No.0-10.0（下流側）



No.0（橋梁センター付近）

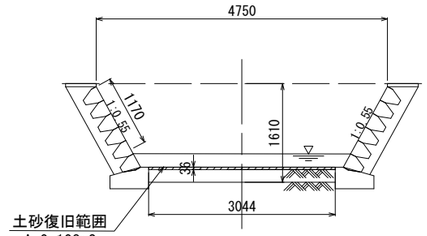


No.0+10（上流側）

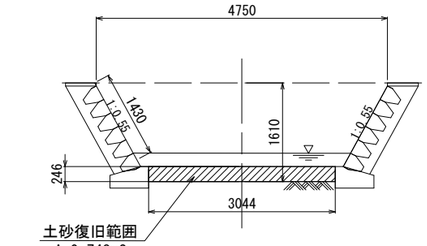


復旧図

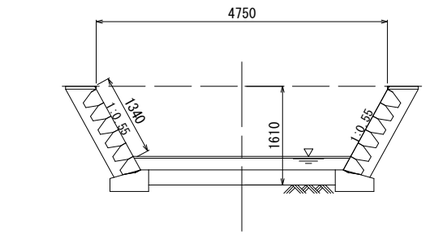
No.0-10.0（下流側）



No.0（橋梁センター付近）



No.0+10（上流側）



河床土砂撤去・復旧工　数量表

(1橋当り)

工　種	項　目	規格・寸法	単位	数　量
河床土砂撤去工	掘削	軟弱土等	m3	12.9
河床土砂復旧工	敷均し	玉石・割栗石	m3	8.0

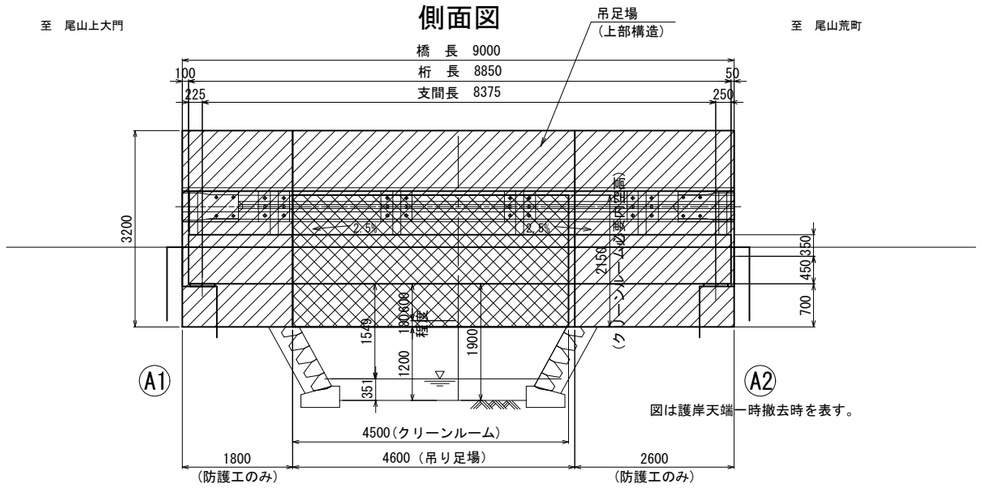
注記)
1. 本図面は、現地計測および既存資料を基に作成したものである。
2. 工事の際は、現地計測を十分に実施した上で、数量の補正等を行うこと。

実　施

工事番号			
路線名	市道　上大門五反田線		
施工地名	角田市尾山字上大門　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	**立町橋　河床土砂撤去・復旧工図**		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	29 / 40

立町橋 足場工図【参考図】 S=1:50

側面図



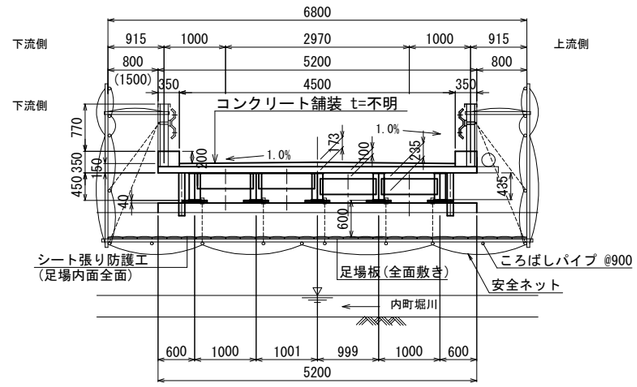
図は護岸天端一時撤去時を表す。

断面図

(A-A)

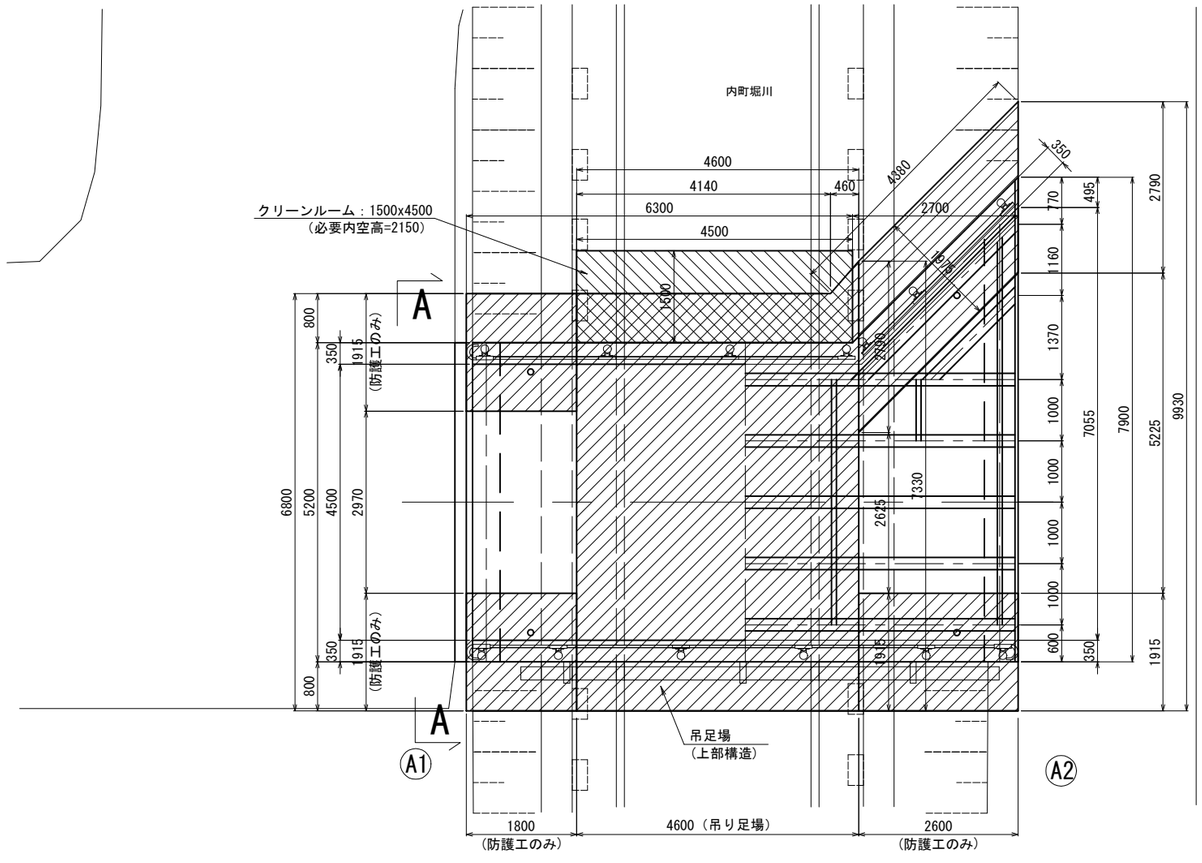
支間部　　中央部

( ) 内寸法はクリーンルーム設置箇所を表す。



※ 塗装塗替工における塗膜剥離施工時は、
専用の養生シートを使用するとともに、
上面も塞ぐ完全防護とすること。

平面図



足場工 数量表

(1橋当り)

工 種	項 目	規格・寸法	単位	数 量
足場工	吊足場	中段足場なし	m2	23.9
	防護工	板張り・シート	m2	23.9
	養生シート	塗膜剥離工用	m2	170.8
	空間体積	ー	m3	212.5

注記)

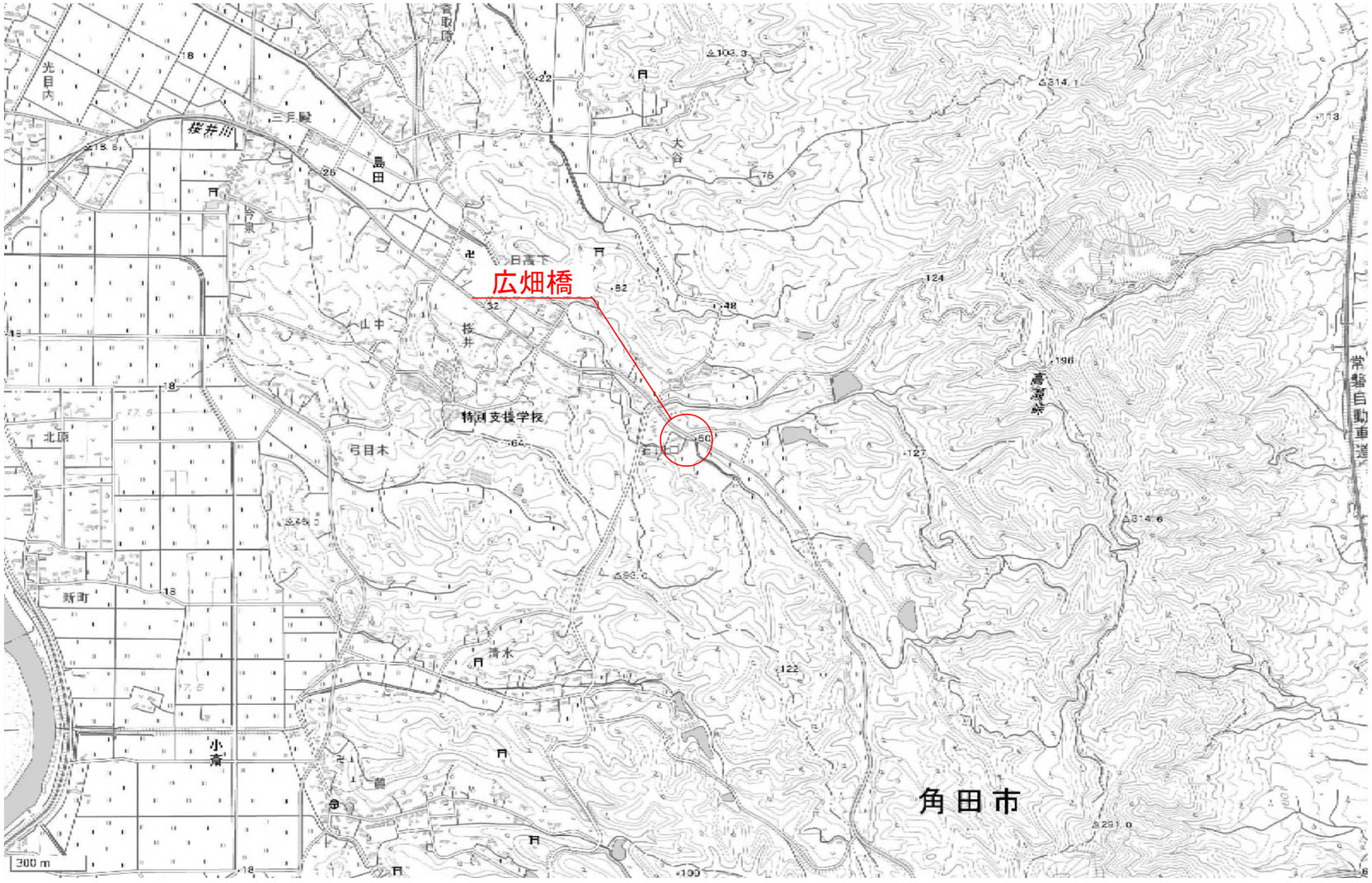
1. 本図面は、現地計測および既存資料を基に作成したものである。
2. 工事の際は、現地計測を十分に実施した上で、数量の補正等を行うこと。
3. 足場工の設置は「橋梁架設工事の積算(令和7年度版)」に準拠している。
4. 施工に際しては、必要に応じて強度計算を行い、適切な部材配置を行うこと。
5. 剥離作業は「労働安全衛生法」「鉛中毒予防規則」に基づいて行うこと。
6. 剥離作業や塗装塗替時においては、近隣住民と河川への影響に留意すること。
(シート張り防護工・集塵機設置による対策等)
7. 既設塗膜は、特定有害物(鉛)を含有しているため、必要な防護措置を行うこと。
8. 作業者の人体への影響に留意すること。(呼吸用保護具・保護衣等の使用)

実 施

工事番号			
路線名	市道 上大門五反田線		
施工地名	角田市尾山字上大門 地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	立町橋 足場工図【参考図】		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	30 / 40

広畑橋 位置図　S=1:10000

N

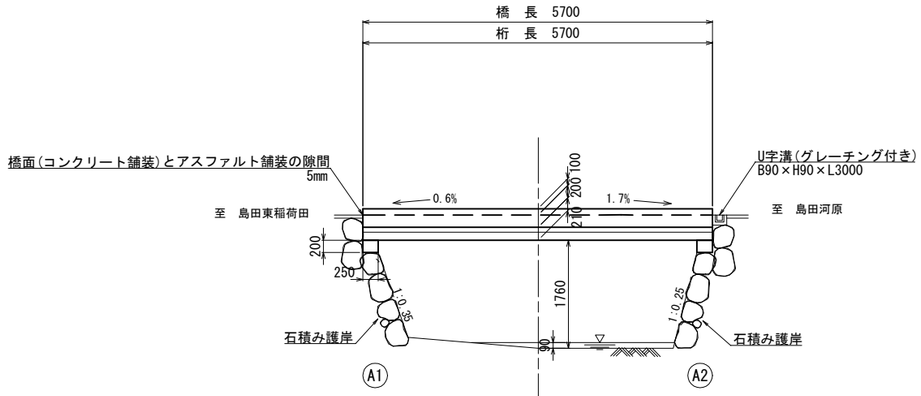


実 施

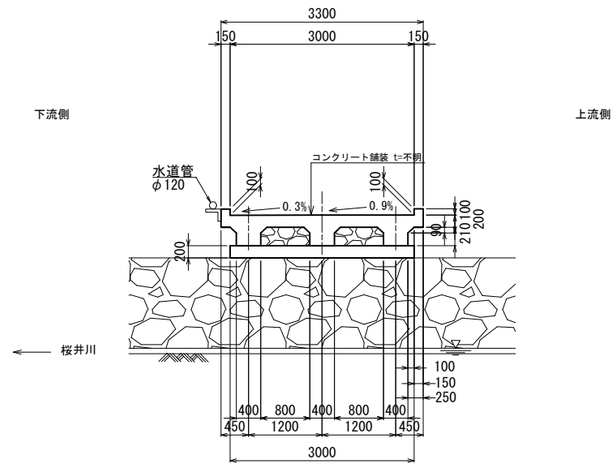
工事番号			
路線名	市道　小一郎作河原線		
施工地名	角田市島田字広畑　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	広畑橋　位置図		
縮尺	S=1:10000	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	31 / 40

広畑橋 現橋一般図　S=1:50

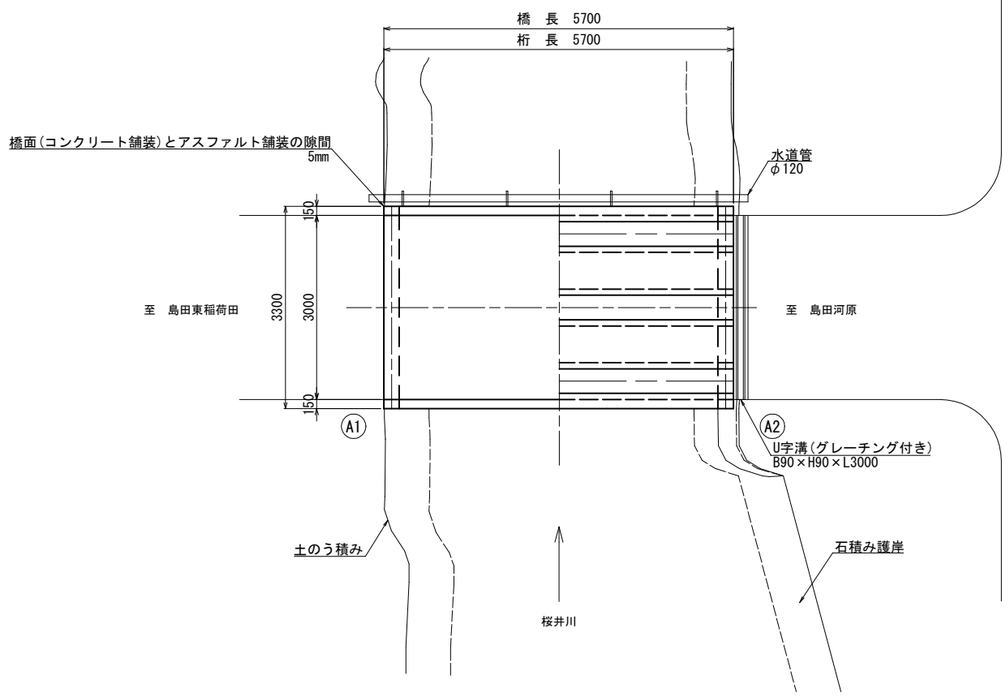
側面図



断面図



平面図





橋　梁　諸　元	
橋　　種	河川橋
交 差 条 件	一級河川 桜井川・角田市管理
路 線 名	小一郎作河原線
橋　　長	5.70m
支 間 長	－
幅　　員	3.30m(有効幅員 3.00m)
斜　　角	90°
活 荷 重	不明
添 架 物	水道管(φ120)
上部工形式	鉄筋コンクリートT桁橋(鉄筋コンクリート床版)
下部工形式	石積ブロック
基礎形式	不明
適用示方書	不明
架 設 年	1975年（推定）

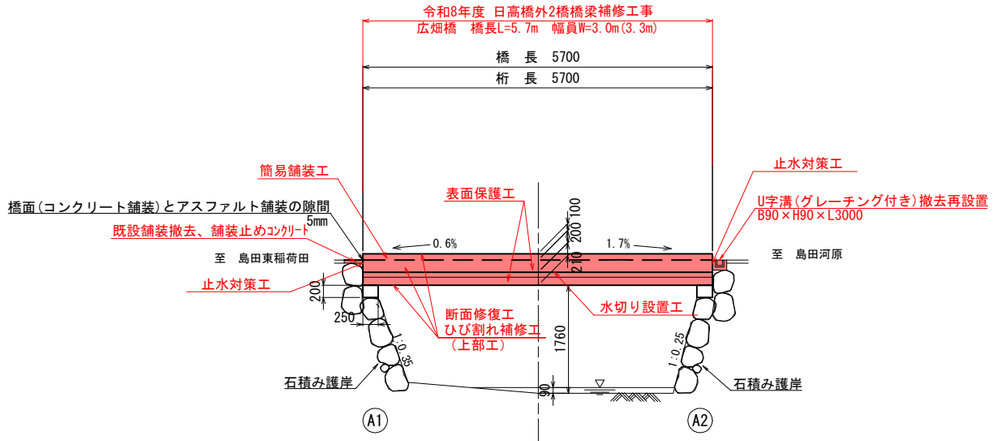
注記）
1. 本図面は、現地計測および既存資料を基に作成したものである。
2. 工事の際は、現地計測を十分に実施した上で、数量の補正等を行うこと。

実　施

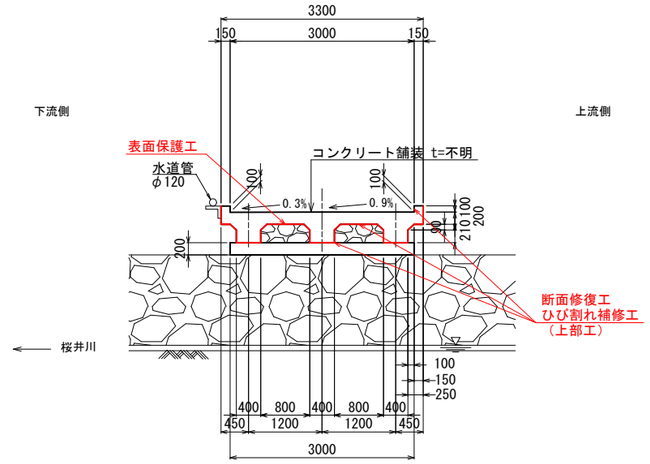
工事番号			
路 線 名	市道　小一郎作河原線		
施工地名	角田市島田字広畑　地内		
工 事 名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図 面 名	広畑橋　現橋一般図		
縮　　尺	S=1:50	位置	
設 計 者		設計年度	
宮城県角田市		図番	32 / 40

広畑橋 補修一般図　S=1:50

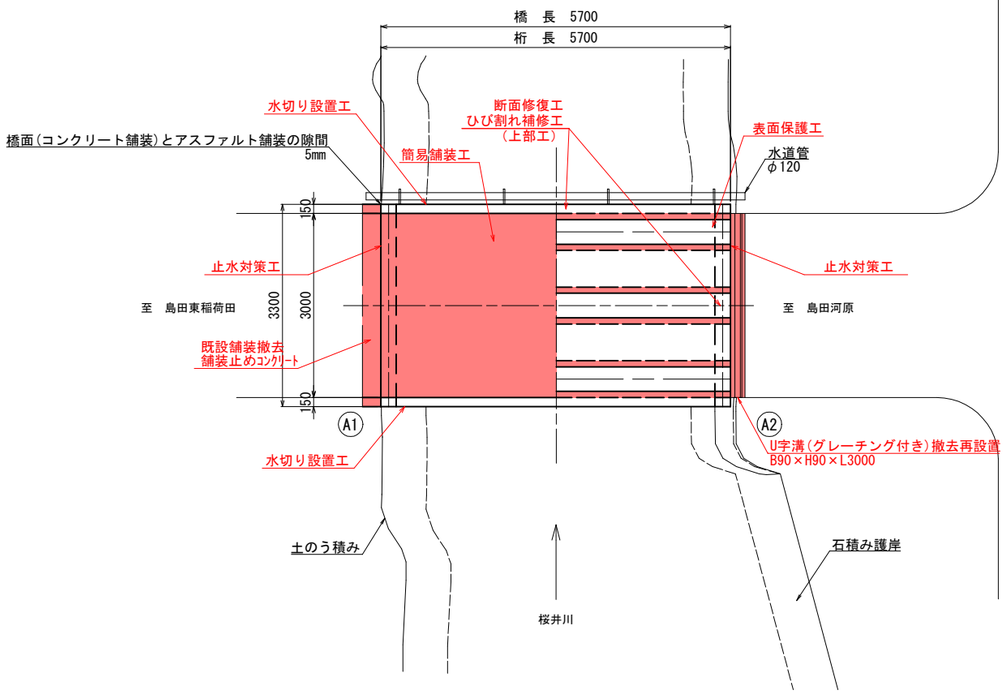
側面図



断面図



平面図





橋梁補修工　項目一覧表

項目			部位
断面修復工	上部工	主桁	A1～A2
		床版	A1～A2
		地覆	A1～A2
ひび割れ補修工	上部工	主桁	A1～A2
表面保護工		主桁	A1～A2
		床版	A1～A2
簡易舗装工		舗装	A1～A2
伸縮装置補修工（止水対策）		伸縮装置	A1、A2
U字溝(ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ付)撤去再設置		排水構造物	A2
既設舗装撤去、舗装止めｺﾝｸﾘｰﾄ		舗装	A1
水切り設置工		地覆	A1～A2

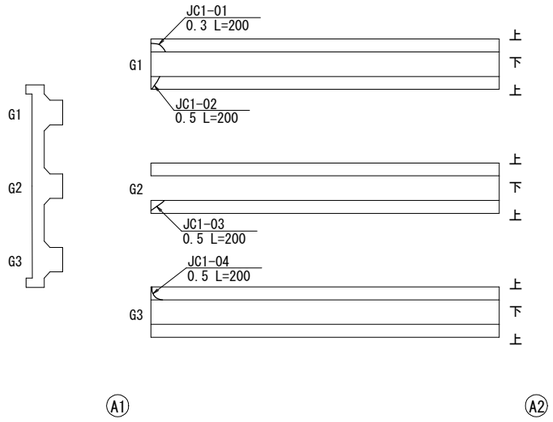
注記）
1. 本図面は、現地計測および既存資料を基に作成したものである。
2. 工事の際は、現地計測を十分に実施した上で、数量の補正等を行うこと。

実　施

工事番号			
路線名	市道　小一郎作河原線		
施工地名	角田市島田字広畑　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	広畑橋　補修一般図		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	33 / 40

広畑橋　上部工ひび割れ補修工図　S=1:50

桁下面



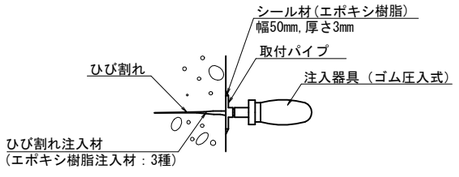
ひび割れ注入工　数量表

（1橋当り）

No.	補修箇所	幅(mm)	長さ(m)	深さ(m)	箇所数	延長(m)	注入材(kg)	ｼｰﾙ材(kg)	注入器具(個)
JC1-01	主桁	0.30	0.200	0.100	1	0.20	0.007	0.051	1
JC1-02		0.50	0.200	0.100	1	0.20	0.012	0.051	1
JC1-03		0.50	0.200	0.100	1	0.20	0.012	0.051	1
JC1-04		0.50	0.200	0.100	1	0.20	0.012	0.051	1
第1径間（A1～A2）小計						0.80	0.043	0.204	4
合計						0.80	0.043	0.204	4

（ひび割れ幅 0.2mm以上1.0mm未満）

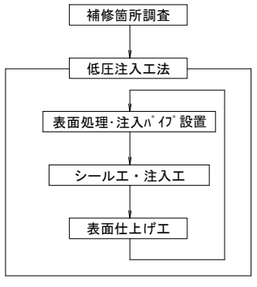
低圧注入工法 詳細図



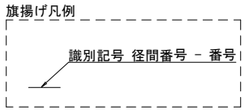
注入器具取付け間隔

ひび割れ幅	間隔
0.2mm～1.0mm	300mm

施工手順



旗揚げ凡例



識別記号一覧表

	施工箇所	補修項目
JC0-00	上部工	低圧注入工法

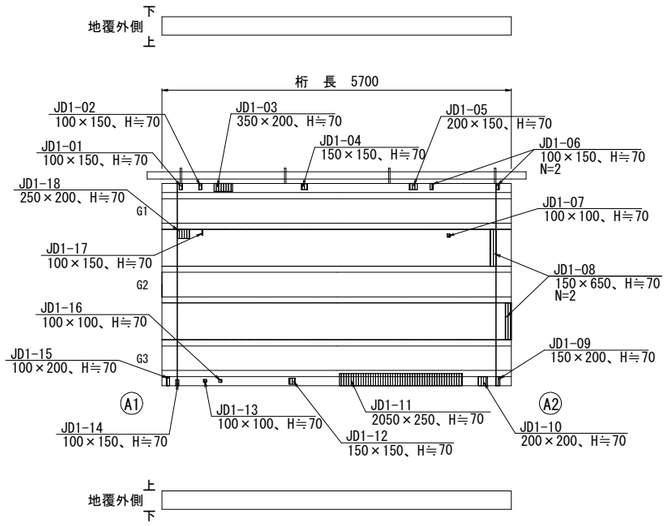
注記）1. 施工時は、現地寸法を確認すること。
2. ひび割れ補修の範囲は、過年度橋梁点検及び現地調査に基づき決めているが、工事に際しては、劣化範囲の進展の可能性があるため劣化状況を確認すること。
3. 劣化範囲の拡大や新たな劣化部がみられた場合には、施工範囲について監督職員と協議すること。

実　施

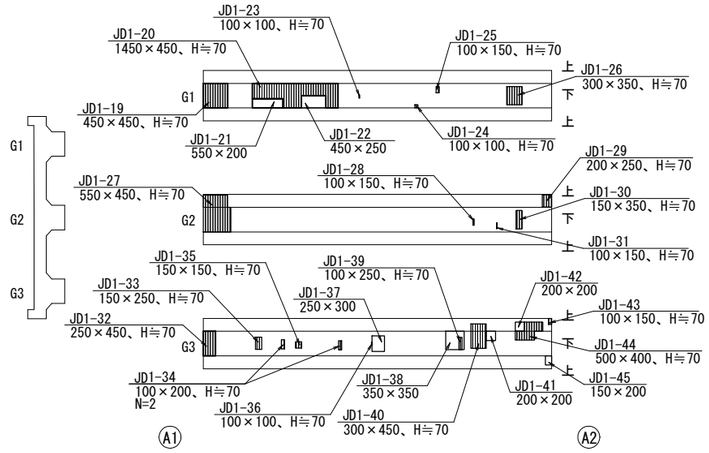
工事番号			
路線名	市道　小一郎作河原線		
施工地名	角田市島田字広畑　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	広畑橋　上部工ひび割れ補修工図		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	34 / 40

広畑橋　上部工断面修復工図　S=1:50

桁下面

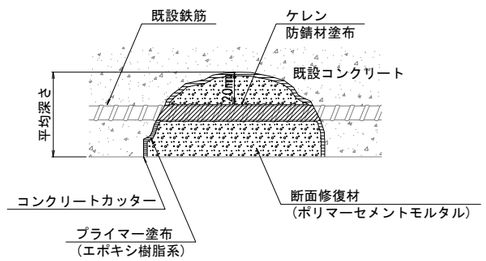


（主桁3面）



断面修復工詳細図（参考）
（鉄筋ケレン・防錆処理を含む場合）

鉄筋露出

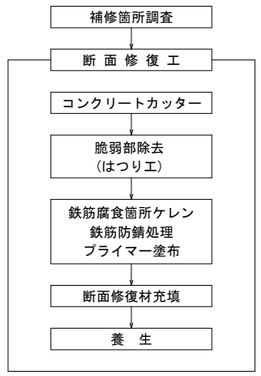


※ コンクリートのはつりは、損傷部を囲む長方形の範囲に対して深さ10mm程度コンクリートカッターにより切込みを入れる。

※ 脆弱部および鋼材の裏側までコンクリートをはつり取る。

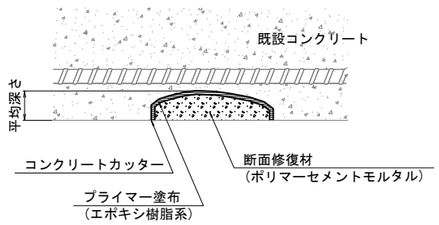
※ 腐食した鋼材の錆を完全に除去する。

施工手順



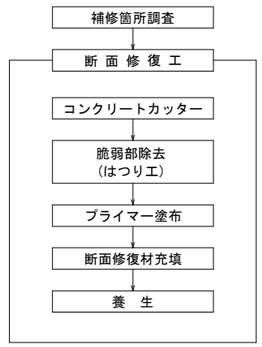
断面修復工詳細図（参考）
（鉄筋ケレン・防錆処理を含まない場合）

コンクリート剥離、うき

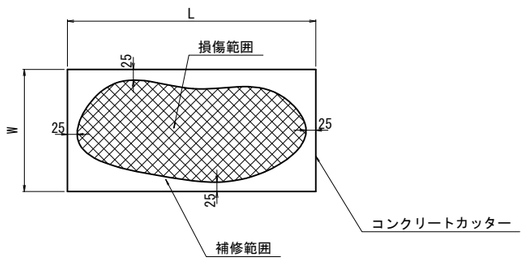


※ コンクリートのはつりは、損傷部を囲む長方形の範囲に対して深さ10mm程度コンクリートカッターにより切込みを入れる。

施工手順



断面修復範囲図

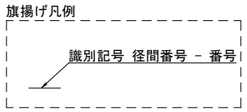


※ 損傷部より25mm程度の余裕を確保し、5cmラウンドの長方形の範囲に対して断面修復を行う。

補 修 の 凡 例

補修の種類	表　示
鉄筋ケレン・防錆処理 有り	
鉄筋ケレン・防錆処理 無し	

旗揚げ凡例



識別記号一覧表

	施工箇所	補修項目
JD0-00	上部工	断面修復工法

断面修復工 数量表（鉄筋ケレン・防錆処理含む）　（1橋当り）

No.	補修箇所	幅(m)	長さ(m)	深さ(m)	箇所数	面積(m2)	体積(m3)
JD1-01	地覆	0.100	0.150	0.070	1	0.015	0.0011
JD1-02		0.100	0.150	0.070	1	0.015	0.0011
JD1-03		0.350	0.200	0.070	1	0.070	0.0049
JD1-04		0.150	0.150	0.070	1	0.023	0.0016
JD1-05		0.200	0.150	0.070	1	0.030	0.0021
JD1-06		0.100	0.150	0.070	2	0.030	0.0021
JD1-07	床版	0.100	0.100	0.070	1	0.010	0.0007
JD1-08		0.150	0.650	0.070	2	0.195	0.0137
JD1-09	地覆	0.150	0.200	0.070	1	0.030	0.0021
JD1-10		0.200	0.200	0.070	1	0.040	0.0028
JD1-11		2.050	0.250	0.070	1	0.513	0.0359
JD1-12		0.150	0.150	0.070	1	0.023	0.0016
JD1-13		0.100	0.100	0.070	1	0.010	0.0007
JD1-14		0.100	0.150	0.070	1	0.015	0.0011
JD1-15		0.100	0.200	0.070	1	0.020	0.0014
JD1-16		0.100	0.100	0.070	1	0.010	0.0007
JD1-17	床版	0.100	0.150	0.070	1	0.015	0.0011
JD1-18		0.250	0.200	0.070	1	0.050	0.0035
JD1-19	主桁	0.450	0.450	0.070	1	0.203	0.0142
JD1-20		1.450	0.450	0.070	1	0.653	0.0457
JD1-23		0.100	0.100	0.070	1	0.010	0.0007
JD1-24		0.100	0.100	0.070	1	0.010	0.0007
JD1-25		0.100	0.150	0.070	1	0.015	0.0011
JD1-26		0.300	0.350	0.070	1	0.105	0.0074
JD1-27		0.550	0.450	0.070	1	0.248	0.0174
JD1-28		0.100	0.150	0.070	1	0.015	0.0011
JD1-29		0.200	0.250	0.070	1	0.050	0.0035
JD1-30		0.150	0.350	0.070	1	0.053	0.0037
JD1-31		0.100	0.150	0.070	1	0.015	0.0011
JD1-32		0.250	0.450	0.070	1	0.113	0.0079
JD1-33		0.150	0.250	0.070	1	0.038	0.0027
JD1-34		0.100	0.200	0.070	2	0.040	0.0028
JD1-35		0.150	0.150	0.070	1	0.023	0.0016
JD1-36		0.100	0.100	0.070	1	0.010	0.0007
JD1-39		0.100	0.250	0.070	1	0.025	0.0018
JD1-40		0.300	0.450	0.070	1	0.135	0.0095
JD1-43		0.100	0.150	0.070	1	0.015	0.0011
JD1-44		0.500	0.400	0.070	1	0.200	0.0140
					第1径間（A1～A2）小計	3.090	0.2169
					合計	3.090	0.2169

断面修復工 数量表（鉄筋ケレン・防錆処理含まない）（1橋当り）

No.	補修箇所	幅(m)	長さ(m)	深さ(m)	箇所数	面積(m2)	体積(m3)
JD1-21	主桁	0.550	0.200	0.030	1	0.110	0.0033
JD1-22		0.450	0.250	0.030	1	0.113	0.0034
JD1-37		0.250	0.300	0.030	1	0.075	0.0023
JD1-38		0.350	0.350	0.030	1	0.123	0.0037
JD1-41		0.200	0.200	0.030	1	0.040	0.0012
JD1-42		0.200	0.200	0.030	1	0.040	0.0012
JD1-45		0.150	0.200	0.030	1	0.030	0.0009
					第1径間（A1～A2）小計	0.531	0.0160
					合計	0.531	0.0160

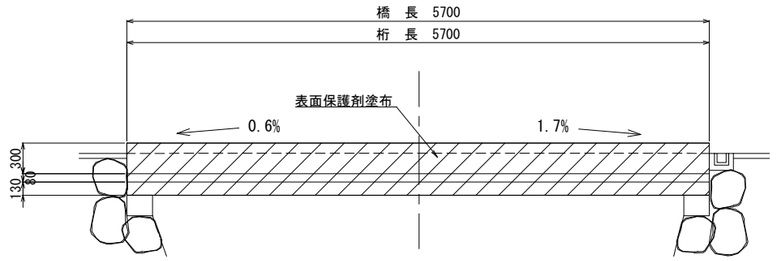
注記）1. 施工時は、現地寸法を確認すること。
2. 断面修復の範囲は、過年度橋梁点検及び現地調査に基づき決めているが、工事に際しては、劣化範囲の進展の可能性があるため劣化状況を確認すること。
3. 劣化範囲の拡大や新たな劣化部がみられた場合には、施工範囲について監督職員と協議すること。

実施

工事番号			
路線名	市道　小一郎作河原線		
施工地名	角田市島田字広畑　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	広畑橋　上部工断面修復工図		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	35 / 40

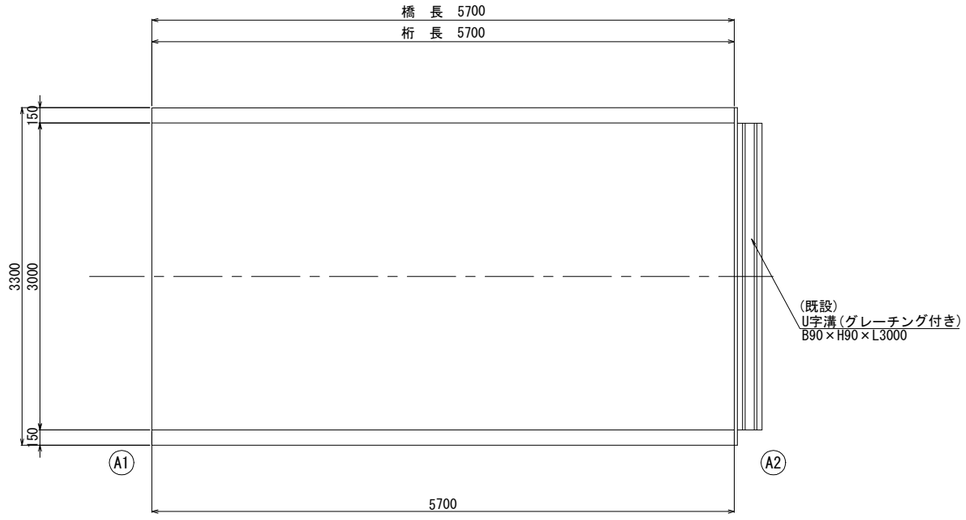
広畑橋 表面保護工図 S=1:30

側面図



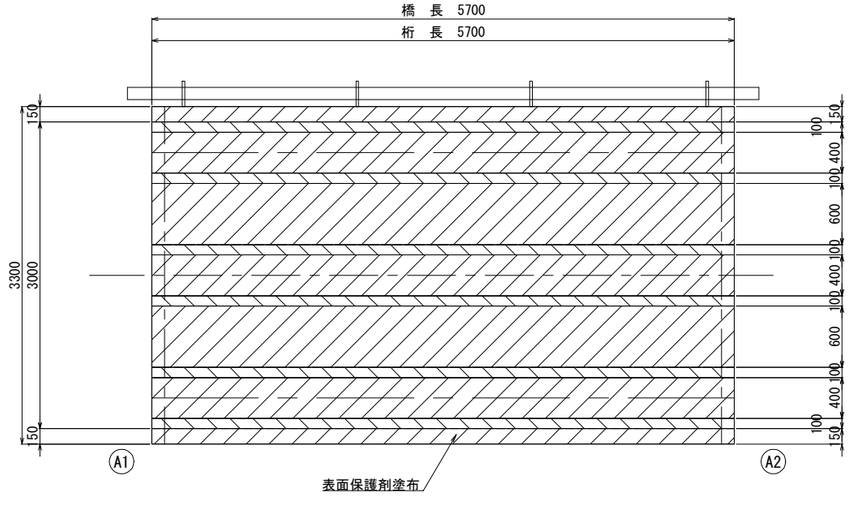
平 面 図

橋面

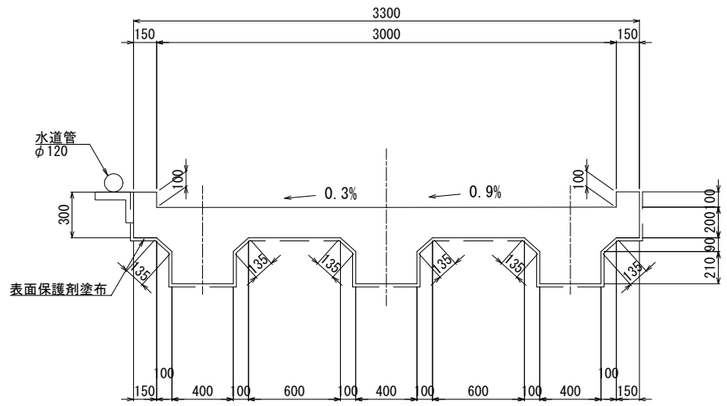


平 面 図

桁下面

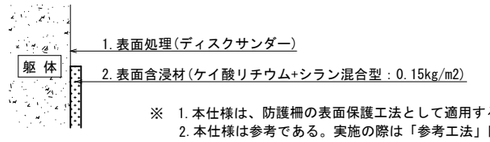


断面図 S=1:20



表面含浸工法断面図

(参考工法)



※ 1. 本仕様は、防護柵の表面保護工法として適用する。
2. 本仕様は参考である。実施の際は「参考工法」同等品を採用すること。

表面保護工 数量表

(1橋当り)

工 種	項 目	規格・寸法	単位	数 量
表面保護工	表面含浸材	施工面積	m2	30.6
		塗布量(ケイ酸リチウム+シラン混合型 : 0.15kg/m2)	kg	4.6

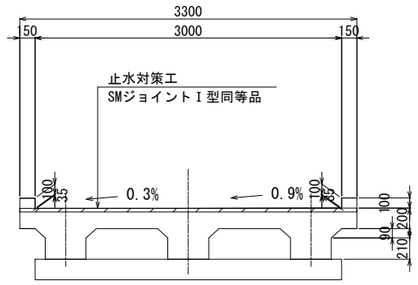
注記) 1. 施工前、各工種とも現地詳細調査を実し、
施工寸法および数量を確定すること。

実 施

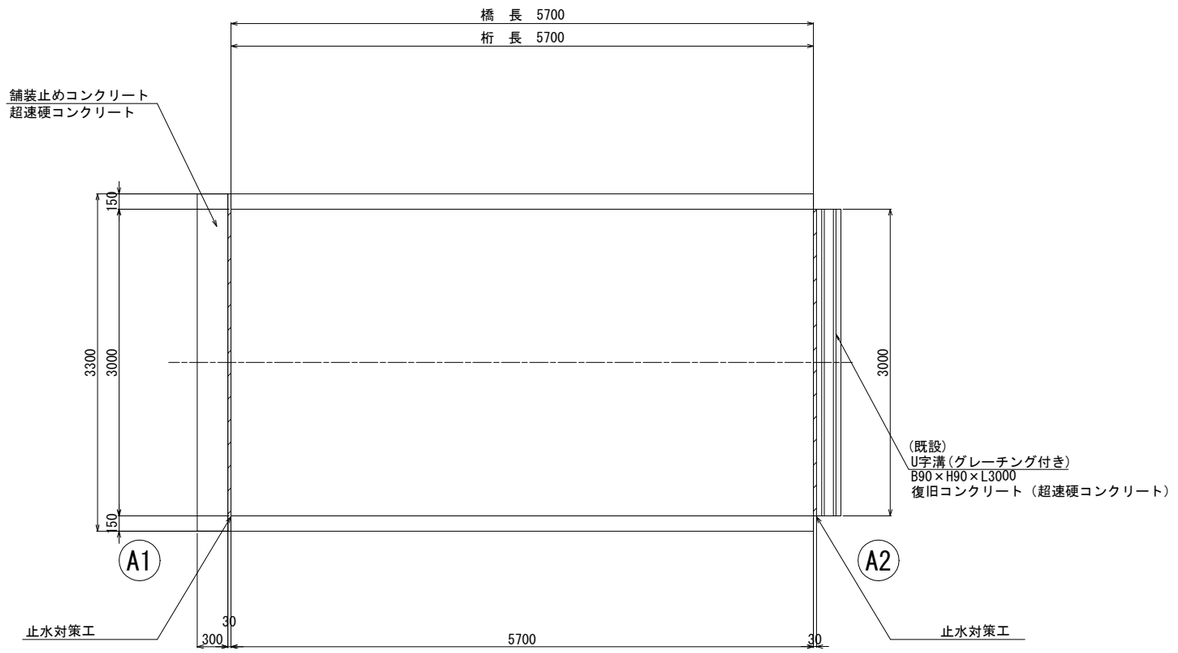
工事番号			
路線名	市道 小一郎作河原線		
施工地名	角田市島田字広畑 地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	広畑橋 表面保護工図		
縮尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	36 / 40

広畑橋 伸縮装置補修工図（止水対策工）S=1:30

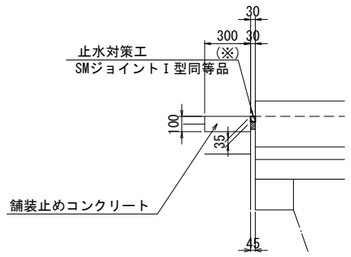
断面図 S=1:30



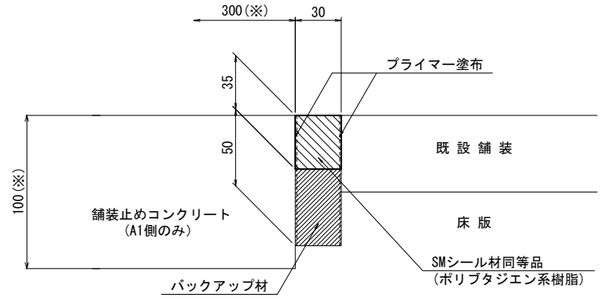
平面図 S=1:30



地覆部詳細図 S=1:20

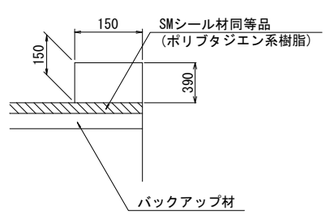


止水対策工 S=1:2

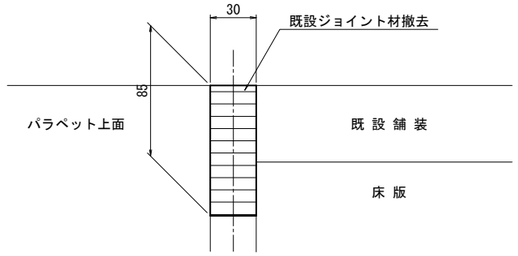


※現地状況に合わせ調整すること。

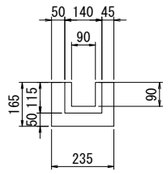
地覆部詳細図 S=1:10

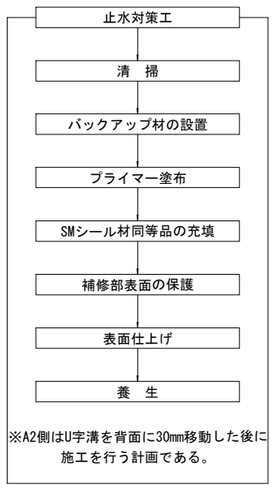


既設撤去工 S=1:2



U型溝撤去・復旧工 S=1:10





※A2側はU字溝を背面に30㎜移動した後に施工を行う計画である。

止水対策工 数量表

(1橋当り)

名 称	品 名	単位	数 量	備 考
補修延長	SMジョイントＩ型同等品	m	6.30	
SMシール材同等品	ポリブタジエン系樹脂	ﾘｯﾄﾙ	6.62	
プライマー	専用プライマー	ﾘｯﾄﾙ	0.44	
バックアップ材	ウレタンフォーム	m	6.30	
舗装止めコンクリート	超速硬コンクリート	m3	0.10	
舗装止めコンクリート用型枠		m2	0.33	
既設撤去	舗装材	m3	0.11	
	カッター工	m	0.63	
	U字溝 B90xH90	m	3.00	
	既設コンクリート	m3	0.07	
復旧工	U字溝 B90xH90	m	3.00	
	コンクリート（超速硬コンクリート）	m3	0.07	
	型枠	m2	1.04	
殻処分	Co殻	m3	0.09	参考重量0.39t
	As殻	m3	0.11	参考重量0.25t

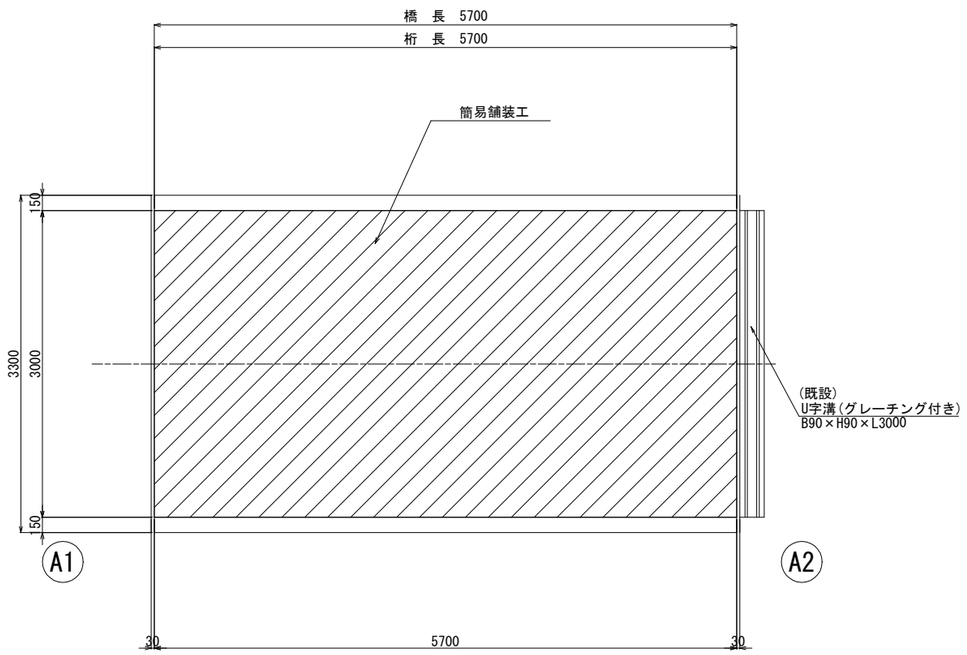
注記）
1.施工に関しては、現地寸法を確認のこと。

実 施

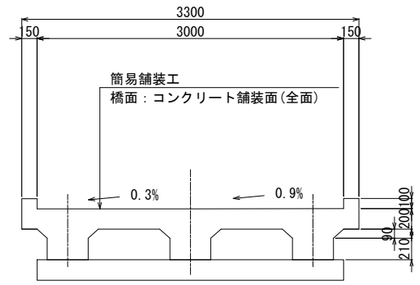
工事番号			
路線名	市道 小一郎作河原線		
施工地名	角田市島田字広畑 地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	広畑橋 伸縮装置補修工図（止水対策工）		
縮尺		位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	37 / 40

広畑橋 簡易舗装工図　S=1:30

平 面 図

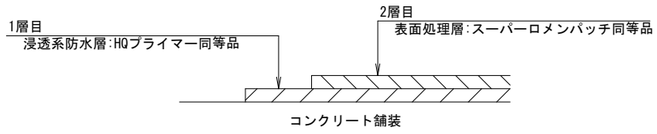


上部工断面図



簡易舗装工仕様

スロメDN工法(相当)



簡易舗装工　数量表

(1橋当り)

工　種	項　目	規格・寸法	単位	数　量
簡易舗装工	防水層塗布	スロメDN工法(相当) t=5mm	m2	17.1

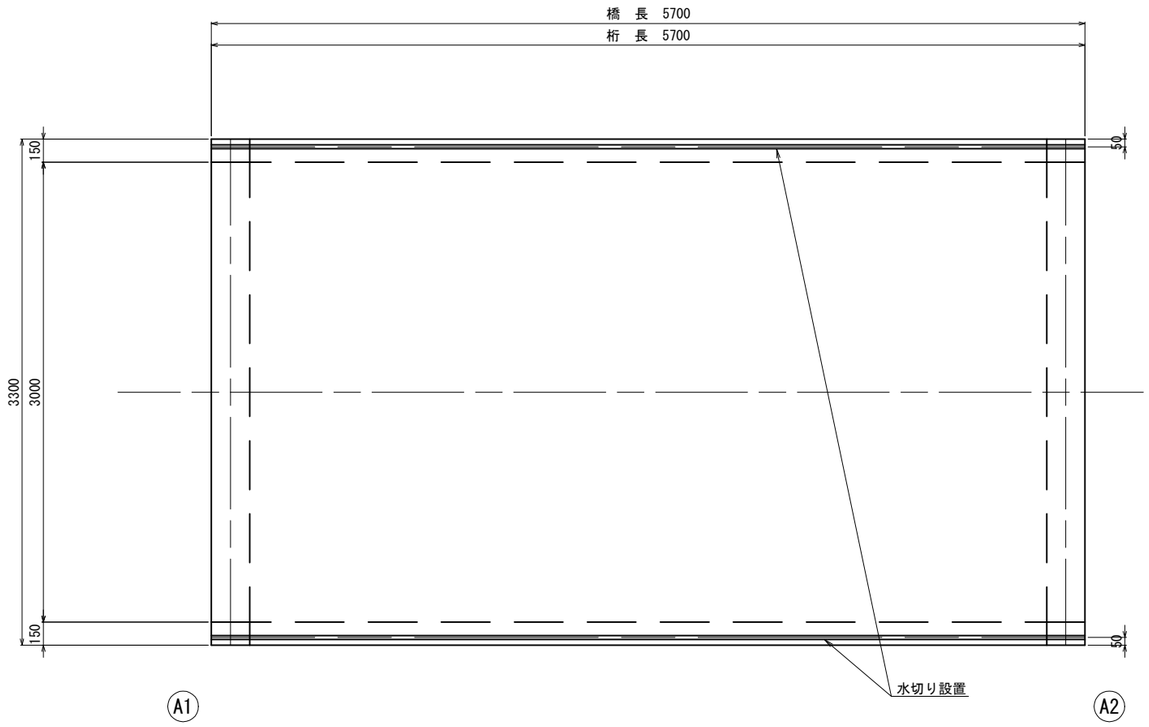
注記）1.施工前、各工種とも現地詳細調査を実し、
施工寸法および数量を確定すること。

実 施

工事番号			
路線名	市道　小一郎作河原線		
施工地名	角田市島田字広畑　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	広畑橋 簡易舗装工図		
縮尺	S=1:30	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	38 / 40

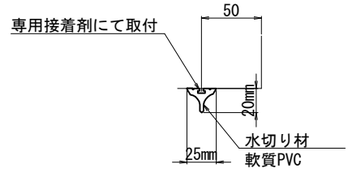
広畑橋 水切り設置工図 S=1:20

平面図

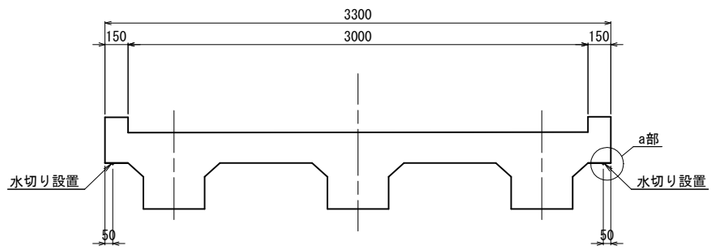


水切り詳細図 S=1:1

（a部）



上部工断面図



水切り設置工 数量表

（1橋当り）

工 種	項 目	規格・寸法	単位	数 量
水切り設置工	設置延長	軟質PVC、専用接着剤にて取付	m	11.4

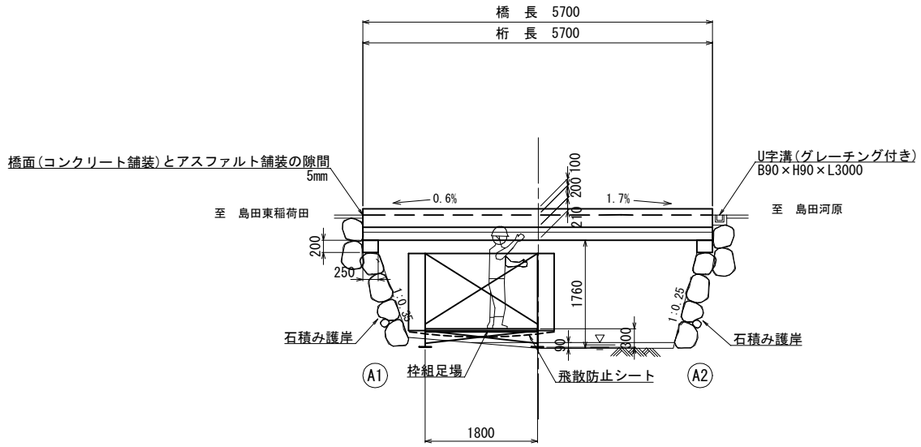
注記）
1. 本図面は、現地計測および既存資料を基に作成したものである。
2. 工事の際は、現地計測を十分に実施した上で、数量の補正等を行うこと。
3. 表面保護工施工の前に設置すること。

実 施

工事番号			
路線名	市道 小一郎作河原線		
施工地名	角田市島田字広畑 地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	広畑橋 水切り設置工図		
縮尺	S=1:20	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	39 / 40

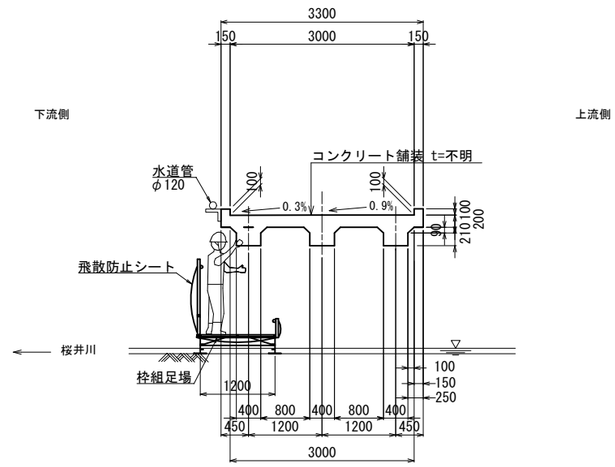
広畑橋 足場工図【参考図】 S=1:50

側面図

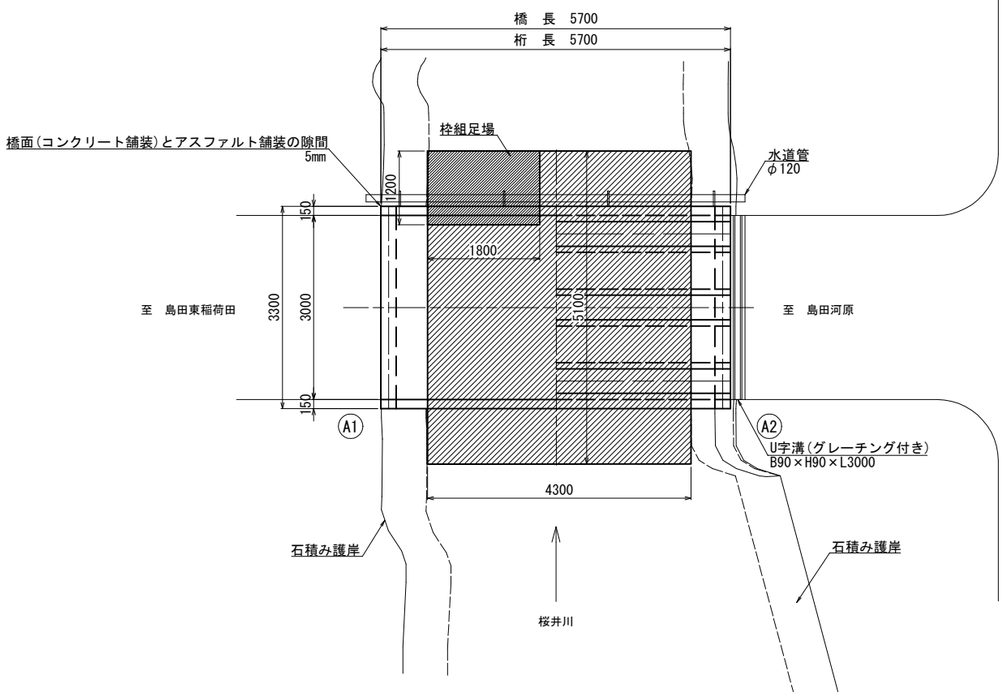


※足場は移動して使用する。

断面図



平面図





足場工 数量表

(1橋当り)

工　種	項　目	規格・寸法	単位	数　量
足場工	枠組足場		掛m2	1.3

注記）
1. 本図面は、現地計測および既存資料を基に作成したものである。
2. 工事の際は、現地計測を十分に実施した上で、数量の補正等を行うこと。

実　施

工事番号			
路線名	市道　小一郎作河原線		
施工地名	角田市島田字広畑　地内		
工事名	令和8年度 日高橋外2橋 橋梁補修工事		
図面名	広畑橋　足場工図【参考図】		
縮　尺	S=1:50	位置	
設計者		設計年度	
宮城県角田市		図番	40 / 40